◎不具合重要度

重要度	説明	補足
AA	通常運用で発生する可能性のある重大問題(*)である。	
A	重大問題(*)ではあるが、通常運用では問題とならない。	(*)システムダウン(ユーザ通信あるいは主要制御がスタック)や実害(アプリケーション断、通話断)を伴う基本機能の不具合で、回避手段が無い不具合。
B	影響度は低い。あるいは回避手段がある。	
C	表示上の問題。あるいは軽微な問題である。	

■現バージョンでの制限事項

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OSPFv2	B	OSPFv2にて、他のルーティングプロトコルによる数千経路もの大量な経路の受信時にnssa-rangeコマンドにより経路の集約を行った場合に、広告されている経路が削除されずに広告され続けてしまう可能性があります。 <回避策> 集約元の経路が広告されます。 経路数が増えますが、運用には影響ありません。 clear ip ospf processで復旧します。	Ver.10.5.33以前	-

■Ver.10.5 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	B	アドレス自動設定(ipv6 address autoconfig)が有効状態で、IPv6アドレス変化時にリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.5.33以前	Ver.10.5.35以降
2	IKEv2	B	ダイナミックVPNにてMTU無視(ikev2 ipsec mtu ignore)を設定した場合に、DFビットONのMTUサイズを超えたパケットを受信してもフラグメントされない問題を修正しました。 内部的にDFビット強制OFFとして動作する仕様ですが、DFビットONのMTUサイズを超えるパケットを受信してもフラグメントせずに送信します。 <回避策> 「ip forced-fragment」コマンドを設定してください。	Ver9.2.20～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
3	URL-Filter	B	HTTP/HTTPSパケット内の宛先ドメインに大文字が含まれる場合、URLオフロードのデータベースのURL(ドメイン)指定やURLリストのドメイン指定にマッチせず、URLオフロードおよびURLフィルタリングが正常に動作しない問題を修正しました。 <回避策> ドメイン名に大文字を含む場合にはURLリストにIPアドレスを指定してください。	Ver9.4.15～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
4	IPsec	B	PPPoE(no auto-connect)上でIPsec(IKEv1/IKEv2)使用時、IPsecパケット送信時にPPPoEの無通信時間がクリアされない問題を修正しました。 通信がIPsecパケット送信のみの場合、またはPPPoEインタフェースのidle-timeコマンドの監視方向設定をoutboundに指定した場合は、idle-time時間経過後に PPPoEが切断されます。 <回避策> IKE keepalive送信を行ってください。	Ver.10.5.33以前	Ver.10.5.35以降
5	NetMeister	B	IPsecが切断されても、NetMeisterの装置情報の「VPN」タブの「最終切断日時」に切断日時が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 「最終切断日時」は「show nm information」コマンドで確認してください。	Ver10.2.16～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
6	ARP	B	SNMPマネージャからgetnextで複数インタフェースのARPエントリMIBを取得した場合、最初のインタフェースのARPエントリのIPアドレスよりもその後に続くインタフェースのARPエントリのIPアドレスが小さい場合、該当のインタフェースのARPエントリを取得できない問題を修正しました。 <回避策> getにて値を取得してください。もしくは、後のインタフェースのIPアドレスが大きくなるようにIPアドレスを設定してください。	Ver.10.2.35, Ver.10.5.22	Ver.10.5.35以降
7	URL-Offload	B	自ルータをNetMeister親機として設定されている場合、対象のNetMeister子機のNetMeister通信がURLオフロード対象にならない問題を修正しました。 <回避策> NetMeister子機のNetMeister通信はURLオフロード対象にはなりませんが、NetMeister宛のパケットに経路到達性がある場合は、NetMeisterとの通信は可能です。 NetMeister親機以外にIXあるいはWAが存在する場合は、そのルータにてURLオフロードすることもできます。	Ver10.5.13～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
8	NetMeister	B	NetMeisterのコマンド実行にて、設定済みのVRF名でBGPのピアグループを設定した場合、ベースルータにも同じピアグループが作成される問題を修正しました。 <回避策> VRFのピアグループを設定する場合は、CLI(コンソール、telnet)にて設定してください。	Ver9.2.20～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
9	NAT	B	NATアクセスログのタイプを"normal"に設定し、IPアドレスの桁数が「XXX.XXX.XXX.XXX」のように15文字となるログアクセス開始のログが発生した場合、メモリの不正アクセスが発生する問題を修正しました。 <回避策> NATアクセスログのタイプを"compact"に設定してください。	Ver9.2.20～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
10	ACL	B	IPv4/IPv6アクセスリストの最適化オプション(option optimize)設定時、アクセスリスト名に大文字が含まれている場合、ワイルドカードを指定してもエラーとならない問題を修正しました。 また、設定後には装置がリブートする可能性があります。 <回避策> 最適化オプションを使用する場合は、アクセスリスト名は小文字を使用してください。または、ワイルドカードは設定しないでください。	Ver9.6.12～ Ver.10.5.33	Ver.10.5.35以降
11	DMVPN	B	TunnelインタフェースにGRE over IPsecトンネルを設定した直後および再起動直後、インタフェースMTU値が正常値よりもGREヘッダサイズ分大きい値となる問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には一旦IPsec SAを削除し、IPsecを切断した後に再度IPsec接続を行うことで正しい値となります。	・IKEv1 :Ver8.6.22版以降 ・IKEv2 :Ver9.2.20版以降	Ver.10.5.35以降
1	URL-Offload	B	URLオフロード使用時、NetMeisterからURLオフロードのデータベースの保存を一度も実行していない場合に、route-mapでのURLオフロードの負荷が上昇する問題を修正しました <回避策> NetMeisterからURLオフロードのデータベースを取得してください。	Ver9.4.15～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
2	MP-BGP	B	BGP隣接機器が再起動中であるなどのデータ送信ができない状態にもかかわらず、大量の経路情報を送信しようした場合に、ホールドタイマの満了を検出してもBGPのピアが3分程度EASTBLISHEDのままとなる問題を修正しました。 <回避策> ホールドタイマ満了の検出後3分程度でピアはダウンとなり、その後は正常に動作します。	Ver.10.5.30以前	Ver.10.5.33以降
3	Socket	B	複数のWindows端末等からプロキシ設定のPACファイル取得を同時に行うような環境でPACファイルが取得が行なえない場合がある問題を修正しました。プロキシ設定が取得できない状態となった端末は、その後も復旧ができず、インターネット接続に失敗します。 <回避策> 大量の端末から同時にPACファイルの取得を行わないでください。問題が発生した場合は「http-server restart」コマンドを実行してください。 但し、問題が発生する条件となる確率は極めて低いために、実際の運用で問題になることはほぼありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降

4 URL-Offload	B	URLオフロードの proxy-config pac-file で指定したPACの取得において、「404 NotFound」などHTTP応答ありの失敗になった場合、そのエラー応答のhtmlをベースにPACファイルが作成されるためにPACファイルの内容が不正となり、その後はURLオフロードが動作しない問題を修正しました。 <回避策> 外部から取得したファイルをベースにPACファイルを生成する場合には、ファイル取得時にエラーが発生しないようにしてください。 エラー発生時は、エラーが発生しない状態で再度PACファイルの取得を行ってください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
5 NetMeister	B	NetMeisterのコマンド実行から、途中に空行を含むコマンドを実行した場合、空行以降のコマンドが実行されない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterからコマンド実行を行う場合は、空行を含めないでください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
6 IPv4	B	Tunnelインタフェースにて「tunnel df-bit ignore」を設定してもDFビットが設定されてしまい、カプセル化時にMTUを超えてもフラグメントされない問題を修正しました。 <回避策> 「ip forced-fragment」コマンドを設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
7 Tunnel	B	「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合に、「clear tunnel status」コマンドを実行するとトンネルインタフェースがdownしたままとなる問題を修正しました。 <回避策> 「tunnel destination」コマンドにてFQDN指定している場合には、「clear tunnel status」コマンドを実行しないでください。また、問題発生時には、「tunnel destination fqdn」の設定を一度削除し、再度設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
8 SNMP	B	インタフェースに「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを設定した後に保存・再起動を行うと、グローバルコンフィグにも「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> アクセスリスト指定により、アクセス先を制限してください。装置の再起動後に、グローバルコンフィグの「snmp-agent ip enable/snmp-agent ipv6 enable」コマンドを削除してください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
9 URL-Offload	B	URLデータは、データベースにそのまま形式で登録されるため、"*"が複数存在する状態で登録されたURLデータは正常にURLオフロードが動作しない問題を修正しました。 仕様上の動作として、一番右の"*"より左の文字列は全て無視してデータベースに登録されます。 <回避策> NetMeisterの追加URL指定には、"*"を1つのみ指定したURLデータを登録してください。	Ver.10.1.15～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.33以降
1 ProxyDNS	B	プロキシDNS使用時、TCPによる端末からのDNSクエリを処理中にサーバからのTCPセグメント(TCPパケット)を端末に対して送信しても、端末からその応答を受信できなかった場合にリブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・プロキシDNSを使用せず、IX配下の端末からDNSサーバに直接問い合わせるようにする ・端末からのDNSの問い合わせをUDPで行う。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
2 APA	B	URLオフロードまたはアプリケーション解析機能使用時、以下を実行した際にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 ・アドレスキャッシュ、セッションキャッシュのクリアを実行する。 <回避策> 以下により回避可能となります。 ・clear url-offload address-cacheコマンド、または clear url-offload session-cacheコマンドを実行しない。	Ver.9.4.15～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
3 DHCPv6	B	IPv6でIPsec(IKEv2)を冗長している場合、一方の回線のアドレス(アウター)が変更されると、アドレスが変更されていない送信元アドレスを使用しているIPsecが切断されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
4 WebUI	C	基本インタフェースがshutdown状態のとき、WANにPPPoEを設定してGREで接続している場合、接続状態であってもWebコンソールのVPN情報の接続状態が「接続されていません」と表示される問題を修正しました。 <回避策> GigaEthernet0.0インタフェースをno shutdownとしてください。	Ver.10.3.21, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
5 SSH	B	SSHパケット受信時にメッセージタイプが不正な値となっている場合、不正な内部処理を実行しリブートする場合がある問題を修正しました。 本問題は内部状態にも依存するため、発生頻度は不定になります。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・SSHサーバ機能(ssh-server ip enable)を使用しない。 ・特定のアドレスからのみSSHの受信を可能とする。	Ver.8.7.22～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
6 ZTP	B	NetMeister接続設定がある状態で、ゼロタッチプロビジョニング機能が有効の場合、再起動後にNetMeisterとの通信時に403 forbidden となり通信に失敗する場合が場合がある問題を修正しました。 <回避策> 再起動しても本現象が発生する場合は、ゼロタッチプロビジョニング機能を無効化し、コンフィグをルータに保存して再起動してください。	Ver10.4.14～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降

7 ZTP	B	IPv6にてNetMeisterに接続する環境にて、GigaEthernet0.0にIPv6アドレスが付与されない状態 (DHCPv6-PDやNDプロキシでGigaEthernet0.0以外にアドレスを付与する場合も含みます)で、ゼロタッチプロビジョニング機能を動作させた場合、ゼロタッチプロビジョニングが終了しない問題を修正しました。 本問題が発生していてもコンフィグのダウンロードは成功しており、動作には影響ありません。 <回避策> GigaEthernet0.0にIPv6アドレスが付与されない場合は、以下の手順にて、ゼロタッチプロビジョニングを使用してください。 1. ゼロタッチプロビジョニングでダウンロードするコンフィグには、 nm provisioning enableを設定しないようにする。 2. 起動時のコンフィグにnm provisioning enableを設定する。 3. MODEスイッチをOFFにして、再起動する。 4. ゼロタッチプロビジョニングを毎回実行するモードの場合は、再起動後、nm provisioning enableコマンドを入力し、ゼロタッチプロビジョニング有効にする。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
8 UTM	C	WebコンソールのUTM基本設定ページにて、以下の「ライセンスキー」の設定を変更した場合、 「反映」ボタンを実行した直後に遷移する画面上で「ライセンスキー情報」の「ライセンス満了日時」に設定変更前のライセス 情報が表示される問題を修正しました。 ・UTMライセンス自動設定機能有効 → ライセンスキー手動入力設定 ・ライセンスキー手動入力設定 → UTMライセンス自動設定機能有効 ・ライセンスキー手動入力設定 → 別ライセンスキー手動入力設定 <回避策> Webコンソールの表示問題であり、実際の運用に影響はありません。 また、本題発生時には表示更新ボタンを押すことにより、正しい情報が表示されます。	Ver.10.0.14～ Ver.10.5.30	Ver.10.5.31以降
1 Tunnel	B	Biglobe IPv6オプション、OCNバーチャルコネクト(動的IP)回線接続時、IPv4通信ができない場合がある問題を修正しました。 本問題は払い出されるMAPルールに依存します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.5.27	Ver.10.5.28以降
1 WebUI	B	装置起動中に装置に対してWebアクセスを行うと、コンフィグ読み込みが中断されコンフィグの一部が反映されない場合がある問題を修正しました。 Webコンソールから再起動した場合、起動中にWebアクセスを行うため 発生しやすくなります。 <回避策> 装置起動中はWebアクセスを行なわないでください。 Webから装置再起動を行なった場合は、ブラウザを閉じてください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
2 Tunnel	B	OCN バーチャルコネクト 固定IPモード使用時、プロバイダの動作仕様に準拠していない処理を修正しました。運用での動作に影響はありません。 <回避策> 本問題による通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
3 Tunnel	B	OCN バーチャルコネクト 固定IPモード使用時にMAP-E設定にてhostname指定した場合、以下を行った後に指定したホスト名にて DDNS通知を行わなくなる問題を修正しました。 ・clear map-e statusコマンドを実行 ・WAN側インタフェースがdown状態 (LAN側にIPv6アドレスが付与されている場合はLAN側も該当します) <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 問題が発生した場合は、該当のトンネルインタフェースの設定を一旦 削除し再設定を行ってください。(no tunnel modeコマンド実行) ・clear map-e statusコマンドを実行しない。 ・該当のインタフェースのdeviceモードでno keepaliveコマンドを 設定し、インタフェースがdownしないようにする。	Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
4 WebUI	B	NetMeisterおよびWebコンソールから任意コマンドによって情報を取得 する際、結果取得に20秒以上要する場合、情報取得に失敗する場合が問題を修正しました。1コマンドの結果表示に20秒以上要する場合に 本問題が発生します。 <回避策> ローカルコンソール、telnetまたはsshを使用し、コマンドを実行することで情報取得を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
5 SNMP	B	VRRPを有効にしてSNMPトラップ送信を設定していない状態のとき、VRRPがmasterへの遷移、または、VRRPの認証が失敗した場合に 768バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> VRRP設定時には、SNMPトラップ送信の設定を行ってください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
6 WebUI	B	Webコンソールでの設定時に「設定の確認」ページで設定情報が空で 表示され、そのまま実行すると誤ったコンフィグが設定されてしまう場合がある問題を修正しました。 本問題はMicrosoft Edgeのバージョンが99以降で発生頻度が高くなっています。 <回避策> 問題発生時には1ページ戻り、再度設定を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.5.22	Ver.10.5.27以降
1 IPv6	B	不正なIPv6パケット受信によりリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 該当パケットを受信した場合は発生しますが、通常の運用では発生しないパケットとなるために問題となることはありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.20	Ver.10.5.22以降

2 NetMon	B	ネットワークモニタでIPv6によるホスト監視を行い、さらにネットワークモニタのパケット送信インタフェースにIPv6 MSS調整コマンドを設定すると、パケットが送信されず、送信バッファリークとなる問題を修正しました。 送信バッファリークによるバッファ枯渇時は、ネットワークモニタ以外にも、全ての機能の自発パケットの送信が不可となります。 <回避策> ネットワークモニタのIPv6ホスト監視を行うインタフェースではIPv6 MSS調整は設定せず、ユーザパケットが通過する他のインタフェースで設定してください。	Ver.10.5.20以前	Ver.10.5.22以降
3 Tunnel	B	v6プラス使用時のMAP-Eサーバへの通知内容を修正しました。 <回避策> 本問題による通常の運用には問題ありません。	Ver.10.5.20	Ver.10.5.22以降
1 Tunnel	B	JPNE v6プラス、Biglobe IPv6オプション使用時、v6プラス動作が停止した際の停止動作報告を送付しない問題を修正しました。 <回避策> 本問題が発生しても運用に問題はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
2 OpenSSL	B	pki cert importコマンドにてssl-protocolオプション入力後、タブ補完、ヘルプ表示、改行によるエラー表示を行うとそれ以降IXルータのバージョンアップ機能の実行不可、またはメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> pki cert importコマンドにて"ssl-protocol"オプションの入力後、TAB補完や"?"によるヘルプ表示、改行等は行わずに、"ssl-protocol ssl3.0"まで入力してください。	Ver.10.5.13以前	Ver.10.5.20以降
3 Tunnel	B	OCNバーチャルコネクト(固定IP)にて、網側でリナンバリングが発生した場合に、MAP-Eトンネルが開始せず、IPv4通信ができない問題を修正しました。 <回避策> clear map-e statusコマンドにて復旧します。	Ver.10.3.21, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
4 SNMP	C	snmpv3 vrfコマンドにてVRFの最大文字列(31文字)が入力できない問題を修正しました。 <回避策> VRF名は30文字以下に設定してください。	Ver.10.4.14, Ver.10.4.19, Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
5 SNMP	C	SNMPv3を使用してGetBulkリクエストを行う場合、snmp-agent message-sizeコマンドの値をデフォルト値の1280より大きい値に設定し、GetBulkを実行すると100件までのMIBしか取得できない問題を修正しました。 <回避策> SNMPv3を使用してGetBulkを行う場合には、snmp-agent message-sizeコマンドの値はデフォルト値の1280以下で設定してください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
6 SNMP	B	SNMPv3においてmax-repetationsの数を多く設定し、GetBulkを実行するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・snmpbulkgetを使用しない。(get/walkでは事象は発生しません) ・getbulkを使用する場合は、出力行数を40行程度に抑える。 (SNMPマネージャからのgetbulkの出力行数を40行未満で指定してください)	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
7 WebUI	B	Webコンソール使用時に、以下の場合に4,472byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 ・proxy.pac以外の名前でpac取得 ・proxy.pac 未生成時にpac取得 <回避策> 正しいファイル名でPACファイルを取得してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
8 IPv4	B	IPsec環境にて、暗号化前のパケットがフラグメントされ、更に暗号化後にもフラグメントされた場合に、パケットに受信順序が入れ替わるとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 通信途中でフラグメントが発生しないようにMTUを小さめに設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
9 NetMeister	B	IXルータのメモリ残量が少ない状態でNetMeisterの装置登録・更新に失敗した場合にリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> IXルータのメモリ使用量が95%以上にならないように運用してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
10 NetMeister	B	NetMeister Prime未加入でNGN環境を利用している場合、NetMeisterのインベントリ情報収集機能の情報が表示されない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterと接続する場合は、IPv4を使用してください。	Ver.10.4.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
11 NetMeister	B	NetMeisterから以下の操作を行った場合、メモリリークが発生する問題を修正しました。 ・不正端末アラーム通知(4096byte) ・ダイナミックVPN設定(512byte) ・コマンド実行(表示) (14byte) ・コマンド実行(設定) (14byte) ・ライセンス登録 (最大51byte) ・リモートログイン (52byte) <回避策> "不正端末アラーム通知"については、リンクマネージャに登録されていない端末の通信を行う場合は、端末登録を行ってください。 その他のメモリークについては操作実行時のみ発生し、メモリリーク量も小さいために実際の運用に与える影響はほぼありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
12 Tunnel	B	JPNE v6プラス(動的IP)またはBiglobe IPv6オプションを利用しているとき、一部のエラー処理がサービス仕様に準拠していなかった問題を修正しました。 <回避策> 運用に影響はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.5.13	Ver.10.5.20以降
1 SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先グループについて、no snmpv3 groupコマンドを実行してもグループとユーザの設定が削除されない問題を修正しました。 <回避策> no snmpv3 vrfコマンドで個別にアドレスを削除した後にグループを削除するしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降

2 SNMP	B	SNMP設定コマンド入力の際にメモリ枯渇エラーを検出した場合、本来反映すべきではないSNMP設定が入力された状態となる問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
3 SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先アドレスを同じIPアドレスで2件以上設定した後、no snmpv3 groupまたはno snmpv3 userコマンドで設定を削除しても、再度削除されたユーザ名でユーザ設定を行うと削除されていたはずのIPアドレスへトラップが送信されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
4 SNMP	B	SNMP設定コマンド入力の際にメモリ枯渇エラーを検出した場合、設定した内容とその設定に関連する設定がコンフィグとして表示されなくなる問題を修正しました。 以下のコマンドで問題が発生します。 ・snmp-agent ip community（コミュニティの設定） ・snmpv3 group（グループの設定） ・snmpv3 user（ユーザの設定） <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
5 MP-BGP	B	BGPにおいて、peer-groupモードでneighborを個別アドレス指定設定した場合、BGPパケットを正しい送信インタフェースではなくGigaEthernet0.0へ送信するため、正しい宛先へパケットが送信されない問題を修正しました。 <回避策> BGPにおけるneighbor設定をpeer-groupモード内ではなくBGPコンフィグモードで行ってください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
6 WebUI	C	Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに「::」を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
7 WebUI	C	WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
8 WebUI	C	MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
9 NAT	B	MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、リブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
10 NAT	B	FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降
11 URL-Offload	B	URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
12 URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
13 URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト 両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。 ・URLオフロードのプロファイルごと削除する。	Ver.9.5.11～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
14 NetMeister	C	NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・peer-idの長さを統一する。 ・IKEv1ではなくIKEv2を利用する。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
15 SNMP	B	ネットワークモニタのトラップ(picoNetmonWatchgroupStatus)のOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・正：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.4.1 ・誤：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.3.1 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
16 TCP	B	TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCP パケットを受信すると、リブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降

17 Tunnel	B	OCNバーチャルコネクトの固定IP利用時、IPv6リナンバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。 <回避策> DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.5.13以降
18 Tunnel	B	MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
19 IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブを256秒以上に設定すると、設定したキープアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
20 NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「"」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「"」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
21 NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
22 DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
23 NetMeister	B	NetMeisterの通信において、その通信がNAPTによりアドレスやポートの変換が行われると、受信フィルタの回避がされない問題を修正しました。 NAPTでのアドレスやポートの変換は、主に以下の場合に行われます。 ・ip napt address コマンドで、NAPTで使用するアドレスを指定した場合 ・MAP-Eを使用した場合 ・source-addressコマンドで、LAN側のアドレスまたはインタフェースを指定した場合（NetMeisterのみ） ・ip napt serviceコマンドやip napt staticコマンドで1024以降のポートを指定した場合で、乱数で決まるsrc-portが指定したポートと一致した場合 <回避策> 受信フィルタ（ダイナミックフィルタを含む）を設定しているインタフェースで、NAPT変換前のアドレスが宛先を許可した静的な受信フィルタを設定してください。 設定例：nm source-address で指定したアドレスが宛先を許可	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
24 SNMP	C	clear snmp-agent statisticsコマンドを実行しても一部の統計情報がクリアされない問題を修正しました。 以下のパラメータが対象となります。 ・total reqvars ・total setvars ・traps <回避策> showコマンドで表示される統計情報がクリアできない問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
25 SNMP	B	以下のIKEv1 Phase1、Phase2 確立/停止のトラップに含まれるOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・pikeTunnelStart (IPv4), pikeTunnelStop (IPv4) - pikePeerLocalAddr - pikePeerRemoteAddr ・pikeTunnelStart (IPv6), pikeTunnelStop(IPv6) - pikePeerLocalAddr.idIpv6Addr - pikePeerRemoteAddr.idIpv6Addr <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
26 SNMP	B	以下のVRRPトラップに含まれているOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・vrrpTrapNewMaster - 正：1.3.6.1.2.1.68.0.1 - 誤：1.3.6.1.2.1.68.0.0.1 ・vrrpTrapAuthFailure - 正：1.3.6.1.2.1.68.0.2 - 誤：1.3.6.1.2.1.68.0.0.2 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降
27 TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17, Ver.10.4.14	Ver.10.5.13以降

■Ver.10.4 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先グループについて、no snmpv3 groupコマンドを実行してもグループとユーザの設定が削除されない問題を修正しました。 <回避策> no snmpv3 vrfコマンドで個別にアドレスを削除した後にグループを削除するしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
2	SNMP	B	VRFを関連づけたトラップ送信先アドレスを同じIPアドレスで2件以上設定した後、no snmpv3 groupまたはno snmpv3 userコマンドで設定を削除しても、再度削除されたユーザ名でユーザ設定を行うと削除されていたはずのIPアドレスへトラップが送信されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
3	MP-BGP	B	BGPにおいて、peer-groupモードでneighborを個別アドレス指定設定した場合、BGPパケットを正しい送信インタフェースではなくGigaEthernet0.0へ送信するため、正しい宛先へパケットが送信されない問題を修正しました。 <回避策> BGPにおけるneighbor設定をpeer-groupモード内ではなくBGPコンフィグモードで行ってください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
4	WebUI	C	Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに「::」を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
5	WebUI	C	WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
6	WebUI	C	MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
7	NAT	B	MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、リブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
8	NAT	B	FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
9	URL-Offload	B	URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
10	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
11	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト 両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。 ・URLオフロードのプロファイルごと削除する。	Ver.9.5.11～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
12	NetMeister	C	NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・peer-idの長さを統一する。 ・IKEv1ではなくIKEv2を利用する。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
13	SNMP	B	ネットワークモニタのトラップ(picoNetmonWatchgroupStatus)のOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・正：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.4.1 ・誤：1.3.6.1.4.1.119.2.3.84.7.1.1.1.3.1 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
14	TCP	B	TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCP パケットを受信すると、リブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
15	Tunnel	B	OCNバーチャルコネクトの固定IP利用時、IPv6リナンバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。 <回避策> DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。	Ver.10.4.14以前	Ver.10.4.19以降
16	Tunnel	B	MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降

17 IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブを256秒以上に設定すると、設定したキープアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
18 NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「"」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「"」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
19 NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
20 DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
21 NetMeister	B	NetMeisterの通信において、その通信がNAPTによりアドレスやポートの変換が行われると、受信フィルタの回避がされない問題を修正しました。 NAPTでのアドレスやポートの変換は、主に以下の場合に行われます。 ・ip napt address コマンドで、NAPTで使用するアドレスを指定した場合 ・MAP-Eを使用した場合 ・source-addressコマンドで、LAN側のアドレスまたはインタフェースを指定した場合（NetMeisterのみ） ・ip napt serviceコマンドやip napt staticコマンドで1024以降のポートを指定した場合で、乱数で決まるsrc-portが指定したポートと一致した場合 <回避策> 受信フィルタ（ダイナミックフィルタを含む）を設定しているインタフェースで、NAPT変換前のアドレスが宛先を許可した静的な受信フィルタを設定してください。 設定例：nm source-address で指定したアドレスが宛先を許可	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
22 SNMP	C	clear snmp-agent statisticsコマンドを実行しても一部の統計情報がクリアされない問題を修正しました。 以下のパラメータが対象となります。 ・total reqvars ・total setvars ・traps <回避策> showコマンドで表示される統計情報がクリアできない問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
23 SNMP	B	以下のIKEv1 Phase1、Phase2 確立/停止のトラップに含まれるOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・pikeTunnelStart (IPv4), pikeTunnelStop (IPv4) - pikePeerLocalAddr - pikePeerRemoteAddr ・pikeTunnelStart (IPv6), pikeTunnelStop(IPv6) - pikePeerLocalAddr.idIpv6Addr - pikePeerRemoteAddr.idIpv6Addr <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
24 SNMP	B	以下のVRRPトラップに含まれているOIDに誤りがある問題を修正しました。 ・vrrpTrapNewMaster - 正：1.3.6.1.2.1.68.0.1 - 誤：1.3.6.1.2.1.68.0.0.1 ・vrrpTrapAuthFailure - 正：1.3.6.1.2.1.68.0.2 - 誤：1.3.6.1.2.1.68.0.0.2 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
25 URL-Offload	B	NetMeister連携時に、offload-protocolを変更すると、次のデータベース更新後に、データベースが空になる問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterでオフロード対象の更新(変更なしで保存する)を行ってください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
26 TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17, Ver.10.4.14	Ver.10.4.19以降
1 MP-BGP	B	VRF上でのBGP使用時にeBGPピアへ広告する経路のnexthopはピアアドレスと同一ネットワークの場合のみnexthopアドレスを変更せずにそのまま広告すべきところnexthopアドレスを更新してしまう問題を修正しました。 <回避策> BGPによる経路広告にroute-mapを適用しnexthopアドレスを正しい値に変更してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
2 MP-BGP	B	BGPのCOMMUNITY属性条件(match communityコマンド)及びBGPのCOMMUNITY属性を指定(set community)でオプションを設定する場合に複数回同一オプションが入力できてしまう問題を修正しました。 <回避策> BGPのCOMMUNITY属性条件(match communityコマンド)及びBGPのCOMMUNITY属性を指定(set community)でオプションを設定する場合には同一オプションを入力しないでください。	Ver.8.9.17～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
3 IKEv2	B	IKEv2のNAT-T Keepaliveパケットが outgoing-interface 設定に従わずにルーティングテーブルに従って送信される問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降

4 DHCPv4	B	DHCPサーバが動作しているポートとDHCPクライアントが動作しているポートをケーブルにより直接接続するなどのループ接続を行うと、装置自身に対するアドレスの払い出しが行なわれ、その後リブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> ループ接続となるようなケーブル接続は行わないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
5 SNMP	B	「no snmp-agent」で始まるコマンドを設定し保存を行っても、装置を再起動すると設定が反映されず "show running-config"でも設定が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 装置再起動後には再度「no snmp-agent」コマンドによる設定を行ってください。	Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
6 NTP	B	ntp serverコマンドにより複数のNTPサーバを指定している場合で最初に設定されたサーバとの同期確認にNTPパケットの生成が失敗した場合、パケット送信が成功するまで同じサーバとの同期確認が行われるため、連続してNTPパケットの生成に失敗する場合には次のサーバにパケット送信ができず時刻同期ができなくなる問題を修正しました。 <回避策> ntp serverコマンドにより最初に設定したNTPサーバ、または一番高いプライオリティに設定したNTPサーバに対してパケット送信が失敗するような設定を行わないでください。	Ver.8.1.15～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
7 NetMeister	C	NetMeister設定場面にて、ダイナミックDNSへの通知でIPv4アドレスの通知インタフェースとIPv6アドレスの通知インタフェースを設定した後にWebブラウザでNetMeisterの設定を表示させるとダイナミックDNSのIPv6登録部分の表示が崩れる問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
8 PIM	C	PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上の設定のところ、/3が設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上を設定してください。	Ver.8.4.23～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
9 WebUI	B	Webコンソールにてdigest認証時にguest設定があると、Webコンソールを開いた際に複数回ログインID/Passwordを求められてしまう問題を修正しました。 <回避策> 以下の何れかで回避可能となります。 ・BASIC認証に変更する。 ・guest認証を使用しない。	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
10 OSPFv2	B	OSPFv2にて以下の問題を修正しました。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路を学習した場合に外部経路(Type5-LSA)がバックボーンエリアに広告されないことがある。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路と集約対象の経路を同時に学習していると、レンジ指定したプレフィックス宛経路が数秒おきに廃棄経路とNSSA経路が交互に変化する。 ・レンジ設定を削除すると、有効なOSPF経路であってもルーティングテーブルから削除されてしまう。 <回避策> レンジ設定と同一のプレフィックスを広告しないようにしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
11 NetMeister	B	コンピュータ名等端末の名前に「¥」や「"」が含まれているとNetMeisterのデバイスリストタブで正常に表示されないことがある問題を修正しました。 <回避策> 該当のMACアドレスをリンクマネージャでdesc付きにより明示的に設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
12 NetMeister	B	NetMeisterで複数のプロキシがあっても1つ目のプロキシしか使用しない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
13 Tunnel	B	JPNE MAP-EでMAPルール問合せ時にIDパラメータを付与していない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
14 TCP	B	接続するHTTPSサーバによって、HTTPS セッションの終了シーケンスが正しく行われない場合がある問題を修正しました。 ただし、HTTPSの接続性には問題がありません。 <回避策> 接続性には問題ないため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.4.14以降
15 WebUI	C	WebコンソールにてIPoEかんたん設定後、ステータス画面のVPN接続状態に「-」が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降
16 WebUI	C	WebコンソールでのIPoEかんたん設定画面の下部に表示される「BIGLOBE」の記載内容が適切でない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.4.14以降

■Ver.10.3 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	WebUI	C	Webコンソールのping実行画面で、送信先IPv4アドレスに「::」を設定してもエラーが表示されない問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでのping実行時における異常アドレス入力時に発生する問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
2	WebUI	C	WebコンソールでIPv6 IPoE設定後、GigaEthernet0.0をshutdownすると装置情報が表示されなくなる問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
3	WebUI	C	MAP-E接続時、MAP-E通信が確立していなくてもWebコンソールのステータス画面のVPN接続状態が「接続」と表示される問題を修正しました。 <回避策> WebGUIでの表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
4	NAT	B	MAP-E(動的IP)でFTPアクティブモードで接続すると、リブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> MAP-E(動的IP)ではFTPをパッシブモードで行ってください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
5	NAT	B	FTPアクティブモードでクライアントがNATの内側から通信する際、FTPが高負荷状態になると、FTPコントロールセッション(UDP/21)のNAPTキャッシュが残ってしまう問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
6	URL-Offload	B	URLオフロードでプロキシありの場合、TCP/443であっても通信スキームがWebSocketのwss://であるとURLオフロードされない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
7	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストの設定を変更した場合、showコマンド実行時またはイベントログ表示時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行ってください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
8	URL-Offload	B	URLオフロードで外部リストと内部リストを併用し、外部リストと内部リスト 両方のキャッシュがある場合に、no listコマンドにより内部リスト指定を削除すると、残ったキャッシュの有効期限満了(expire)時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・clear url-offload address-cacheコマンド、clear url-offload session-cacheコマンドの両方のコマンドによりキャッシュをクリアし、設定変更を行う。 ・URLオフロードのプロファイルごと削除する。	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
9	NetMeister	C	NetMeisterのIKEv1を利用したVPN表示で、peeridの表示の末尾に不要な表示が含まれてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにて回避可能です。 ・peer-idの長さを統一する。 ・IKEv1ではなくIKEv2を利用する。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
10	TCP	B	TCPヘッダ長フィールドの値が実際のTCPパケット長より大きい不正なTCP パケットを受信すると、リブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能のTCP検知を有効にすることで不正TCPパケットを廃棄を行ってください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
11	Tunnel	B	OCNバーチャルコネクトの固定IP利用時、IPv6リナンバリングが発生した際にDDNS通知できないことがある問題を修正しました。 <回避策> DDNSプロファイルにVNEから指定したパラメータを手動で設定してください。	Ver.10.3.17以前	Ver.10.3.21以降
12	Tunnel	B	MAP-E利用中、clear map-e statusコマンドによって再接続を行った場合、最大384byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
13	IKEv2	B	IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブを256秒以上に設定すると、設定したキープアライブ値で動作しない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2 NATトラバーサルのキープアライブは255秒以下で設定してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
14	NetMeister	B	NetMeisterの通知設定で、ネットワークモニタのdescriptionに「¥」または「"」の半角記号を設定すると、アラームの通知に失敗する問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのdescriptionに「¥」や「"」の半角記号を使用しないでください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
15	NetMeister	B	NetMeisterからIXへリモートアクセスする際、NetMeister用NAPTサービス機能のサービス数(エントリ数)が上限に達していると、IXにリモートアクセスできない問題を対処しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
16	DHCPv4	C	DHCPのoptionコマンドで、設定可能なアドレス数が上限に達しても、「?」によるヘルプ表示ではさらに入力可能なように表示される問題を修正しました。 <回避策> コマンド入力時のヘルプの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
17	URL-Offload	B	NetMeister連携時に、offload-protocolを変更すると、次のデータベース更新後に、データベースが空になる問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterでオフロード対象の更新(変更なしで保存する)を行ってください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降

18	TCP	B	TCP通信時にFINフラグパケットを受信した後にPUSHフラグのパケットを受信するとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.17	Ver.10.3.21以降
1	MP-BGP	B	VRF上でのBGP使用時にeBGPピアへ広告する経路のnexthopはピアアドレスと同一ネットワークの場合のみnexthopアドレスを変更せずにそのまま広告すべきところnexthopアドレスを更新してしまう問題を修正しました。 <回避策> BGPによる経路広告にroute-mapを適用しnexthopアドレスを正しい値に変更してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
2	IKEv2	B	IKEv2のNAT-T Keepaliveパケットが outgoing-interface 設定に従わずにルーティングテーブルに従って送信される問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
3	DHCPv4	B	DHCPサーバが動作しているポートとDHCPクライアントが動作しているポートをケーブルにより直接接続するなどのループ接続を行うと、装置自身に対するアドレスの払い出しが行なわれ、その後リブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> ループ接続となるようなケーブル接続は行わないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
4	SNMP	B	「no snmp-agent」で始まるコマンドを設定し保存を行っても、装置を再起動すると設定が反映されず "show running-config"でも設定が表示されない問題を修正しました。 <回避策> 装置再起動後には再度「no snmp-agent」コマンドによる設定を行ってください。	Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
5	NTP	B	ntp serverコマンドにより複数のNTPサーバを指定している場合で最初に設定されたサーバとの同期確認にNTPパケットの生成が失敗した場合、パケット送信が成功するまで同じサーバとの同期確認が行われるため、連続してNTPパケットの生成に失敗する場合には次のサーバにパケット送信ができず時刻同期ができなくなる問題を修正しました。 <回避策> ntp serverコマンドにより最初に設定したNTPサーバ、または一番高いプライオリティに設定したNTPサーバに対してパケット送信が失敗するような設定を行わないでください。	Ver.8.1.15～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
6	NetMeister	C	NetMeister設定場面にて、ダイナミックDNSへの通知でIPv4アドレスの通知インタフェースとIPv6アドレスの通知インタフェースを設定した後にWebブラウザでNetMeisterの設定を表示させるとダイナミックDNSのIPv6登録部分の表示が崩れる問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
7	PIM	C	PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上の設定のところ、/3が設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> PIMのRP設定でグループアドレスのマスクは/4以上を設定してください。	Ver.8.4.23～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
8	WebUI	B	Webコンソールにてdigest認証時にguest設定があると、Webコンソールを開いた際に複数回ログインID/Passwordを求められてしまう問題を修正しました。 <回避策> 以下の何れかで回避可能となります。 ・BASIC認証に変更する。 ・guest認証を使用しない。	Ver.10.0.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
9	OSPFv2	B	OSPFv2にて以下の問題を修正しました。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路を学習した場合に外部経路(Type5-LSA)がバックボーンエリアに広告されないことがある。 ・NSSAレンジ設定と同一のNSSA経路と集約対象の経路を同時に学習していると、レンジ指定したプレフィックス宛経路が数秒おきに廃棄経路とNSSA経路が交互に変化する。 ・レンジ設定を削除すると、有効なOSPF経路であってもルーティングテーブルから削除されてしまう。 <回避策> レンジ設定と同一のプレフィックスを広告しないようにしてください。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
10	NetMeister	B	コンピュータ名等端末の名前に「¥」や「"」が含まれているとNetMeisterのデバイスリストタブで正常に表示されないことがある問題を修正しました。 <回避策> 該当のMACアドレスをリンクマネージャでdesc付きにより明示的に設定してください。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
11	NetMeister	B	NetMeisterで複数のプロキシがあっても1つ目のプロキシしか使用しない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
12	Tunnel	B	JPNE MAP-EでMAPルール問合せ時にIDパラメータを付与していない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
13	TCP	B	接続するHTTPSサーバによって、HTTPS セッションの終了シーケンスが正しく行われない場合がある問題を修正しました。 ただし、HTTPSの接続性には問題がありません。 <回避策> 接続性には問題ないため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.13以前	Ver.10.3.17以降
14	WebUI	C	WebコンソールにてIPoEかんたん設定後、ステータス画面のVPN接続状態に「-」が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
15	WebUI	C	WebコンソールでのIPoEかんたん設定画面の下部に表示される「BIGLOBE」の記載内容が適切でない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.3.10～ Ver.10.3.13	Ver.10.3.17以降
1	PPP	B	PPPoEタグRelay-Session-Idを受信してもそれを応答に含めて送信していないためにPPPoEリレーに対応できていない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.3.10以前	Ver.10.3.13以降

2 SNMP	B	startup-configが以下の様な状態で装置の再起動を行い、装置起動後にインタフェースでのUp/Downが発生するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。ただし、write memoryによるコンフィグ保存時には本問題は発生しません。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・snmp-agent mib-2 ifindexコマンドよりも前にinterfaceコマンドを設定している。 ・snmp-agent ip trap test snmp link-up 又は link-down を設定している。 <回避策> startup-configの内容をsnmp-agent mib-2 ifindexコマンドがinterfaceコマンドよりも前に来るように設定してください。	Ver.10.3.10以前	Ver.10.3.13以降
3 OpenFlow	B	複数のコンソールからOpenFlowコマンドを同時実行すると、コンソールがフリーズし操作が行えなくなる場合がある問題を修正しました。 本問題は複数のコンソールから同時実行することでまれに発生します。 表示コマンドを使用した場合は表示内容が多いほど発生確率が高まります。 <回避策> OpenFlowコマンドは単一のコンソール画面からのみ実行してください。	Ver.8.11.11～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
4 WebUI	B	Webコンソールの「クラウド接続を設定」でAWSを選択し、「IPsec Tunnel #2」を使用する設定を行った場合、AWSの副側ポリシー名が誤っているために接続が不可となる問題を修正しました。 <回避策> AWS選択時には「IPsec Tunnel #2」を使用しないでください。	Ver.9.3.11～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
5 OSPFv2	B	OSPFv2において、以下の条件ではOSPFの隣接関係が確立しない問題を修正しました。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・ブロードキャストイーサネットインタフェースでOSPFが動作している。（PPPoE等のポイントツーポイントでは発生しない） ・インタフェースサブネットの上位経路が同一インタフェース向きに存在し、かつネクストホップのルータが存在しないもしくはパケットが転送されない。 <回避策> 隣接関係が確立しないOSPFルータへのスタティックルートを設定してください。	Ver.10.2.20～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
6 WebUI	B	Webコンソールでセッションがタイムアウトせず残り続ける場合がある問題を修正しました。本問題発生時には、残ったセッションと同一IPアドレスからのセッションが生成できなくなります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.3.10	Ver.10.3.13以降
1 NetMeister	B	NetMeisterを無効から有効に設定変更を行うとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 発生条件: 以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・NetMeisterを一度でも有効にしたことがある。 ・NetMeisterを無効にし、再度有効に設定変更するまでの時間間隔が短い。(数十秒間隔) <回避策> NetMeisterを無効にしてから再度有効に設定変更する場合には1分以上の間隔をあけてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
2 UTM	B	高負荷通信時にshow running-config sizeコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。 [回避策] 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
3 UTM	B	高負荷通信時にshow tech-supportコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
4 NetMeister	B	NetMeisterにおいてoutgoing-interfaceやddns notify interfaceで指定したインタフェースと、web-console system informationで設定したWANインタフェースが異なる装置をセンター装置(HUB装置)に指定してダイナミックVPN設定を行うと、ダイナミックVPNが正常に接続できない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterによるダイナミックVPN設定時には、outgoing-interfaceやnotify-interfaceで設定したインタフェースとweb-console system informationのWANインタフェースを同じインタフェースに設定してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
5 WebUI	C	Webコンソールにて数値入力を行う箇所に「100.」や「+100」のような不正値を入力してもエラー表示されない問題を修正しました。 <回避策> 数値入力箇所では[0-9]の数値のみで入力してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
6 ProxyDNS	C	連続したDNS要求などによるDNS処理の継続中にshow proxy-dnsコマンドを実行するとセッションリストが表示され続けることがある問題を修正しました。 <回避策> 数百件の連続したDNS要求などによるDNS処理継続中のみで発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.20以前	Ver.10.3.10以降
7 WebUI	C	WebコンソールのNGN網VPNかんたん設定を使用してVPNを構築後、Webコンソールのトップページにおける装置情報-VPN情報-通信量の受信量表示に異常値が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
8 Tunnel	B	MAP-E使用時に、IPv6ダイナミックフィルタが動作しない問題を修正しました。 <回避策> MAP-E使用時には、IPv6スタティックフィルタを使用してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降
9 IPv6	B	NDプロキシ利用時、Router Lifetimeが満了してもグローバルアドレスが削除されない問題を修正しました。 <回避策> NDプロキシのUpstreamまたはDownstreamインターフェースリセットによるアドレス削除を行ってください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降

10	NetMeister	B	body部のあるHTTPメッセージを受信後に、body部のないHTTPメッセージを受信するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.3.10以降

■Ver.10.2 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	PPP	B	PPPoEタグRelay-Session-Idを受信してもそれを応答に含めて送信していないためにPPPoEリレーに対応できていない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.23以前	Ver.10.2.26以降
2	SNMP	B	startup-configが以下の様な状態で装置の再起動を行い、装置起動後にインタフェースでのUp/Downが発生するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。ただし、write memoryによるコンフィグ保存時には本問題は発生しません。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・snmp-agent mib-2 ifindexコマンドよりも前にinterfaceコマンドを設定している。 ・snmp-agent ip trap test snmp link-up 又は link-down を設定している。 <回避策> startup-configの内容をsnmp-agent mib-2 ifindexコマンドがinterfaceコマンドよりも前に来るように設定してください。	Ver.10.2.23以前	Ver.10.2.26以降
3	OpenFlow	B	複数のコンソールからOpenFlowコマンドを同時実行すると、コンソールがフリーズし操作が行えなくなる場合がある問題を修正しました。 本問題は複数のコンソールから同時実行することでまれに発生します。 表示コマンドを使用した場合は表示内容が多いほど発生確率が高まります。 <回避策> OpenFlowコマンドは単一のコンソール画面からのみ実行してください。	Ver.8.11.11～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
4	WebUI	B	Webコンソールの「クラウド接続を設定」でAWSを選択し、「IPsec Tunnel #2」を使用する設定を行った場合、AWSの副側ポリシー名が誤っているために接続が不可となる問題を修正しました。 <回避策> AWS選択時には「IPsec Tunnel #2」を使用しないでください。	Ver.9.3.11～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
5	OSPFv2	B	OSPFv2において、以下の条件ではOSPFの隣接関係が確立しない問題を修正しました。 発生条件:以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・ブロードキャストイーサネットインタフェースでOSPFが動作している。（PPPoE等のポイントツーポイントでは発生しない） ・インタフェースサブネットの上位経路が同一インタフェース向きに存在し、かつネクストホップのルータが存在しないもしくはパケットが転送されない。 <回避策> 隣接関係が確立しないOSPFルータへのスタティックルートを設定してください。	Ver.10.2.20～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
6	WebUI	B	Webコンソールでセッションがタイムアウトせず残り続ける場合がある問題を修正しました。本問題発生時には、残ったセッションと同一IPアドレスからのセッションが生成できなくなります。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.23	Ver.10.2.26以降
1	NetMeister	B	NetMeisterを無効から有効に設定変更を行うとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 発生条件: 以下の全ての条件を満たしている場合に本問題が発生する場合があります。 ・NetMeisterを一度でも有効にしたことがある。 ・NetMeisterを無効にし、再度有効に設定変更するまでの時間間隔が短い。(数十秒間隔) <回避策> NetMeisterを無効にしてから再度有効に設定変更する場合には1分以上の間隔をあけてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
2	UTM	B	高負荷通信時にshow running-config sizeコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。 [回避策] 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
3	UTM	B	高負荷通信時にshow tech-supportコマンドを実行すると通信中のトラフィックでパケットロスが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 最大転送レートの90%以上で数分通信が継続するような場合に発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
4	NetMeister	B	NetMeisterにおいてoutgoing-interfaceやddns notify interfaceで指定したインタフェースと、web-console system informationで設定したWANインタフェースが異なる装置をセンター装置(HUB装置)に指定してダイナミックVPN設定を行うと、ダイナミックVPNが正常に接続できない問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterによるダイナミックVPN設定時には、outgoing-interfaceやnotify-interfaceで設定したインタフェースとweb-console system informationのWANインタフェースを同じインタフェースに設定してください。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
5	ProxyDNS	C	連続したDNS要求などによるDNS処理の継続中にshow proxy-dnsコマンドを実行するとセッションリストが表示され続けることがある問題を修正しました。 <回避策> 数百件の連続したDNS要求などによるDNS処理継続中のみで発生する問題のため、通常の運用で発生することはほとんどありません。	Ver.10.2.20以前	Ver.10.2.23以降
6	WebUI	C	WebコンソールのNGN網VPNかんたん設定を使用してVPNを構築後、Webコンソールのトップページにおける装置情報-VPN情報-通信量の受信量表示に異常値が表示される問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールにおける表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.2.16～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
7	Tunnel	B	MAP-E使用時に、IPv6ダイナミックフィルタが動作しない問題を修正しました。 <回避策> MAP-E使用時には、IPv6スタティックフィルタを使用してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
8	IPv6	B	NDプロキシ利用時、Router Lifetimeが満了してもグローバルアドレスが削除されない問題を修正しました。 <回避策> NDプロキシのUpstreamまたはDownstreamインターフェースリセットによるアドレス削除を行ってください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降

9	NetMeister	B	body部のあるHTTPメッセージを受信後に、body部のないHTTPメッセージを受信するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.20	Ver.10.2.23以降
1	IKEv2	B	IKEv2において、ikev2 outgoing-interface XXX autoコマンドによりNexthopを自動選択設定しても正しくNexthop選択が出来ずARPが失敗し接続できないことがある問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・outgoing-interface 設定を削除する。 ・outgoing-interface 設定行う場合にはauto指定ではなくNexthopアドレスで指定する。	Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
2	IPv6	C	NDプロキシ動作時にclear interfaceコマンドなどにより上位ルータの情報削除後に再度上位ルータからRAを受信した場合、show ipv6 interfaceコマンドで表示されるAddress auto configurationのuptimeカウンタがクリアされないことがある問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 interfaceコマンドでの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
3	WebUI	B	http-server usernameコマンドでユーザ名を16文字で設定を行っても15文字目までしかコンフィグに反映されていない問題を修正しました。 <回避策> ユーザ名を15文字以内で設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
4	DMVPN	B	同一の対地に対してダイナミックVPNによる連続した接続を行うとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックVPNによる同一対地への接続を約13万回ほど連続して行うと問題が発生する可能性がありますが、通常の運用で問題が発生することはほとんどありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
5	NetMeister	B	NetMeister接続設定にてプロキシの設定がアドレス形式の場合にNetMeisterへの接続が一部繋がらなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> プロキシの設定をFQDN形式で指定してください。	Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
6	IPv6	B	IPv6 でRA受信によってアドレスを設定する場合、近隣探索(ND)で不正なオプションが含まれるメッセージを受信するとリブートする場合がある問題を修正しました。 IPv6を利用していない場合には影響を受けません。 DHCPv6-PDでのアドレス設定使用時には影響を受けません。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.2.16以前	Ver.10.2.20以降
7	NetMon	B	ネットワークモニタのactionにSW-HUBデバイスのshutdownを指定しても、event発生時にSW-HUBデバイスがshutdownされない問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのactionには、SW-HUBのポートをshutdown指定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.2.16	Ver.10.2.20以降
1	OpenFlow	B	OpenFlowを使用した場合に、フローエントリにDSCPを設定しても正しくマッチしない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.8.11.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
2	NAT	B	FTPクライアントからアクティブモードでFTP実行後にNAPTのキャッシュが消えず、ポート21のエントリがTime 0 で残ったままとなることがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
3	Tunnel	B	MAP-E利用中、MAPルール取得ごとにNAPTキャッシュがクリアされる問題を修正しました。 <回避策> MAP-E利用中、3時間～24時間に1度の頻度で発生しますが、通信への影響はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
4	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、複数のshutdown-route実行中に複数のresume-routeを実行した場合、resume-routeのactionが復旧しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 一つの経路に対して以下の様なアクション指定を行わないでください。 (1)複数のshutdown-route (2)複数のresume-route	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
5	MP-BGP	B	BGPにおいて、ネクストホップへの経路があっても、その経路が有効でない場合にBGPの経路が消えない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
6	Tunnel	B	MAP-E動作中にBRアドレスの変更があった場合、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にBRアドレスが変更されたことがないため、問題が発生することはありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
7	Tunnel	B	特定のMAP-Eルールを取得すると正しいCEアドレスが割り当てられず、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 現在問題が発生するマップルールは配信されていないため、実際の運用では問題は発生しません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
8	Tunnel	B	MAP-E以外のトンネルインタフェースでコンフィグ変更を行うと、MAP-Eトンネルが停止状態となることがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear map-e statusコマンドで復旧します。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
9	OSPFv2	B	OSPFv2において、デッドタイマ値が再送間隔の2倍以下となり、さらに接続Neighbor同士が送信するDDパケットのシーケンス番号が同じ場合にネイバ隣接関係が成立しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 再送タイマ値をデッドタイマ値の2倍より大きい値に設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
10	NGN	B	NetMeisterのURLオフロード連携にて、特定の操作時にオフロードDBが空となることがある問題を修正しました。 <回避策> nm updateコマンドと url-offload updateコマンドを1分程度時間を空けてから実行してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降

11 NGN	B	NGN網で、outgoing-interfaceを使用するとトンネルの複数対地接続ができない問題を修正しました <回避策> Tunnelインタフェースのインタフェースポリシーに ikev2 outgoing-interfaceコマンドを設定しないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
12 DynDNS	B	NetMeisterを使用したIPv4/IPv6混在環境で、「装置概要」のIPアドレスがIPv6アドレスにならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
13 DHCPv4	B	DHCPサーバプロファイル設定の任意IPアドレスオプションコマンドにIPアドレスを64個設定するとオプション長が255を超えてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> DHCPサーバプロファイルの任意IPアドレスオプションコマンドのIPアドレスを63個以下で設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
14 PPPoE	C	PPPoEサーバ機能が無効化されているインタフェースでPPPoE接続要求を受信すると、PPOE.043のイベントログが出力される問題を修正しました。 <回避策> 誤ってイベントログが出力されますが、実際の運用には影響はありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
15 Dialer	B	dialer restraintコマンドでコマンドの中断・ヘルプの表示、入力エラー発生、同一設定の上書きなどを行うとメモリ枯渇が発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> メモリ枯渇はコマンド設定時に64byte発生するのみなので、実際の運用で問題となることはありません。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
16 ACL	B	show ip access-listコマンドで特定のアクセスリストのエントリを--More--で表示停止中に、別コンソールからshow running-configコマンドもしくはshow ip access-listコマンドを実行し、その後にnoコマンドで該当のエントリを削除された場合、その後に--More--で停止している表示を続行するとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
17 Gateway	C	以下のコマンドは設定時に要再起動メッセージが表示されますが、check configuretionコマンドでは要再起動とならない問題を修正しました。 ・receive-buffers <回避策> コマンド設定時には要再起動メッセージが表示されるので、その指示に従い、装置を再起動してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.2.16以降
18 WebUI	C	WebコンソールでのNetMeister グループパスワードの入力可能文字が拡張されていない問題を修正しました。Ver10.0では、『A-Za-z0-9_-』のみであり、Ver10.1では『"? 』以外のASCII文字まで拡張予定でありましたが。実際にはVer10.1でも拡張されておらず『A-Za-z0-9_-』のみ使用可能となっていました。 <回避策> NetMeister グループパスワードには『A-Za-z0-9_-』を使用してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降
19 WebUI	C	コンソールからCLIにて設定を行った後、Webコンソールにてかんたん設定でDHCPの変更を行うとDHCPのプロファイル名が追従できず、正しくDHCPプロファイルの設定が行えないことがある問題を修正しました。 <回避策> DHCPプロファイルの設定変更時には、コンソールからのCLI設定、もしくはWebコンソールの詳細設定を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.1.16	Ver.10.2.16以降

■Ver.10.1 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	C	NDプロキシ動作時にclear interfaceコマンドなどにより上位ルータの情報削除後に再度上位ルータからRAを受信した場合、show ipv6 interfaceコマンドで表示されるAddress auto configurationのuptimeカウンタがクリアされないことがある問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 interfaceコマンドでの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.10.0.14～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
2	WebUI	B	http-server usernameコマンドでユーザ名を16文字で設定を行っても15文字目までしかコンフィグに反映されていない問題を修正しました。 <回避策> ユーザ名を15文字以内で設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
3	DMVPN	B	同一の対地に対してダイナミックVPNによる連続した接続を行うとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックVPNによる同一対地への接続を約13万回ほど連続して行うと問題が発生する可能性がありますが、通常の運用で問題が発生することはほとんどありません。	Ver.9.2.20～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
4	IPv6	B	IPv6 でRA受信によってアドレスを設定する場合、近隣探索(ND)で不正なオプションが含まれるメッセージを受信するとリブートする場合がある問題を修正しました。 IPv6を利用していない場合には影響を受けません。 DHCPv6-PDでのアドレス設定使用時には影響を受けません。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.20以前	Ver.10.1.22以降
5	NetMon	B	ネットワークモニタのactionにSW-HUBデバイスのshutdownを指定しても、event発生時にSW-HUBデバイスがshutdownされない問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタのactionには、SW-HUBのポートをshutdown指定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.20	Ver.10.1.22以降
1	OpenFlow	B	OpenFlowを使用した場合に、フローエントリにDSCPを設定しても正しくマッチしない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.8.11.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
2	NAT	B	FTPクライアントからアクティブモードでFTP実行後にNAPTのキャッシュが消えず、ポート21のエントリがTime 0 で残ったままとなることがある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
3	Tunnel	B	MAP-E利用中、MAPルール取得ごとにNAPTキャッシュがクリアされる問題を修正しました。 <回避策> MAP-E利用中、3時間～24時間に1度の頻度で発生しますが、通信への影響はありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
4	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、複数のshutdown-route実行中に複数のresume-routeを実行した場合、resume-routeのactionが復旧しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 一つの経路に対して以下の様なアクション指定を行わないでください。 (1)複数のshutdown-route (2)複数のresume-route	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
5	MP-BGP	B	BGPにおいて、ネクストホップへの経路があっても、その経路が有効でない場合にBGPの経路が消えない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
6	Tunnel	B	MAP-E動作中にBRアドレスの変更があった場合、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にBRアドレスが変更されたことがないため、問題が発生することはありません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
7	Tunnel	B	特定のMAP-Eルールを取得すると正しいCEアドレスが割り当てられず、通信不可となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 現在問題が発生するマップルールは配信されていないため、実際の運用では問題は発生しません。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
8	Tunnel	B	MAP-E以外のトンネルインタフェースでコンフィグ変更を行うと、MAP-Eトンネルが停止状態となることがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear map-e statusコマンドで復旧します。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
9	OSPFv2	B	OSPFv2において、デッドタイマ値が再送間隔の2倍以下となり、さらに接続Neighbor同士が送信するDDパケットのシーケンス番号が同じ場合にネイバ隣接関係が成立しないことがある問題を修正しました。 <回避策> 再送タイマ値をデッドタイマ値の2倍より大きい値に設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
10	NGN	B	NetMeisterのURLオフロード連携にて、特定の操作時にオフロードDBが空となることがある問題を修正しました。 <回避策> nm updateコマンドと url-offload updateコマンドを1分程度時間を空けてから実行してください。	Ver.10.1.14～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
11	NGN	B	NGN網で、outgoing-interfaceを使用するとトンネルの複数対地接続ができない問題を修正しました <回避策> Tunnelインタフェースのインタフェースポリシーに ikev2 outgoing-interfaceコマンドを設定しないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
12	DHCPv4	B	DHCPサーバプロファイル設定の任意IPアドレスオプションコマンドにIPアドレスを64個設定するとオプション長が255を超えてしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> DHCPサーバプロファイルの任意IPアドレスオプションコマンドのIPアドレスを63個以下で設定してください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
13	PPPoE	C	PPPoEサーバ機能が無効化されているインタフェースでPPPoE接続要求を受信すると、PPOE.043のイベントログが出力される問題を修正しました。 <回避策> 誤ってイベントログが出力されますが、実際の運用には影響はありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降

14 ACL	B	show ip access-listコマンドで特定のアクセスリストのエントリを--More--で表示停止中に、別コンソールからshow running-configコマンドもしくはshow ip access-listコマンドを実行し、その後にnoコマンドで該当のエントリを削除された場合、その後に--More--で停止している表示を続行するとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.1.16以前	Ver.10.1.20以降
15 WebUI	C	コンソールからCLIにて設定を行った後、Webコンソールにてかんたん設定でDHCPの変更を行うとDHCPのプロファイル名が追従できず、正しくDHCPプロファイルの設定が行えないことがある問題を修正しました。 <回避策> DHCPプロファイルの設定変更時には、コンソールからのCLI設定、もしくはWebコンソールの詳細設定を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.1.16	Ver.10.1.20以降
1 SNMP	B	ネットワークモニタMIBを複数のSNMPマネージャーから同時に取得した場合に、誤った値を返すことがある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタMIBに対して複数のSNMPマネージャーから同時に取得を行わないでください。	Ver.10.1.15以前	Ver.10.1.16以降
2 NAT	B	NAPT機能において、2個以上のグローバルIPアドレスを設定し、それぞれに対応するプライベートIPアドレス空間が重複している場合に、装置が再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 異なるグローバルアドレスに同じプライベートアドレス空間が含まれないように設定してください。	Ver.8.4.23～Ver10.1.15	Ver.10.1.16以降
1 DynDNS	A	NetMeisterで子機を接続した場合に正常に動作しない場合がある問題を修正しました。NetMeisterでSA3500G, NA1500A, Aspire WX、および今後リリースされる子機を利用する場合は必ずバージョンアップしてください。 <回避策> NetMeisterで子機を接続した環境で正常動作しない場合があります。ソフトウェアを10.1.15以降にバージョンアップしてください。	Ver.10.1.14	Ver.10.1.15以降
1 Gateway	C	以下のインターフェースモードでの機能有効化コマンドが、デバイスコンフィグモードでも設定できてしまう問題を修正しました。 ・http-server ・proxy-dns ・ssh-server ・telnet-server <回避策> 該当するコマンドはインターフェースモードで設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
2 URL-Offload	B	URLオフロードプロファイル名が大文字の場合、route-mapで指定できない問題を修正しました。 <回避策> URLオフロードプロファイル名には大文字を使用しないでください。	Ver.9.4.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
3 URL-Offload	B	以下のコマンド設定時、show running-configに反映するまで数分要す場合がある問題を修正しました。 ・no url ・no proxy-config pac-file <回避策> コマンド設定後、5分程度待つことでshow running-configに反映されます。	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
4 VRF	B	IKEv2/IPsecトンネル上でVRF機能を使用する環境において、IPsecトンネルのMTUを超えるDFビット付きパケットを転送した場合に、ICMPエラー(fragmentation needed)が送信元に送信されない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。また、IKEv1/IPsecトンネルでは問題は発生しません。	Ver.9.5.11～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
5 Gateway	C	メモリ枯渇発生時のshow memoryコマンドの表示が、異常値となる場合がある問題を修正しました。 <回避策>show memoryコマンドの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
6 DNS	B	NTTフレッツ光ネクストIPv6閉域網かつNetMeister環境で、IPv6アドレス変更時にFQDNのアドレスが更新されない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
7 IPsec	B	logging subsystem sec debugコマンド設定時にIPsec通信を行うと、再起動する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> logging subsystem secコマンドのイベントログレベルをinfo～errorで設定してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
8 IKEv2	B	IKEv2で利用しているグローバルIPv6アドレスが複数ある環境で、自装置のIPv6アドレスに削除(変更)が発生すると、その後のIPsec通信が不可となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
9 Gateway	B	NetMeisterのファームウェア更新と、ローカルコンソール、TelnetまたはSSHからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップが同時に実行されると、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterのファームウェア更新と、Telnet/コンソールからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップを同時に行わないでください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
10 WebUI	B	WebコンソールでL2TP接続の設定をした場合、GigaEthernet0.1インタフェースに設定すべきNAPTの設定がGigaEthernet0.0インタフェースに設定され、L2TPによる接続が行えない問題を修正しました。本問題はVer9.3.11版以降で発生します。 <回避策> Webコンソールの任意コマンドの実行やコンソールからGigaEthernet0.1インタフェースにNAPTを追加設定してください。	Ver.9.3.11～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
11 Gateway	B	terminal timestampコマンドが設定されている場合、Webコンソールの表示の一部およびNetMeister上での一部の情報表示に失敗する問題を修正しました。 <回避策> terminal timestampコマンドの設定は行わないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降

12 DNS	C	以下のDDNSのイベントログで、誤ったIPv4アドレス、IPv6アドレスが表示される問題を修正しました。 ・DDNS_16 ・DDNS_17 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
13 NAT	B	NATを有効(ip nat enable)にしていない場合でも、静的NATの設定が動作する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NAT無効化時には、NATに関する設定をすべて削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
14 IKEv2	C	IKEv2使用時に、COOKIE送信のイベントログ(IKE2.095)のIPv4アドレスがIPv6アドレスとして表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22～ Ver.10.1.15	Ver.10.1.14以降
15 IKEv2	B	IKEv2において、不正なSA_INITを受信した場合、COOKIE制御用内部カウンタ値が異常となる問題を修正しました。その後正しいSA_INITを受信した場合は、正常に動作します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.10.0.15	Ver.10.1.14以降
16 TrafficFilter	B	noコマンドでダイナミックフィルタのコンフィグが削除できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックフィルタのコンフィグをnoコマンドにより削除するときにはオプションを未指定にして削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降
17 IPv4	B	特定の条件を満たすパケットを受信したときに、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.1.14以降

■Ver.10.0 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	SNMP	B	ネットワークモニタMIBを複数のSNMPマネージャーから同時に取得した場合に、誤った値を返すことがある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタMIBに対して複数のSNMPマネージャーから同時に取得を行わないでください。	Ver.10.0.17以前	Ver.10.0.18以降
2	NAT	B	NAPT機能において、2個以上のグローバルIPアドレスを設定し、それぞれに対応するプライベートIPアドレス空間が重複している場合に、装置が再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 異なるグローバルアドレスに同じプライベートアドレス空間が含まれないように設定してください。	Ver.8.4.23～Ver10.0.17	Ver.10.0.18以降
1	Gateway	C	以下のインターフェースモードでの機能有効化コマンドが、デバイスコンフィグモードでも設定できてしまう問題を修正しました。 ・http-server ・proxy-dns ・ssh-server ・telnet-server <回避策> 該当するコマンドはインターフェースモードで設定してください。	Ver.9.6.12～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
2	Gateway	C	メモリ枯渇発生時のshow memoryコマンドの表示が、異常値となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> show memoryコマンドの表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
3	DNS	B	NTTフレッツ光ネクストIPv6閉域網かつNetMeister環境で、IPv6アドレス変更時にFQDNのアドレスが更新されない問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
4	IPsec	B	logging subsystem sec debugコマンド設定時にIPsec通信を行うと、再起動する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> logging subsystem secコマンドのイベントログレベルをinfo～errorで設定してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
5	IKEv2	B	IKEv2で利用しているグローバルIPv6アドレスが複数ある環境で、自装置のIPv6アドレスに削除(変更)が発生すると、その後のIPsec通信が不可となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
6	Gateway	B	NetMeisterのファームウェア更新と、ローカルコンソール、TelnetまたはSSHからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップが同時に実行されると、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NetMeisterのファームウェア更新と、Telnet/コンソールからのsoftware-updateコマンドによるバージョンアップを同時に行わないでください。	Ver.10.0.14～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
7	DNS	C	以下のDDNSのイベントログで、誤ったIPv4アドレス、IPv6アドレスが表示される問題を修正しました。 ・DDNS_16 ・DDNS_17 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.7.15～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
8	NAT	B	NATを有効(ip nat enable)にしていない場合でも、静的NATの設定が動作する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NAT無効化時には、NATに関する設定をすべて削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
9	IKEv2	C	IKEv2使用時に、COOKIE送信のイベントログ(IKE2.095)のIPv4アドレスがIPv6アドレスとして表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
10	IKEv2	B	IKEv2において、不正なSA_INITを受信した場合、COOKIE制御用内部カウンタ値が異常となる問題を修正しました。その後正しいSA_INITを受信した場合は、正常に動作します。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.10.0.15	Ver.10.0.17以降
11	TrafficFilter	B	noコマンドでダイナミックフィルタのコンフィグが削除できない場合がある問題を修正しました。 <回避策> ダイナミックフィルタのコンフィグをnoコマンドにより削除するときにはオプションを未指定にして削除してください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
12	IPv4	B	特定の条件を満たすパケットを受信したときに、再起動する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.10.0.15以前	Ver.10.0.17以降
1	NAT	B	WAN側インタフェースにヘアピンNAT設定時、DFbit onかつWANインタフェースのMTUを超えるパケットを送信した場合、ヘアピンNATが正常に動作しない問題を修正しました。 <回避策> 以下のいずれかを実施することで回避可能となります。 1. DFbitをoffにする。 2. LAN側でMSS調整する。 (LAN側MSS) = (WAN側MTU) - 40	Ver.9.3.11～ Ver.10.0.14	Ver.10.0.15以降
1	AAA	B	(1) リンクマネージャ機能の以下のコマンドにおいて、 <desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略して入力するとコマンドエラーとなる場合がある問題を修正しました。terminal <MACアドレス> <permit/deny> <desc-ascii/desc-base64> <説明文> <回避策> <desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略せずに入力してください。	Ver9.5.11～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降

2 IRB	B	telnetとコンソールによる同時ログイン時に以下の操作を行うとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 1. telnetでログインし、show bridgeコマンド実行後表示を--More--で停止させたままとする。 2. コンソールでログインし、設定される全てのブリッジグループを削除する。 3. telnet側で--More--で停止していた表示を再開する。 以上の問題はtelnetとコンソールによる操作が逆の場合にも発生する可能性があります。 <回避策> telnetとコンソールによるログイン時にはshow bridgeコマンドとブリッジグループの削除を同時に行わないでください。	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
3 BRS	B	大量のclassを登録したpolicy-mapのコンフィグ表示中に表示を中断させると、その後15秒程度コンソールが操作できなくなる問題を修正しました。<回避策>数十秒待つことで操作が可能になります。	Ver9.4.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
4 DMVPN	B	ダイナミックVPN使用時に、回線の障害が発生すると設定されたnhrp nhsのコンフィグが消えてしまう場合がある問題を修正しました。<回避策]>BGP keepaliveやIKE DPDの間隔を短くし、経路変更を検出しやすくしてください。また、ハブ自身の経路がダイナミックVPNトンネル内外間で切り替わるようなネットワーク構成にはしないでください。	Ver9.2.20～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
5 Gateway	B	サブインタフェース一括設定(interface rangeコマンド)でencapsulation pppoe / encapsulation dot1qを2回以上設定すると、装置再起動後にshow running-configで表示されるencapsulationの設定が複数表示される問題を修正しました。<回避策>サブインタフェース一括設定にて、encapsulation設定を複数設定しないでください。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
6 VLAN	B	タグVLANのインタフェースによる通信後、そのインタフェースのVLAN IDを変更しても変更前のVLAN IDでパケットが送信される問題を修正しました。<回避策>タグVLANのインタフェースによる通信後にVLAN IDを変更した場合には、該当インタフェースで以下のいずれかのコマンドを実行してください。 ・interface shutdown/no shutdown ・clear interface ・reset interface ・no interface	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
7 IKEv2	B	以下の全て条件を満たす環境で、IKEv2でSAが作成されない場合がある問題を修正しました。 ・接続先がany設定 ・outgoing-interfaceを設定 ・Nexthopをアドレス指定 ・lowerがIPv4/IPv6が混在する環境<回避策>Nexthop指定にautoを使用してください。	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
8 ELS	C	イベントログ NMC.019、023の誤記を修正しました。 ・NMC.019 正：NMC.019 Communication failure 誤：NMC.019 Communication falure ・NMC.023 正：NMC.023 Verify cert signature failure 誤：NMC.023 Verify cert signature falure<回避策>イベントログの誤記問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
9 MP-BGP	B	BGPで経路変更回数が32ビット整数で一周するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 本問題は過去全てのバージョンで発生します。<回避策>通常運用時にBGPで32ビット整数が一周するほどの経路変更が発生することはないため、問題となることはほぼありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
10 DMVPN	B	nhrp localコマンドを投入すると、不正なメモリアクセスが発生する可能性のある問題を修正しました。<回避策>机上で確認されたコード上の問題の修正となります。実際に問題が発生することはありません。	Ver9.2.20～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
11 MP-BGP	C	BGP接続でコリジョン(passive/active双方の同時接続)が発生するとBGP接続のダウンが数回発生しているにもかかわらず、ピアとの接続時間が装置のuptimeと同じ時間になってしまうことがある問題を修正しました。<回避策>ピアグループを使用し、双方どちらかからのみBGP接続を開始してください。また接続時間表示の問題のため、通常の運用には影響はありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.10.0.14以降
12 WebUI	C	WebコンソールにおけるNetMeisterの設定ページにある誤記を修正しました。 ・NetMeisterの設定反映時のwait用ページのタイトル 正：NetMeisterの設定 誤：URLフィルターの設定 ・NetMeisterの設定入力の表 正：グループパスワード 誤：装置更新パスワード<回避策>Webコンソールにおける誤記のため、通常の運用には影響はありません。	Ver9.7.15～ Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
13 ACL	B	アクセスリストコマンドと高速化オプションコマンドの削除を同時に行うと、リブートする可能性がある問題を修正しました。<回避策>高速化オプションコマンドを先に削除してからアクセスリストコマンドの削除を行ってください。	Ver9.6.12～Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
14 DynDNS	C	NetMeisterのDDNSリクエスト時にコネクトに失敗時に出力されるイベントログ(NMC.005)が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。<回避策>イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～ Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降
15 DynDNS	C	show nm informationコマンドの表示でNext Requestの残り時間が不正となる場合がある問題を修正しました。発生します。<回避策>showコマンドの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～ Ver.9.7.54	Ver.10.0.14以降

■Ver.9.7 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	AAA	B	リンクマネージャ機能の以下のコマンドにおいて<desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略して入力するとコマンドエラーとなる場合がある問題を修正しました。terminal <MACアドレス> <permit/deny> <desc-ascii/desc-base64> <説明文><回避策><desc-ascii/desc-base64> <説明文>を省略せずに入力してください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
2	IRB	B	telnetとコンソールによる同時ログイン時に以下の操作を行うとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 1. telnetでログインし、show bridgeコマンド実行後表示を--More--で停止させたままとする。 2. コンソールでログインし、設定される全てのブリッジグループを削除する。 3. telnet側で--More--で停止していた表示を再開する。 以上の問題はtelnetとコンソールによる操作が逆の場合にも発生する可能性があります。<回避策>telnetとコンソールによるログイン時にはshow bridgeコマンドとブリッジグループの削除を同時に行わないでください	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
3	BRS	B	大量のclassを登録したpolicy-mapのコンフィグ表示中に表示を中断させると、その後15秒程度コンソールが操作できなくなる問題を修正しました。 本問題は過去全てのバージョンで発生します。 <回避策> 数十秒待つことで操作が可能になります。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
4	DMVPN	B	ダイナミックVPN使用時に、回線の障害が発生すると設定されたnhrp nhsのコンフィグが消えてしまう場合がある問題を修正しました。<回避策>BGP keepaliveやIKE DPDの間隔を短くし、経路変更を検出しやすくしてください。また、ハブ自身の経路がダイナミックVPNトンネル内外間で切り替わるようなネットワーク構成にはしないでください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
5	Gateway	B	サブインタフェース一括設定(interface rangeコマンド)でencapsulation pppoe / encapsulation dot1qを2回以上設定すると、装置再起動 後にshow running-configで表示されるencapsulationの設定が複数表示される問題を修正しました。<回避策>サブインタフェース一括設定にて、encapsulation設定を複数設定しないでください。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
6	VLAN	B	タグVLANのインタフェースによる通信後、そのインタフェースのVLAN IDを変更しても変更前のVLAN IDでパケットが送信される問題を修正しました。<回避策>タグVLANのインタフェースによる通信後にVLAN IDを変更した場合には、該当インタフェースで以下のいずれかのコマンドを実行してください。 ・interface shutdown/no shutdown ・clear interface ・reset interface	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
7	IKEv2	B	以下の全て条件を満たす環境で、IKEv2でSAが作成されない場合がある問題を修正しました。 ・接続先がany設定 ・outgoing-interfaceを設定 ・Nexthopをアドレス指定 ・lowerがIPv4/IPv6が混在する環境<回避策>Nexthop指定にautoを使用してください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
8	IKEv2	C	イベントログ NMC.019、023の誤記を修正しました。 ・NMC.019 正：NMC.019 Communication failure 誤：NMC.019 Communication falure ・NMC.023 正：NMC.023 Verify cert signature failure 誤：NMC.023 Verify cert signature falure<回避策>イベントログの誤記問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
9	MP-BGP	B	BGPで経路変更回数が32ビット整数で一周するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。<回避策>通常運用時にBGPで32ビット整数が一周するほどの経路変更が発生することはないため、問題となることはほぼありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
10	DMVPN	B	nhrp localコマンドを投入すると、不正なメモリアクセスが発生する可能性のある問題を修正しました。<回避策>机上で確認されたコード上の問題の修正となります。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
11	MP-BGP	C	BGP接続でコリジョン(passive/active双方の同時接続)が発生するとBGP接続のダウンが数回発生しているにもかかわらず、ピアとの接続時間が装置のuptimeと同じ時間になってしまうことがある問題を修正しました。<回避策>ピアグループを使用し、双方どちらかからのみBGP接続を開始してください。また接続時間表示の問題のため、通常の運用には影響はありません。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
12	WebUI	C	WebコンソールにおけるNetMeisterの設定ページにある誤記を修正しました。 ・NetMeisterの設定反映時のwait用ページのタイトル 正：NetMeisterの設定 誤：URLフィルターの設定 ・NetMeisterの設定入力の表 正：グループパスワード 誤：装置更新パスワード<回避策>Webコンソールにおける誤記のため、通常の運用には影響はありません。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
13	ACL	B	アクセスリストコマンドと高速化オプションコマンドの削除を同時に行うと、リブートする可能性がある問題を修正しました。<回避策>高速化オプションコマンドを先に削除してからアクセスリストコマンドの削除を行ってください。	Ver.9.7.54以前	Ver.9.7.55以降
14	DynDNS	C	NetMeisterのDDNSリクエスト時にコネクトに失敗時に出力されるイベントログ(NMC.005)が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。<回避策>イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
15	DynDNS	C	show nm informationコマンドの表示でNext Requestの残り時間が不正となる場合がある問題を修正しました。<回避策>showコマンドの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver9.7.15～Ver.9.7.54	Ver.9.7.55以降
1	OSPFv2	B	BGPやRIPのサマリルートの廃棄経路を、OSPFの経路で上書きできない問題を修正しました。 <回避策> BGPやRIPとOSPFを併用する場合は、BGPやRIPのサマリルートがOSPFの経路情報で上書きされないような設定にしてください。	Ver.9.7.16以前	Ver.9.7.54以降

2 OSPFv2	B	OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークが混在する場合、経路が削除されない場合があります。その場合、次回更新時に再配信経路をコスト無限大(16777215)で広告してしまう問題を修正しました。 <回避策> OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークを混在させないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
3 IKEv2	B	一部の他社ルータとのIKEv2接続において、他社ルータ側からリキーが開始されたときにリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> IX側からリキーを開始するようにライフタイムの調整を行ってください。	Ver.8.7.20～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
4 DHCPv4	B	DHCPリレー使用時に、DHCPサーバからのofferがDHCPリレー端末にリレーされない場合がある問題を修正しました。 本問題は以下のすべての条件に該当する場合に発生します。 ・DHCPサーバからのDHCPパケットにブロードキャストフラグが設定されていない。 ・DHCPサーバからクライアントに割り当てようとしているIPアドレスをDHCPリレー端末がARP解決中である。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・端末にてブロードキャストフラグを設定する。 ・DHCPサーバにて、強制的にブロードキャストフラグを設定する。	Ver.9.6.12～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
5 DynDNS	B	NetMeisterで証明書検証をする毎に100byte程度のメモリリークが発生する問題を修正しました。本問題はnm updateコマンドで通知した場合も発生します。 <回避策> 本問題の発生頻度は低く、発生しても100byte程度のメモリリークのため、通常の運用に影響はありません。	Ver.9.7.15～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
6 WebUI	B	かんたん設定（IP電話サービス接続）のひかり電話オフィスAでは、FORCERENEWのためのDHCP(udp/68)が通らない問題を修正しました。 <回避策> 『任意コマンドの実行』などを使用して、以下のようにスタティックnaptの設定を追加してください。 interface GigaEthernet0.0 　ip napt static GigaEthernet0.0 udp 68	Ver.9.2.20～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
7 RADIUS	B	802.1X認証時、RADIUSサーバからTunnel-Private-Group-IDアトリビュートを含んだRADIUSパケットを受信した場合に数十byte程度のメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 本問題の発生頻度は低く、発生しても数十byte程度のメモリリークのため、通常の運用に影響はありません。	Ver.8.2.19～ Ver.9.7.16	Ver.9.7.54以降
1 Tunnel	A	L2TP-LNS接続が、網障害や端末操作で正常に切断されなかった場合にリブートが発生する可能性のある問題を修正しました。 <回避策> 回避策はありません。ソフトウェアをバージョンアップしてください。	Ver.9.7.15	Ver.9.7.16以降
1 IPv6	B	Loopback0.0を指定したIPv6スタティックルートが有効にならない問題を修正しました。 <回避策> ネクストホップをLoopback0.0ではなく、::1に設定してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
2 IPv6	B	IPv6のping6とtraceroute6で、受信することができないアドレスを送信元アドレスとして指定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> 送信元アドレスとして自分自身のアドレスを指定してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
3 IPv6	B	IPv6でカプセル化を行うトンネルで、リンクアップ時にリンクローカルアドレスを送信元アドレスに設定してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> tunnel sourceコマンドにより送信元アドレス指定を行ってください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
4 Gateway	B	IPv6のネットワークモニター機能で、リンクローカルアドレスを隠蔽できない問題を修正しました。 <回避策> ネクストホップアドレスがグローバルアドレスになるようにして利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
5 NAT	B	FTPのPORTコマンドに小文字が含まれていると、NAT/NAPT、ダイナミックフィルタ、IDS機能で正しく判定できない問題を修正しました。 <回避策> 通常、FTPのPORT/EPRTコマンドは大文字で通知されていますが、まれに小文字で通信する装置があります。そのような場合にはPASVコマンドを利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
6 VRF	B	VRF-Lite設定時、PPP以外のインタフェースでip address ipcpコマンドが設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> VRF-Lite設定時には、PPPインタフェース以外では、ip address ipcpコマンドの設定は行わないでください。	Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
7 MP-BGP	B	BGPにてpeer-group作成後に全体のタイマ(Keepalive/Hold)値の設定を変更しても、動的に生成したNeighborにそのタイマ値が反映されない問題を修正しました。 <回避策> peer-groupを一旦削除し再設定する、もしくは、peer-groupのタイマーの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
8 MP-BGP	B	BGPで動的に生成したNeighborのセッション切断時に、エントリが消滅しない場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear ip bgpコマンドで不要なNeighborを指定して消去してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
9 DMVPN	B	ダイナミックVPNの冗長構成で、障害からの復旧時に数分間ショートカットルートが作成されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用に影響はありません。問題発生時には、ikev2 outgoing-interfaceコマンドの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降

10	DMVPN	B	センタ側装置で複数のダイナミックVPNを利用しているとき、センタ側で最大接続数を設定しても、その制限が正常に動作しない場合がある問題を修正しました。 ダイナミックVPNを使用している最若番のTunnelインタフェースで接続数制限が設定されている場合に、それ以外のダイナミックVPNで発生します。 <回避策> 複数ダイナミックVPNでは、接続数制限を使用しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
11	GRE	B	GREトンネルのMTUが1280以下にならない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.9.17～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
12	PPPoE	C	show pppoe status/statisticsコマンドで表示されるretries値が、実際の再送数より多くカウントされる問題を修正しました。 <回避策> show pppoe status/statisticsコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
13	Tunnel	B	L2TP/IPsecで複数の端末から同時に接続要求を受けると、まれに接続に失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 接続失敗時には再度接続を行ってください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
14	Tunnel	B	L2TP/IPsecで特定のタイミングでHelloのSession IDが"0"にならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
15	DynDNS	B	ダイナミックDNS機能でサーバと通信できない時に、ddns updateコマンドを実行すると、64byte未満のメモリリークが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> ddns updateコマンドを過度に実行しないでください。	Ver.8.8.22～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
16	DynDNS	B	ddns updateとshow ddnsコマンドの実行モードと権限が正しくない問題を修正しました。 <回避策> ddns updateとshow ddnsコマンドはAdministrator権限のグローバルコンフィグモードで実行してください。	Ver.8.8.22～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
17	WebUI	B	コンフィグを、tftpやWebコンソールの「設定データのアップロード」で設定する場合、web-console設定がコンフィグの先頭付近にある場合、設定が正しく反映されないことがある問題を修正しました。 <回避策> コンフィグをアップロードする場合、web-consoleの設定は、最初の数行には書かないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
18	Gateway	C	再起動が必要な設定を保存すると、show startup-configに要再起動メッセージが含まれてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> show startup-configで不要な再起動メッセージが表示されるだけで、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降
19	PPPoE	B	encapsulation pppoeコマンドでヘルプ表示を行うと、encapsulationの設定が消えてしまう問題を修正しました。 <回避策> encapsulation pppoe でヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.7.15以降
20	SNMP	C	MIBのipRouteAgeが、RIPの経路の場合に正しい値にならない問題を修正しました。 <回避策> MIBの問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.7.15以降

■Ver.9.6 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPv6	B	IPv6でカプセル化を行うトンネルで、リンクアップ時にリンクローカルアドレスを送信元アドレスに設定してしまうことがある。 <回避策> tunnel sourceコマンドにより送信元アドレス指定を行ってください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
2	Gateway	B	IPv6のネットワークモニタ機能で、リンクローカルアドレスを隠蔽できない問題を修正しました。 <回避策> ネクストホップアドレスがグローバルアドレスになるようにして利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
3	NAT	B	FTPのPORTコマンドに小文字が含まれていると、NAT/NAPT、ダイナミックフィルタ、IDS機能で正しく判定できない問題を修正しました。 <回避策> 通常、FTPのPORT/EPRTコマンドは大文字で通知されていますが、まれに小文字で通信する装置があります。そのような場合にはPASVコマンドを利用してください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
4	VRF	B	VRF-Lite設定時、PPP以外のインタフェースでip address ipcpコマンドが設定できてしまう問題を修正しました。 <回避策> VRF-Lite設定時には、PPPインタフェース以外では、ip address ipcpコマンドの設定は行わないでください。	Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
5	MP-BGP	B	BGPにてpeer-group作成後に全体のタイマ(Keepalive/Hold)値の設定を変更しても、動的に生成したNeighborにそのタイマ値が反映されない問題を修正しました。 <回避策> peer-groupを一旦削除し再設定する、もしくは、peer-groupのタイマーの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
6	MP-BGP	B	BGPで動的に生成したNeighborのセッション切断時に、エントリが消滅しない場合がある問題を修正しました。 <回避策> clear ip bgpコマンドで不要なNeighborを指定して消去してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
7	DMVPN	B	ダイナミックVPNの冗長構成で、障害からの復旧時に数分間ショートカットルートが作成されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用に影響はありません。問題発生時には、ikev2 outgoing-interfaceコマンドの設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
8	DMVPN	B	センタ側装置で複数のダイナミックVPNを利用しているとき、センタ側で最大接続数を設定しても、その制限が正常に動作しない場合がある問題を修正しました。 ダイナミックVPNを使用している最若番のTunnelインタフェースで接続数制限が設定されている場合に、それ以外のダイナミックVPNで発生します。 <回避策> 複数ダイナミックVPNでは、接続数制限を使用しないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
9	GRE	B	GREトンネルのMTUが1280以下にならない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.9.17～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
10	Tunnel	B	L2TP/IPsecで複数の端末から同時に接続要求を受けると、まれに接続に失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 接続失敗時には再度接続を行ってください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
11	Tunnel	B	L2TP/IPsecで特定のタイミングでHelloのSession IDが"0"にならないことがある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時でも、実際の運用に影響はありません。	Ver.8.10.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
12	DynDNS	B	ダイナミックDNS機能でサーバと通信できない時に、ddns updateコマンドを実行すると、64byte未満のメモリリークが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> ddns updateコマンドを過度に実行しないでください。	Ver.8.8.22～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
13	DynDNS	B	ddns updateとshow ddnsコマンドの実行モードと権限が正しくない問題を修正しました。 <回避策> ddns updateとshow ddnsコマンドはAdministrator権限のグローバルコンフィグモードで実行してください。	Ver.8.8.22～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
14	WebUI	B	コンフィグを、tftpやWebコンソールの「設定データのアップロード」で設定する場合、web-console設定がコンフィグの先頭付近にある場合、設定が正しく反映されないことがある問題を修正しました。 <回避策> コンフィグをアップロードする場合、web-consoleの設定は、最初の数行には書かないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
15	Gateway	C	再起動が必要な設定を保存すると、show startup-configに要再起動メッセージが含まれてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> show startup-configで不要な再起動メッセージが表示されるだけで、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
16	PPPoE	B	encapsulation pppoeコマンドでヘルプ表示を行うと、encapsulationの設定が消えてしまう問題を修正しました。 <回避策> encapsulation pppoe でヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
17	SNMP	C	MIBのipRouteAgeが、RIPの経路の場合に正しい値にならない問題を修正しました。 <回避策> MIBの問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
18	OSPFv2	B	BGPやRIPのサマリルートの廃棄経路を、OSPFの経路で上書きできない問題を修正しました。 <回避策> BGPやRIPとOSPFを併用する場合は、BGPやRIPのサマリルートがOSPFの経路情報で上書きされないような設定にしてください。	Ver.9.6.12以前	Ver.9.6.16以降
19	OSPFv2	B	OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークが混在する場合、経路が削除されない場合があります。その場合、次回更新時に再配信経路をコスト無限大(16777215)で広告してしまう問題を修正しました。 <回避策> OSPFでマスク長のみが異なる同一ネットワークを混在させないでください。	Ver.9.5.11～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降

20 IKEv2	B	一部の他社ルータとのIKEv2接続において、他社ルータ側からリキーが開始されたときにリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> IX側からリキーを開始するようにライフタイムの調整を行ってください。	Ver.8.7.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
21 DHCPv4	B	DHCPリレー使用時に、DHCPサーバからのofferがDHCPリレー端末にリレーされない場合がある問題を修正しました。 本問題は以下のすべての条件に該当する場合に発生します。 ・DHCPサーバからのDHCPパケットにブロードキャストフラグが設定されていない。 ・DHCPサーバからクライアントに割り当てようとしているIPアドレスをDHCPリレー端末がARP解決中である。 <回避策> 以下のいずれかにより回避可能となります。 ・端末にてブロードキャストフラグを設定する。 ・DHCPサーバにて、強制的にブロードキャストフラグを設定する。	Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
22 WebUI	B	かんたん設定（IP電話サービス接続）のひかり電話オフィスAでは、FORCERENEWのためのDHCP(udp/68)が通らない問題を修正しました。 <回避策> 『任意コマンドの実行』などを使用して、以下のようにスタティックnaptの設定を追加してください。 interface GigaEthernet0.0 　ip napt static GigaEthernet0.0 udp 68	Ver.9.2.20～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
23 RADIUS	B	802.1X認証時、RADIUSサーバからTunnel-Private-Group-IDアトリビュートを含んだRADIUSパケットを受信した場合に数十byte程度のメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 本問題の発生頻度は低く、発生しても数十byte程度のメモリリークのため、通常の運用に影響はありません。	Ver.8.2.19～ Ver.9.6.12	Ver.9.6.16以降
1 URL-Offload	B	url-offload updateコマンド実行時に、48byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> url-offload updateコマンドを頻繁に使用しないでください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
2 TCP	B	tcp ack-challengeコマンドで設定したrate-limitと異なるレートでACK応答する問題を修正しました。 通信量に応じて、rate-limitの約50%～200%のレートとなることがあります。 <回避策> 設定した値とは異なりますが、50%～200%のレートで制限がかかるため、通常運用における実害はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
3 IPv4	B	ポリシールーティングが設定されていて、そのポリシールーティングに該当しない通信に対しての等コストマルチパス(per flow)が動作しない問題を修正しました。 <回避策> マルチパス動作にはなりませんが、いずれかのルートでのパケットは転送は行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
4 IPv4	C	インタフェースの状態が変化するたびにスタティックルートの経過時間がリセットされてしまう問題を修正しました。 <回避策> 実際の経路情報はは消えていないため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
5 MP-BGP	B	BGP4において、router idコマンドあるいはcluster idコマンドで、Router-ID及びCluster-IDを変更しても、BGPセッションを切断せず、そのセッションを張ったまま新しいIDを使用してしまう問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear ip bgp *コマンドで一旦BGPセッションをクリアしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
6 SSH	B	SSHが無効の状態でssh関連の設定(ポート変更やTOS設定)を行うとCPU使用率が上昇する場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHが無効の状態でSSHの設定を行わないでください。 また、CPU使用率が上昇している場合は、SSHを一旦有効にし、再度無効化の設定を行ってください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
7 Gateway	B	syslogパケットが宛先到達不能などのICMPエラーで応答された場合、そのICMPエラーのイベントログ表示およびsyslog送信を行ってしまうことで、その状態を繰り返してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> syslogサーバおよび経路上の装置からのICMPエラーをフィルタしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
8 SNMP	B	SNMP(IPv6)で不正なSNMPパケットを受信すると、バッファリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> SNMPはIPv4で利用する。もしくは、IPv6で利用する場合は、信頼できるSNMPマネージャとの通信に限定するようにしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
9 Ethernet	B	SNMPでdot3CollFrequenciesのみ取得した場合、現在の情報が取得できない問題を修正しました。 <回避策> dot3-MIB全体を順番に取得する等、dot3CollFrequencies以外のdot3-MIBを1つ以上先に取得するようにしてください。	Ver.8.5.21～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
10 Ethernet	B	clear countersコマンドを使用しても、MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされない問題を修正しました。 <回避策> MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされないだけで、通常の動作は正常に行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
11 OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンドで、存在しないinstructionを指定し、存在しないinstructionをnoコマンドで削除するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 存在しないopenflow instructionsコマンドに対してnoコマンドで削除しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
12 SNMP	C	snmp-agent ip trap-sourceコマンドで、全てのパラメータを入力した状態でヘルプを表示すると、コンフィグが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 入力完了後にヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降

13 Gateway	C	show tech-supportコマンドで、インタフェースのコンフィグが2回表示される問題を修正しました。 <回避策> show tech-supportコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
14 IPv4	C	インタフェースコンフィグモードでのshow ip cacheコマンドを実行してもなにも表示されない問題を修正しました。 <回避策> グローバルコンフィグモードでコマンドを実行してください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
15 OpenFlow	C	show openflow flow-entryコマンドで表示されるヘッダの誤記を修正しました。 <回避策> show openflow flow-entryコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.6.12以降
16 Telnet	C	no telnet-server ipv6 enableコマンドの表示されるヘルプの誤記を修正しました。 <回避策> no telnet-server ipv6 enableコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
17 DHCPv4	B	DHCPリレー機能で、ブロードキャストフラグが正しく処理されていない問題を修正しました。 <回避策> DHCPリレー機能利用時は、DHCPクライアントのブロードキャストビットを有効にしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降
18 PPP	B	PPPのCHAP Responseの再送時に、認証情報を空で送信する場合がある問題を修正しました。 <回避策> PPPを再接続で正しく認証されます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.6.12以降

■Ver.9.5 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	URL-Offload	B	url-offload updateコマンド実行時に、48byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> url-offload updateコマンドを頻繁に使用しないでください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
2	TCP	B	tcp ack-challengeコマンドで設定したrate-limitと異なるレートでACK応答する問題を修正しました。 通信量に応じて、rate-limitの約50%～200%のレートとなることがあります。 <回避策> 設定した値とは異なりますが、50%～200%のレートで制限がかかるため、通常運用における実害はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
3	IPv4	B	ポリシールーティングが設定されていて、そのポリシールーティングに該当しない通信に対しての等コストマルチパス(per flow)が動作しない問題を修正しました。 <回避策> マルチパス動作にはなりませんが、いずれかのルートでのパケットは転送は行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
4	IPv4	C	インタフェースの状態が変化するたびにスタティックルートの経過時間がリセットされてしまう問題を修正しました。 <回避策> 実際の経路情報はは消えていないため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
5	MP-BGP	B	BGP4において、router idコマンドあるいはcluster idコマンドで、Router-ID及びCluster-IDを変更しても、BGPセッションを切断せず、そのセッションを張ったまま新しいIDを使用してしまう問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、clear ip bgp *コマンドで一旦BGPセッションをクリアしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
6	SSH	B	SSHが無効の状態でssh関連の設定(ポート変更やTOS設定)を行うとCPU使用率が上昇する場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHが無効の状態でSSHの設定を行わないでください。 また、CPU使用率が上昇している場合は、SSHを一旦有効にし、再度無効化の設定を行ってください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
7	Gateway	B	syslogパケットが宛先到達不能などのICMPエラーで応答された場合、そのICMPエラーのイベントログ表示およびsyslog送信を行ってしまうことで、その状態を繰り返してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> syslogサーバおよび経路上の装置からのICMPエラーをフィルタしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
8	SNMP	B	SNMP(IPv6)で不正なSNMPパケットを受信すると、バッファリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> SNMPはIPv4で利用する。もしくは、IPv6で利用する場合は、信頼できるSNMPマネージャとの通信に限定するようにしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
9	Ethernet	B	SNMPでdot3CollFrequenciesのみ取得した場合、現在の情報が取得できない問題を修正しました。 <回避策> dot3-MIB全体を順番に取得する等、dot3CollFrequencies以外のdot3-MIBを1つ以上先に取得するようにしてください。	Ver.8.5.21～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
10	Ethernet	B	clear countersコマンドを使用しても、MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされない問題を修正しました。 <回避策> MIBのdot3CollFrequenciesがクリアされないだけで、通常の動作は正常に行われます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
11	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンドで、存在しないinstructionを指定し、存在しないinstructionをnoコマンドで削除するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 存在しないopenflow instructionsコマンドに対してnoコマンドで削除しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
12	SNMP	C	snmp-agent ip trap-sourceコマンドで、全てのパラメータを入力した状態でヘルプを表示すると、コンフィグが設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 入力完了後にヘルプ表示を行わないでください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
13	Gateway	C	show tech-supportコマンドで、インタフェースのコンフィグが2回表示される問題を修正しました。 <回避策> show tech-supportコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
14	IPv4	C	インタフェースコンフィグモードでのshow ip cacheコマンドを実行してもなにも表示されない問題を修正しました。 <回避策> グローバルコンフィグモードでコマンドを実行してください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
15	OpenFlow	C	show openflow flow-entryコマンドで表示されるヘッダの誤記を修正しました。 <回避策> show openflow flow-entryコマンドでの表示問題のため、実際の運用に影響はありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.5.11	Ver.9.5.13以降
16	DHCPv4	B	DHCPリレー機能で、ブロードキャストフラグが正しく処理されていない問題を修正しました。 <回避策> DHCPリレー機能利用時は、DHCPクライアントのブロードキャストビットを有効にしてください。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
17	PPP	B	PPPのCHAP Responseの再送時に、認証情報を空で送信する場合がある問題を修正しました。 <回避策> PPPを再接続で正しく認証されます。	Ver.9.5.11以前	Ver.9.5.13以降
1	OSPFv2	B	複数のOSPFルータが同一の外部経路を広告しており、そのTAG値が異なる場合、経路が消えないのにAgeが0にリセットされることがある問題を修正しました。 <回避策> Ageがリセットされるのみで、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
2	MP-BGP	B	BGPにおいて、aggregate-addressコマンドを実行した時に経路集約を行うAS-PATH数が48を超えているとメモリの不正アクセスが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> aggregateされる経路のAS数を48までとしてください。または、aggregateコマンドを使用しないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降

3	MP-BGP	B	BGPにおいて、マルチパス経路を使った通信がある状態で、なんらかの経路変化が発生すると全てのマルチパス経路についてBGP経路広告が行われる問題を修正しました。 <回避策> 経路広告時に負荷が高くなりますが、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
4	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、flow-entryとgroup-entryをコマンドで設定している場合に、group-entryの設定を変更すると、flow-entryが削除されてしまう問題を修正しました。 <回避策> flow-entryコマンドを削除して再登録してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
5	OpenFlow	C	OpenFlowにおいて、flow-entryコマンド削除時にコントローラからの登録削除用のイベントログが表示されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 不要なイベントログが表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
6	WebUI	B	Webコンソールにおいて、HTTPサーバのポート変更を保存し、再起動するとWeb画面が表示されなくなる問題を修正しました。<回避策> HTTPサーバのポートは変更せず、デフォルトの80を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
7	WebUI	C	Webコンソールにおいて、no http-server ip enable状態でもHTTP Serverプロセスの起動回数が増えていく問題を修正しました。 <回避策> 起動回数が増えても実際には起動しないため、運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
8	URL-Offload	B	URLオフロード機能において、使用するブラウザによっては、正しくオフロードされない場合がある問題を修正しました。 <回避策> InternetExplorerを使用してください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
9	URL-Offload	C	no url-offloadコマンドがグローバルコンフィグモード以外でもヘルプに表示される問題を修正しました。 <回避策> CLIの問題のため実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
10	DMVPN	B	ダイナミックVPN機能にて、ハブ拠点障害復旧時に切り戻らない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、ハブ拠点側でclear nhrp redirect-tableコマンドを実行してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
11	PIM	B	システムバッファの枯渇発生時に、PIMにおけるHello送信が停止してしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。	Ver.8.4.23～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
12	Bootstrap	C	装置の起動中にリブートが発生するとcrashログが正しく表示できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ログ表示のみのため、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
13	CODE Gatewey Telnet	B	以下の操作時にメモリへの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 ・interfaceがno shutdownの状態からshutdownコマンドを実行。 ・"telnet ?"や"ping6 ?"のコマンドを実行。 ・telnetのコマンドモード(^]入力)で"?"等、" "(空白)を含まない文字列を入力。 <回避策> 机上で確認されたコード上の問題の修正です。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
14	SNMP	C	show snmp-agent statisticsコマンド実行時に、不要な文字列が表示される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
15	IPv4	C	ip directed-broadcastを設定して logging subsystem ip4 debugでイベントログを確認するとnexthopとして不要な文字列が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログに不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降
16	Gateway	B	software-updateコマンドで、ssl-protocolオプションあるいはsourceオプションに続く文字列の入力途中で、Enter、TABおよび"?"を入力すると、65536バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 該当のオプションでTABやヘルプを実行しないでください。 バージョンアップのコマンドであり、実行後再起動することになるため、運用上は問題ありません。	Ver.9.0.14A～ Ver.9.4.17	Ver.9.5.11以降
17	RADIUS	B	Radiusサーバに問い合わせパケットを送信するインタフェースがshutdownの場合に、認証要求をキャンセル(clear interfaceコマンド) すると、Sent:のpendingカウンタが42億以上の数値になることがある問題を修正しました。 <回避策> shutdownのインタフェースでclear interfaceコマンドを実行しないでください。なお、発生した場合も、動作上は影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.5.11以降

■Ver.9.4 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	MP-BGP	B	BGPにおいて、aggregate-addressコマンドを実行した時に経路集約を行うAS-PATH数が48を超えているとメモリの不正アクセスが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> aggregateされる経路のAS数を48までとしてください。または、aggregateコマンドを使用しないでください。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
2	MP-BGP	B	BGPにおいて、マルチパス経路を使った通信がある状態で、なんらかの経路変化が発生すると全てのマルチパス経路についてBGP経路広告が行われる問題を修正しました。 <回避策> 経路広告時に負荷が高くなりますが、ルータ動作には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
3	WebUI	B	Webコンソールにおいて、HTTPサーバのポート変更を保存し、再起動するとWeb画面が表示されなくなる問題を修正しました。<回避策> HTTPサーバのポートは変更せず、デフォルトの80を使用してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
4	WebUI	C	Webコンソールにおいて、no http-server ip enable状態でもHTTP Serverプロセスの起動回数が増えていく問題を修正しました。 <回避策> 起動回数が増えても実際には起動しないため、運用には影響ありません。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
5	URL-Offload	B	URLオフロード機能において、使用するブラウザによっては、正しくオフロードされない場合がある問題を修正しました。 <回避策> InternetExplorerを使用してください。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
6	DMVPN	B	ダイナミックVPN機能にて、ハブ拠点障害復旧時に切り戻らない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には、ハブ拠点側でclear nhrp redirect-tableコマンドを実行してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
7	PIM	B	システムバッファの枯渇発生時に、PIMにおけるHello送信が停止してしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。	Ver.8.4.23～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
8	Bootstrap	C	装置の起動中にリブートが発生するとcrashログが正しく表示できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ログ表示のみのため、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.15～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
9	CODE	B	interfaceがno shutdownの状態からshutdownコマンドを実行時に、メモリへの不正アクセスが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 机上で確認されたコード上の問題の修正です。実際に問題が発生することはありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
10	IPv4	C	ip directed-broadcastを設定して logging subsystem ip4 debugでイベントログを確認するとnexthopとして不要な文字列が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログに不要な文字列が表示されるのみで、実際の運用には影響ありません。	Ver.9.4.17以前	Ver.9.4.19以降
11	Gateway	B	software-updateコマンドで、ssl-protocolオプションあるいはsourceオプションに続く文字列の入力途中で、Enter、TABおよび"?"を入力すると、65536バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> 該当のオプションでTABやヘルプを実行しないでください。 バージョンアップのコマンドであり、実行後再起動することになるため、運用上は問題ありません。	Ver.9.0.14A～ Ver.9.4.17	Ver.9.4.19以降
1	OSPFv2	B	OSPFでRIBの最大エントリ数を超えており、かつLSA作成に失敗している状態で、clear ospf processコマンドを実行するとメモリリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> OSPFはRIBの最大エントリ数以内で動作させてください。 最大エントリ数を超えてしまった状態で、clear ip ospf processを実行した場合でも、External LSA以外のLSA 1個につき200byte程度のメモリリークのため、実運用上問題となることはほぼありません。	Ver.9.4.15A以前	Ver.9.4.17以降
2	WebUI	B	Webコンソール機能で、特殊なパケットを受信した場合にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IXルータでサポートしているInternetExplorerを利用している場合は、該当する特殊なパケットを送信することがないため、本問題が発生することはありません。 また、信頼できる端末のみアクセス許可するようフィルタリングを設定することで回避可能となります。	Ver.9.2.20～ Ver.9.4.15A	Ver.9.4.17以降
3	SSH	B	SSHでログインし大量のログデータなどを表示させると、SSHのセッションが切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHによるアクセス時には、大量に発生するようなログの表示は行わないでください。	Ver.9.4.15A以前	Ver.9.4.17以降
1	SMF	B	ゼロコンフィグモデルの起動時にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。	Ver.9.4.15	Ver.9.4.15A以降
1	IKEv2	B	IKEv2かつEtherIPの構成で、動的アドレスの装置と接続している場合、相手側の装置が再起動などでアドレスが変更になると通信が継続できない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時には一旦 no ikev2 peerコマンドにより設定を削除後、ikev2 peerコマンドにて再設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
2	BRS	B	ゼロコンフィグモデルでsystem qos max-classes コマンドが利用できない問題を修正しました。 <回避策> デフォルト値が仕様最大値となっているため、運用上で問題になることはありません。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
3	NAT	B	NAPT利用時、同時に複数の端末から同一の宛先にpingを実行すると、2つ目以降のpingが失敗することがある問題を修正しました。 <回避策> 同時に複数の端末から同一の宛先にpingを行わないでください。	Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降

4	IPSec	B	IPsecをサポートするオープンソースのstrongSwanとIKEv1 NATトラバーサルで接続できない問題を修正しました。 <回避策> NATトラバーサルを使用しない。またはIKEv2を使用してください。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
5	IKEv2	B	IKEv2のNATトラバーサルを利用している場合、パケットを3つにフラグメントしてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> インタフェースのMTUを調整をしてください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
6	Ethernet	B	IEEE802.3 SNAPヘッダのフレームを受信できない問題を修正しました。 <回避策> EthernetIIフレームによる通信を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
7	WebUI	B	コンフィグダウンロード機能が動作している状態でWebコンソールからログインしようとしても、コンフィグダウンロード機能を強制的に停止できないために、ログインすることができない問題を修正しました。 <回避策> コンフィグダウンロード機能が動作している状態ではWebコンソールからのログインは行わないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
8	IPv6	B	IPv6でUDPのチェックサムを0で送信してしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> 通常の運用時に発生することはほとんどありません。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
9	OpenFlow	B	OpenFlowコントローラとの接続で、コントローラ側からTCPのRSTを受信する場合、CPU使用率が80程まで上昇してしまう問題を修正しました。 <回避策> OpenFlowコントローラを停止しない。またはRSTを受信しないようにフィルタを設定してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
10	Gateway	B	オペレーションモードにモニター権限、オペレータ権限では実行できないコマンドがある問題を修正しました。 ・configure ・show ddns <回避策> アドミニストレータ権限でコマンドを実行してください。	configure　Ver.8.2.19～ Ver.9.3.11 show ddns　Ver.8.8.22～ Ver.9.3.11	Ver.9.4.15以降
11	SNMP	B	SNMPv2のlinkup/linkdownトラップにifAdminStatus/ifOperStatusが含まれていない問題を修正しました。 <回避策> TRAP上の問題であるため、通常の運用には問題がありません。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降
12	RIP	B	RIPv1/v2混在時、広告経路数が複数パケットになると、経路広告が正しく行われない問題を修正しました。 <回避策> RIPv1あるいはRIPv2のいずれか一方のみを使用してください。	Ver.9.3.11以前	Ver.9.4.15以降

■Ver.9.3 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OSPFv2	B	OSPFでRIBの最大エントリ数を超えており、かつLSA作成に失敗している状態で、clear ospf processコマンドを実行するとメモリリークが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> OSPFはRIBの最大エントリ数以内で動作させてください。 最大エントリ数を超えてしまった状態で、clear ip ospf processを実行した場合でも、External LSA以外のLSA 1個につき200byte程度のメモリリークのため、実運用上問題となることはほぼありません。	Ver.9.3.12以前	Ver.9.3.14以降
2	WebUI	B	Webコンソール機能で、特殊なパケット(HTTPヘッダなしの空行で始まるパケット)を受信した場合にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IXルータでサポートしているInternetExplorerを利用している場合は、該当する特殊なパケットを送信することがないため、本問題が発生することはありません。 また、信頼できる端末のみアクセス許可するようフィルタリングを設定することで回避可能となります。	Ver.9.2.20～ Ver.9.3.12	Ver.9.3.14以降
3	SSH	B	SSHでログインし大量のログデータなどを表示させると、SSHのセッションが切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> SSHによるアクセス時には、大量に発生するようなログの表示は行わないでください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.3.12	Ver.9.3.14以降
1	ロギング	C	以下のイベントログリファレンスの表示を修正しました。 ・ARP.016のDescriptionの誤記を修正しました。 ・NHRP.053で表示されるargsの名前を修正しました。 <回避策> イベントログの表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	ARP Ver.9.2.24以前 NHRP Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
2	NetMon	B	ネットワークモニタ動作時のメモリ枯渇発生時に、下記のアクションが実行されると、リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 ・clear-saアクション ・shutdown-interfaceアクション ・shutdown-dot1xアクション <回避策> 装置のメモリが枯渇している状況で、上記のアクションを実行しないでください。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
3	NetMon	B	ネットワークモニタにおいて、interface-upイベントとshutdown-interfaceアクションで、同じインタフェースを指定すると、コンソールがきかなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタの設定で、interface-upイベントとshutdown-interfaceアクションを、同じインタフェースを指定しないでください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
4	NAT	B	ip napt access-log typeコマンドによる設定変更時にリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 設定変更を行う場合には、no ip napt access-log typeコマンドで一旦設定を削除した後、再設定を行ってください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
5	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてフローキャッシュ機能を有効にした状態で、以下のパケットの転送処理を実施した場合にリブートが発生する問題を修正しました。 ・ICMPでtype 0(echo reply)のフラグメントが必要なパケット ・プロトコル番号が"0"のフラグメントが必要なパケット ・TCP/UDPで宛先ポート"0"、送信元ポート"0"のフラグメントが必要なパケット <回避策> openflow flow-tableコンフィグのflow-cache設定を削除してください。	Ver.9.2.20～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
6	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、双方向の通信中にBVIインタフェースにてno openflow portコマンドを設定するとリブートが発生することがある問題を修正しました。 <回避策> OpenFlowによる通信中にBVIインタフェースでno openflow portコマンドを設定しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.24	Ver.9.3.11以降
7	Telnet	B	Telnetサーバ/クライアント機能有効時に、特殊なパケットを受信するとリブートが発生する可能性のある問題を修正しました。 <回避策> Telnetサーバ機能を外部公開しないでください。 Telnetクライアント機能で不正なTelnetサーバに接続しないでください。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
8	Tunnel	C	show ikev2 statisticsコマンドで負の値が表示される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降
9	GRE	B	GREトンネルにおいて、トンネルのdown時にkeepaliveの応答を受信した場合、それ以降トンネルがupしない場合がある問題を修正しました。 <回避策> システムバッファを枯渇させないでください。 問題発生時には、インタフェースのshutdown/no shutdownを行うことで回復します。	Ver.9.2.24以前	Ver.9.3.11以降

■Ver.9.2 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてOFPMP_AGGREGATEのMultipartに応答すると48バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> Multipart(OFPMP_FLOW)で代用してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
2	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてコントローラとの接続中にclear openflow controller statisticコマンドを実行し、コントローラとの通信を切断した場合、切断時刻が正しく表示されない問題を修正しました。 <回避策> コントローラと再接続したあとに確認してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
3	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて以下の場合にエントリ1つ分メモリリーク(32～数百バイト)する可能性がある問題を修正しました。 ・show openflow flow-entry/group-entryコマンドをパラメータ付きで実行した場合、および表示を途中で中断した場合。 ・flow-entryコマンドで、登録済みのフローエントリを再度登録した場合。 <回避策> ・show openflow flow-entry/group-entryコマンドは、オプション指定なしで利用し、最後まで表示してください。 ・登録済みのフローエントリをCLIで再登録しないでください。	Ver.9.0.54～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
4	OpenFlow	B	BVIインタフェースにタグVLAN設定を行った場合でも、タグなしのフレームを受信してしまう問題を修正しました。 <回避策> タグなしのフレームをタグVLANを設定したBVIに送信しないでください。 またはタグなしのフレームをBVIのMACフィルタで廃棄してください。	Ver.9.1.10～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
5	WebUI	C	Webコンソールに未ログイン状態では、Wake on LANの端末情報が表示されない問題を修正しました。 <回避策> Webコンソールでログイン後に、Wake on LANの情報を表示してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
6	WebUI	B	Webコンソールにて他のユーザがログイン中でも、未ログイン状態のWake on LANページにアクセスするとWake on LANのみのユーザでもWebコンソールにログインされる問題を修正しました。 <回避策> 他のユーザがログイン時には、Wake on LANページへのアクセスは行わないでください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
7	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてshow openflow group-entryコマンドでIXに存在していないGroupを指定するとリブートする問題を修正しました。 <回避策> あらかじめGroupを登録してから、show openflow group-entryコマンドを実行してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
8	RouteMap	C	route-map match ip/ip6 addressコマンドのリスト名に"%"を含む文字列を設定すると、show running-config等でコンフィグを表示する際、正しい値が表示されない問題を修正しました。 <回避策> route-map match ip/ip6 addressコマンドのリスト名に"%"を使用しないでください。	Ver.9.2.20以前	Ver.9.2.24以降
9	NAT	B	ip napt translationコマンドでタイムアウト値をneverに設定した場合でも、2秒でタイムアウトしてしまう問題を修正しました。 <回避策> ip napt translationコマンドのタイムアウト値を最大値に設定してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
10	NAT	B	ip napt translationコマンドでfinrsttimeoutとsyn-timeoutのタイムアウト値を1秒に設定した場合でも、1秒以内にタイムアウトする場合がある問題を修正しました。 <回避策> finrsttimeoutとsyn-timeoutのタイムアウト値を2秒以上に設定してください。	Ver.9.2.20	Ver.9.2.24以降
1	SNMP	B	SNMPにてsysUpTimeを連続で取得すると先に取得した値と後に取得した値が逆転する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 連続してsysUpTimeを取得する場合には間隔を空けてください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
2	GRE	B	GREトンネルでチェックサムまたはシーケンス番号オプションを設定している場合に、対向先ルータが送信側でkeyオプションを設定せず、自ルータが受信側でkeyオプションを設定していると、本来は設定不一致で受信パケットを廃棄すべきところを、廃棄せずに受信してしまう問題を修正しました。 <回避策> 双方の装置でkeyオプションを設定してください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
3	ProxyDNS	B	IPv6 ProxyDNSのcompatibility設定時、IPv6拡張ヘッダ付きDNS要求にキャッシュを使用して応答した場合に104byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> compatibilityを使用しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
4	IKEv2	B	IKEv2において、IKE-SA削除処理中にChild-SAの削除コマンドを実行すると192byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> IKE-SA削除処理中はChild-SAの削除コマンドを実行しないでください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
5	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、Flow-ModでCookieのみを指定して、Cookieが同一のフローエントリを全て削除しようとした場合でも、指定したCookieの条件が無視され全てのフローエントリが削除される問題を修正しました。 <回避策> Cookieを指定した削除を行わないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
6	MP-BGP	C	以下のbgpコマンドで表示される"RIB entry for A.B.C.D/ZZ, table version X"の table version に不定値が表示される問題を修正しました。 ・show ip bgp A.B.C.D/<0-32> <回避策> 表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
7	IKEv2	B	IKEv2において、service password-encryption コマンドの実行後に ikev2 authentication コマンドを実行した場合、パスワードが暗号化されない問題を修正しました。 <回避策> 一旦、no service password-encryptionコマンドにより削除した後、再度、service password-encryptionコマンドを実行してください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降

8	IKEv2	B	IKEv2接続中に、対向装置をIXがサポートしないAHを使用する設定に変更してRekeyさせると、リブートすることがある問題を修正しました。 <回避策> AHによる認証ではなく、ESPによる認証機能を使用してください。	Ver.8.7.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
9	VRRP	B	vrrpコマンドにて仮想IPv6アドレスの設定時にメモリ確保に失敗すると、リブートが発生する可能性がある問題を修正しました。ただし、メモリ確保の失敗は空きメモリ量が少ない時のみ発生するため、通常運用時には発生しません。 <回避策> 空きメモリ量が少ない状態で運用しないでください。	Ver.8.6.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
10	VRRP	B	vrrp VRRP-ID ipv6 コマンドで仮想IPv6アドレスの追加・削除を実行する度に[仮想IPv6アドレス設定数] x32 byteのメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> vrrp VRRP-ID ipv6 コマンドで仮想IPv6アドレス削除後は装置を再起動してください。	Ver.8.6.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
11	IKEv2	C	show running-config security policy NAME コマンドにて、IPsecポリシーが設定されていないポリシー名を指定した後に<TAB>を入力してもヘルプが表示されない問題を修正しました。 <回避策> show コマンドで表示されるヘルプの表示問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
12	IRB	B	logging timestamp設定時に大量のログが発生した場合、大幅な時刻のずれが発生し、エラーログでRTC failedが検出される場合がある問題を修正しました。 <回避策> logging timestampを使用しないでください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
13	MP-BGP	B	BGP使用時に以下のすべての条件を満たす場合、BGPへの経路再配信が行われない場合がある問題を修正しました。 ・BGPで経路Aを学習している。 ・自装置で経路A(BGP以外の経路)がupしている。 ・経路Aが再配信される設定になっている。 ・upした経路A(BGP以外)の再配信処理する前に、学習している経路A(BGP)の削除を受信する。 <回避策> BGPで受信している経路と同じ経路を自装置から再配信しないでください。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
14	Gateway	B	system interfacesに範囲外のパラメータを設定したコマンドをstartup-configに直接書き込み、装置を起動した場合、意図しないパラメータでコマンドが設定される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 範囲外のパラメータを設定したsystem interfacesをstartup-configに設定しないでください。 CLIでは該当の設定はエラーとなります。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
15	Gateway	C	show tech-support output [ファイル名] コマンドでファイルアクセスに失敗した場合、コマンド実行結果で表示される書き込みサイズが誤った値で表示されてしまう可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
16	WebUI	B	Webコンソールからコマンドを流し込む際に、コマンドのタイムアウト時間まで応答が返らない場合がある問題を修正しました。 [タイムアウト時間] ・Webコンソール 20秒 <回避策> 問題発生時には再度コマンドを実行してください。	Ver.9.0.14～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降
17	SNMP	C	SNMP_47のイベントログで、アドレス表示が不正になる場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.1.10以前	Ver.9.2.20以降
18	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてTable:254(末尾のフローテーブル)にフローエントリを登録した状態で、table_idにOFPTT_MAX(255)が設定されたOFPMP_FLOWまたはOFPMP_AGGREGATEのMultipart requestメッセージを受信するとリブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> Table:254にフローエントリを登録しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.1.10	Ver.9.2.20以降

■Ver.9.1 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてハッシュのキーにvlan-idを指定し、PRESENT bitが立ったvlan-idをMatch条件に持つフローが登録されている場合、該当vlan-idのパケットを受信しても正しくフローを検索できないため、意図した通りにパケットが転送されない問題を修正しました。 <回避策> ハッシュのキーにvlan-idを使用しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
2	OpenFlow	B	OpenFlowにおいてハッシュのキーに以下を指定している場合、マスクなしのフローエントリと、マスクが一致するフローエントリしか高速化されない問題を修正しました。 - mac-src-mask - mac-dest-mask - ipv4-src-plefix - ipv4-dest-plefix - ipv6-src-prefix - ipv6-dest-prefix <回避策> 転送は高速化されませんが通信は行われます。	Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
3	OpenFlow	C	OpenFlowのflow-tableモードでshowとclearコマンドのヘルプ表示に同じコマンドのヘルプが2行表示されるものがある。また、ヘルプが2行表示されるコマンドのTAB補完が動作しない問題を修正しました。 <回避策> TAB補完できない場合は、コマンド名を全て入力してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
4	IDS	B	IDS機能使用時にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IDS機能を無効化してください。	Ver.8.10.11～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降
5	NGN	B	NGNデータコネクト使用時に、IKE SAのリキーが失敗する問題を修正しました。IKE SAリキー失敗後、IPsec SAのリキーが行われないため、IPsec SA作成時にパケット廃棄が発生します。 <回避策> IKE SAのライフタイムを長く、またはIDLEタイムを短く設定するなどでIKE SAのリキーを発生しにくくしてください。	Ver.8.9.17～ Ver.9.0.54	Ver.9.1.10以降

■Ver.9.0 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、PacketOutで送信するパケットに対して、Type指定によるMACアクセスリストが動作しない問題を修正しました。 <回避策> offset指定を使用してください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
2	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、フローテーブル255に移行するフローエントリを生成しマッチさせるとリブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> フローテーブル255に移行するフローエントリを使用しないでください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
3	OpenFlow	B	OpenFlowにおいて、Packet-Inの負荷が高い場合、コントローラとの接続が切断される場合がある問題を修正しました。 <回避策> Packet-Inがあまり発生しないフロー登録を行ってください。	Ver.8.11.11～ Ver.9.0.14A	Ver.9.0.54以降
4	アクセスリスト	B	icmpを指定するアクセスリスト登録時にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> icmpを指定するアクセスリストを登録する際は、運用時間帯以外で行ってください。	Ver.9.0.14A以前	Ver.9.0.54以降
5	冗長化電源	C	電源二重化状態で起動した場合、以下の1系電源モジュール実装のログがエラーログに出力される問題を修正しました。 ・ALERT: Power module 1: System AC Power Supply inserted <回避策> エラーログ出力の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.9.0.14A以前	Ver.9.0.54以降
1	Gateway	C	software-updateコマンドで、文字列の補完のために<Tab>を入力するとshow crashinfoに"Software update failed."のエラーログが追加される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.11.11	Ver.9.0.14以降
2	Gateway	C	以下の機能が無効時にも、show tech-supportコマンドで情報が表示される問題を修正しました。 ・Webコンソール ・L2TP ・スケジューラ <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Webコンソール Ver.8.11.11以前 L2TP Ver.8.10.11～Ver.8.11.11 スケジューラ Ver.8.8.22～Ver.8.11.11	Ver.9.0.14以降
3	ブリッジ	B	ブリッジ機能でbridge ip/ipv6コマンドを設定し、そのインタフェースでPPPoEフレームをQoSやbridge ip filterコマンドなどにより廃棄した場合、メモリ破壊する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> bridge ip/ipv6を設定する場合は、PPPoEフレームをQoSやbridge ip filterなどにより廃棄しないようにしてください。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
4	ログ	C	デフォルトコンフィグ削除時、誤ってスタートアップコンフィグ削除としてトラップ送信、イベントログ出力されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 誤ったトラップ送信、イベントログ出力が行われますが、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.11.11以前	Ver.9.0.14以降
5	IKEv2	B	IKEv2のソースアドレス指定にVirtualインタフェースを設定を行っている状態で、イニシエータとして動作した場合、エラーとなりネゴシエーションを開始できない問題を修正しました。 <回避策> IKEv2でのソースアドレス指定時には、インタフェースではなくアドレスを設定してください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.11.11	Ver.9.0.14以降
6	SSH	B	SSHサーバ使用時、クライアントからTCPがopenされた後、すぐにresetを受信した場合、装置がリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用中にTCPがopenされた後、すぐにresetを受信するような状況はほとんど発生しないことから、問題が発生することはほぼありません。	Ver.8.7.22～ Ver.8.11.11	Ver.9.0.14以降

■Ver.8.11 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	Gateway	C	装置で温度アラームが発生した場合、show error-logコマンドにて最新10件分の情報を確認することができますが、10件目のアラームだけ情報が更新されず、履歴に残り続けしまう問題を修正しました。 <回避策> ログ情報の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
2	Telnet	B	Telnetクライアント機能でサーバと接続中に、サーバがメッセージ送信直後にセッションを切断するような動作を行うとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 一般のTelnetサーバは、メッセージ送信直後にセッションを切断しないため、通常は発生しません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
3	IPv4	B	ip directed-broadcastコマンドを設定した後に、ip addressコマンドを設定すると、ip directed-broadcastの設定が削除される問題を修正しました。 <回避策> ip addressコマンドを変更する場合、ip directed-broadcastコマンドを再設定してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
4	NAT	B	IPsecトンネルでdf-bit ignoreが設定されている場合、そのインタフェースでNAT/NAPTを設定しても、アドレス変換が行われず送信されてしまう問題を修正しました。 <回避策> IPsecトンネルでNAT/NAPT変換が必要な場合はdf-bit ignoreを設定せず、ip forced-fragmentをトンネルインタフェースに設定してください。	Ver.8.2.19以前 Ver.8.7.22～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
5	Gateway	C	MSS調整機能を有効にしているトンネルインタフェースで、そのトンネルインタフェースがdownしている場合、show ip interfaceコマンドでMSSの値が異常な値で表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
6	IKEv2	B	NATまたはフィルタが設定されたIKEv2/IPsecv3トンネルインタフェースで、フラグメントされた平文パケットを暗号化する際に、リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 受信インタフェースで、ip filter forced-reassemblyコマンドを設定し、IKEv2のトンネルインタフェースに転送される前にリアセンブル処理を行うようにしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
7	IPSec	B	IPv4 over IPv6のIKEv1/IPsecトンネルでは、df-bit ignoreの設定が動作しない問題を修正しました。 <回避策> トンネルインタフェースでip forced-fragmentを設定してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
8	IPSec	B	L2TP/IPsecで接続する複数の端末が、以下の条件である場合、同時接続が不可となる問題を修正しました。 1. 同一のNAT配下に接続されている場合 2. 異なるNAT配下で同じアドレスを使っている場合○ <回避策> 1.で端末にIDが設定でき、アグレッシブモードで接続される場合は、異なるIKE/IPsecポリシーを選択させる設定で回避可能となります。 1.の上記以外の場合や、2.の場合についてはアドレスの変更が必要となります。	Ver.8.10.11～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
9	Tunnel	B	L2TP/IPsecにおいて受信ウィンドウサイズ(RWND)を設定できるクライアントで、RWNDの設定を32769以上にした場合、接続後のL2TPトンネルが一定時間後に切断されてしまう問題を修正しました。 <回避策> iOS、Android、Windows 7/8の端末ではRWNDの設定を変更できないため、本問題は発生しません。	Ver.8.10.11～ Ver.8.10.11B	Ver.8.11.11以降
10	MP-BGP	C	show running-config の改行コードに LF だけの行がある問題を修正しました。 <回避策> show running-config における改行コードの問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
11	DHCPv4	B	IPv4のDHCPサーバ機能で、giaddrとciaddrが0.0.0.0のDiscoverやRequestを受信した場合、ブロードキャストビットに従ってOfferやAckを送信べきところ、常にブロードキャストで送信している問題を修正しました。 <回避策> 通常のDHCPクライアントはブロードキャストでも受信できるため運用上問題になることはありません。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降
12	OSPFv2	B	OSPFのタグ付き外部経路がエリア内もしくはエリア間経路に変化した時、経路情報にタグが付いたままになる問題を修正しました。 <回避策> Route-mapのマッチ条件でtagを使用する際、マッチする経路が外部経路と内部経路で学習する場合は、内部経路を外部経路として広告してください。	Ver.8.10.11B以前	Ver.8.11.11以降

■Ver.8.10 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPSec	B	以下の何れかの設定を行った場合、まれにリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 ・IPv4 over IPv6 IPsec使用時に暗号化パケットの出力インタフェースに ipv6 tcp adjust-mss autoを設定 ・IPv6 over IPv4 IPsec使用時に暗号化パケットの出力インタフェースに ip tcp adjust-mss autoを設定 <回避策> 暗号化パケットの出力インタフェースに設定されるMSS調整の設定を削除する、またはMSS調整の設定をautoではなく固定値で設定する。	Ver.8.10.11以前	Ver.8.10.11B以降
1	Gateway	C	極稀にLED(PWRを除く)が点滅しなくなることがある問題を修正しました。 <回避策> LEDの点灯問題のため、通信には影響ありません。実際の運用状況で、LED(PWRを除く)が3年間点滅停止の状態が継続することはまずないことから、問題が発生する可能性はほとんどありません。 また、3年以内にLED(PWRを除く)が点滅する状態にするか、電源off/on または reload コマンドによる装置の再起動を行うことで、回避可能となります。	Ver.8.2.19～ Ver.8.9.17B	Ver.8.10.11以降
2	Gateway	B	software-update, startup software-update, pki, startup config-downloadの各コマンドをHTTP/HTTPSで実行し、サーバからの応答が200 OKではなく、200 Document followsであった場合に、成功と判断できず失敗してしまう問題を修正しました。 <回避策> サーバ側の応答が200 OK となるようサーバ側の設定を変更してください。	Ver.8.2.19～ Ver.8.9.17B	Ver.8.10.11以降
3	IKEv2	B	受信したIKEv2の送信元ポート番号がNAT/NAPT機能などにより500以外の番号に変換されていた場合、正しく応答できない問題を修正しました。 <回避策> NAT/NAPTなど変換する装置で500番ポートを予約し、ポートが変更されないようにしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.9.17B	Ver.8.10.11以降
4	Gateway	B	温度アラーム発生数(Temperature fault count)が10回未満の状態で、温度アラーム発生中に再起動した後、温度アラーム発生数(Temperature fault count)と一覧表示されている温度アラーム発生(occurred)の数が不一致となる問題、更に、その不一致の状態で温度アラームが発生し、温度アラーム発生(occurred)が10件を超えた状態でshow crashinfoコマンドまたはshow error-logコマンド実行するとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 設置環境を見直し、温度アラームが発生しない環境にしてください。 温度アラームが発生していない状態で、show error-logコマンドまたは、show crashinfoコマンドを実行し、温度アラーム発生件数(occurred)と温度アラーム復旧件数(recovered)が一致しない場合は、clear error-logコマンド、またはclear crashinfoコマンドを実行し、表示をクリアしてください。	Ver.8.3.39～ Ver.8.9.17B	Ver.8.10.11以降
5	RIP	B	RIPでメトリック16のサブネット経路を受信し続けるとサブネット経路のUNREACH状態が解除されない問題を修正しました。 <回避策> RIPv1およびRIPv2のオートサマリを利用しない設定にしてください。またはメトリック16の経路を受信し続けないように、対向ルータの設定を調整してください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
6	RIP	B	RIPでメトリック16の経路のみを受信した場合、またはネクストホップが自アドレス向きのRIP経路を受信した場合に、ルーティングテーブルにhidden routeとして登録されますが、この経路が削除されない問題を修正しました。 <回避策> 経路が削除されないため、ルーティングテーブルに登録できる経路が減少しますが通信は継続可能となります。clear ip rip processコマンドで消すことができますが、一旦全経路が消去されます。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
7	RIP	B	RIPv1で使用していたオートサマリ経路が、サブネットルートが全て消えても削除されないことがある問題を修正しました。RIPv1の送信を使用して、RIPv2などでクラスレス経路の追加削除を行っている場合に発生する可能性があります。 <回避策> 経路が削除されないため、ルーティングテーブルに登録できる経路が減少しますが通信は継続可能となります。clear ip rip processコマンドで消すことができますが、一旦全経路が消去されます。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
8	NAT	B	NAPTのホスト単位のセッション数制限機能の対象に、NAPTアドレスが含まれてる問題を修正しました。 <回避策> NAPTアドレスが頻繁に変更される環境では、不必要なアドレスが管理されてしまうことがありますが、通常の運用で問題になることはほとんどありません。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
9	PPP	B	アドレス固定設定している装置に、誤ってIPCPによりアドレスを払い出す設定となっている構成において、対向装置で固定設定しているアドレスが払い出せない場合、その要求はRejectしますが、ルーティングテーブルのPeerのアドレスとしてそのアドレスが登録されてしまう問題を修正しました。 <回避策> アドレスを払い出す設定になっているインタフェースの対向装置のアドレスを固定設定にしないでください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降
10	ロギング	B	電圧アラームが発生した場合にerror-logに記録されるが、装置を再起動するとその電圧アラームの情報が消えてしまう問題を修正しました。 <回避策> 装置の再起動前に、show error-logコマンドにより電圧アラーム発生の有無を確認してください。	Ver.8.9.17B以前	Ver.8.10.11以降

■Ver.8.9 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	IPSec	B	IPv4 over IPv6 IPsec、およびIPv6 over IPv4 IPsec使用時に複数トンネルのレスポンダとなる場合、正しくトンネルが選択されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> IPsec remote IDを設定してください (IPv4 over IPv6の場合はIPv4形式、IPv6 over IPv4の場合はIPv6形式で設定してください)。	Ver.8.9.17以前	Ver.8.9.17B以降
1	GRE	B	GREにおいてキーオプションを使用し、同一対地に対して複数のトンネルの設定を行なったとき、ルートキャッシュが無いと誤ったトンネルインタフェースで受信処理を行なってしまう場合がある問題を修正しました。 <回避策> GREを使用し、同一対地へ複数のトンネル設定を行う場合にはキーオプションを使用しないで下さい。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
2	GRE	C	以下のコマンドの設定途中でTABキーや?キーを押した場合、コマンド未設定状態にもかかわらず、reload時にコンフィグ保存を促すメッセージが表示される問題を修正しました。 ・tunnel checksum ・tunnel keepalive ・tunnel key ・tunnel sequence-number <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
3	GRE	C	GRE使用時にtunnel sourceが未設定であった場合、以下のイベントログのソースアドレスが不正な値となる問題を修正しました。 ・GPTL.004, GPTL.005, GPTL.006, GPTL.008, GPTL.013, GPTL.015, GPTL.016, GPTL.017 <回避策> tunnel sourceコマンドを設定してください。また、表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23～ Ver.8.8.22	Ver.8.9.17以降
4	Shell	C	以下のコマンドにおいて、数値範囲入力の際に入力完了せず途中でTABキーを押すと、エラー表示となる問題を修正しました。 ・ip napt static ・ip napt service ・snmp-agent mib-2 ifindex interface range ・show aaa accounting-records ・show logging <回避策> コマンド設定時に範囲入力の途中でTABキーを押さないで下さい。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
5	SNMP	C	イーサネットデバイスの MIBでifInNUcastPkts と ifOutNUcastPkts はマルチキャストパケットのみがカウントされていて、ブロードキャストパケットがカウントされていない問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の問題のため、動作に影響はありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
6	DNS	B	複数のDNSサーバが登録され、そのうち最優先のサーバがIPv6アドレス指定の場合、その最優先サーバへの経路が無いとそれ以降の優先度のサーバに問い合わせを行なわない問題を修正しました。 <回避策> Null宛の経路を設定するなど、何らかの経路を登録してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
7	Gateway	C	software-updateコマンドでHTTP/HTTPSでの送信エラーメッセージの先頭に%を表示していない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.8.22	Ver.8.9.17以降
8	DHCPv6	C	DHCPv6において、ia-pd prefixコマンドなどでVALID-LIFETIMEを変更した後のReconfigure,Renew,Reply時に、DHCPv6サーバに接続されているクライアント情報の生存時間が更新されない問題を修正しました。 <回避策> VALID-LIFETIME変更時は、clear ipv6 dhcp serverを実行して下さい。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
9	DHCPv6	B	DHCPv6 InformationRequestクライアントにおいて、DHCPv6サーバから Reconfiureを受信した後、再度InformationRequestを送信し、Replyを受信して更新を行なう際にメモリリークする問題を修正しました。メモリはReconfigure 1回につき 768byteリークします。 <回避策> no reconfigure-acceptコマンドを設定することで回避可能となります。また、Reconfiureは通常は発生しないため、運用にはほとんど影響ありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
10	DHCPv6	B	DHCPv6サーバでInformationRequestを受信してneighbor情報を作成すると、その後、同一neighborから、ReconfigureAccept情報の異なるInformationRequestを受信しても、初めに作成したneighbor情報のReconfigureAcceptが適用されたままとなる問題を修正しました。 <回避策> 以下で何れかの方法で回避可能となります。 ・DHCPv6 InformationRequestクライアントのReconfigureAcceptオプションを変更しない。 ・DHCPv6 Information RequestサーバのDNSやNTPサーバの変更時は、clean ipv6 dhcp server コマンドにより接続情報をクリアする。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
11	DHCPv6	B	DHCPv6サーバにて、CPEからClientIDなしのInformationRequestを受信するとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ClientIDなしのInformationRequestを送信するCPEをフィルタしてください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
12	DHCPv6	B	DHCPv6にて、PEでサーバプロファイルのT1とVALID-LIFETIMEを同値に設定すると、設定時間経過後にCPEがリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> valid-lifetimeはinfinityに設定してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
13	DHCPv6	B	DHCPv6にて、InformationRequestのReply受信時に要求したOption Request Option(ORO)を満たさない場合、1秒間隔でInformationRequestが送信される問題を修正しました。 <回避策> サーバとクライアントの設定を合わせてください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降

14	DHCPv6	C	オペレータ、およびモニタモード権限のユーザでclear ipv6 の後に?キーを入力すると実行できないdhcpコマンドがHELP表示される問題を修正しました。 <回避策> 実行できないコマンドのHELPが表示されるだけで、運用には影響しません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
15	DHCPv6	C	DHCPv6サーバにおいて、ia-pd prefixを削除後に同じプレフィックスでプレフィックス長が異なる設定を行った場合、その設定が装置に反映されない問題を修正しました。 <回避策> 設定後にclear ipv6 dhcp serverコマンドを実行することで反映されます。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
16	アクセスリスト	C	show tech-supportコマンドで表示される show ipv6 access-list cache の情報がIPv4のキャッシュエントリを表示している問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 access-list cacheコマンドにより確認してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
17	DHCPv6	B	DHCPv6でIPv6アドレスを削除する際にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用で問題が発生することはありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
18	Ethernet	C	SW-HUBのportをshutdownした時に発行されるTRAPに格納されている picoExtIfAdminStatusがupとなる問題を修正しました。 <回避策> MIBのgetによりpicoExtIfAdminStatusの値を取得してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
19	IPv6	B	RAとDHCPv6で同一アドレスを同時に取得するとクラッシュが発生する問題を修正しました。 <回避策> 複数の手段により同一のプレフィックスを取得しないようにしてください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
20	DHCPv4	B	DHCPv4にてアドレス固定払い出しを行っている状態で、ルータを再起動した場合、クライアントへサーバIDが通知されない問題を修正しました。 <回避策> 払い出されたアドレスは使用可能なため、通信に影響はありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
21	DHCPv6	B	DHCPv6サーバでReconfigureを再送してネイバから応答がなかった場合に、ネイバのExpireが0になってもネイバ情報が削除されない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時にはclear ipv6 dhcp serverコマンドを実行してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
22	DHCPv6	B	DHCPv6においてReconfigureの再送回数が1回多い問題を修正しました(再送回数: 9回 → 8回)。 <回避策> 再送回数が多いだけで、運用には影響しません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
23	DHCPv6	C	show ipv6 dhcp serverコマンドでまれに、Expire 4294967295 と誤って表示される可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
24	Gateway	B	FAN障害を3回連続発生でアラームとすべきところ、FAN障害が連続しなくても合計3回発生でアラームとしていた問題を修正しました。 <回避策> アラームが3回発生するような場合は故障の可能性が高いため、実際の運用では影響はありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
25	DHCPv4 DHCPv6	B	DHCPv4とDHCPv6の各プロファイルでプロファイル内の設定を残したままプロファイルを削除するとメモリリークする問題を修正しました。 <回避策> プロファイル内の設定を削除してからプロファイルを削除してください。また、プロファイル削除時にわずかにリークする程度であり、問題が発生しても運用にはほとんど影響はありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
26	IKEv2	B	IKEv2の送信インタフェース固定設定を使用し、送信先をPPPoEインタフェースに固定すると、PPPoEセッション再接続時にIPsec通信できないことがある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークモニタ機能を併用し、PPPoEセッション切断時にSAをクリアしてください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.8.22	Ver.8.9.17以降
27	DHCPv6	C	以下のコマンドで、DUID-NAMEを32文字以上登録してもエラーにならない問題を修正しました。 ・ia-pd static <回避策> 入力は31文字までの仕様となっているため、31文字以内で設定してください。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
28	NGN	B	NGNを利用していない環境でike policy コマンドにngn-dynamicを設定して通信を行なうとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> NGNトンネル以外ではngn-dynamic設定を行なわないでください。	Ver.8.7.22～ Ver.8.8.22	Ver.8.9.17以降
29	Gateway	C	温度や電圧等の読み込みに一度も成功していない場合に、show environmetコマンドで不正な値を表示する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 発生時は、障害が復旧した状態でreloadを実行してください (電源OFF/ONでは復旧しません)。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
30	Gateway	B	装置起動時に以下の条件に該当する場合にALMランプが点灯しますが、show crashinfoコマンドでには何も表示されない問題を修正しました。 ・装置温度 0～4℃ または 61～65℃ ・FAN 回転異常発生 <回避策> 装置起動後、装置温度が5～60℃に戻る、FANが正常回転数に戻るとALMランプは消灯します。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降
31	Ethernet	C	device resetを行うとshow devices detailのController statisticsのカウンタが正しく表示されないことがある問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の問題のため、動作に影響はありません。	Ver.8.8.22以前	Ver.8.9.17以降

■Ver.8.8 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	Gateway	C	一部のコマンドで、設定変更後に保存しないまま再起動コマンドを実行した場合でも、設定未保存の警告メッセージが表示されない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
2	ロギング	C	以下のイベントログ表示の誤記を修正しました。 イベントログ　修正前　　修正後 ICMP_8　　Addres　　Address DH6_17　　Dupulicate　Duplicate IGMP_61　　messege　　message PDN6_34　　mulformed　malformed EAP_20　　packt　　packet RIP_36　　Summarised　Summarized GW_59　　mininum　　minimum <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
3	Shell	B	showコマンドの表示が完了する前に、telnetやsshの接続を切断すると1024byteのメモリが2個リークする問題を修正しました。 <回避策> showコマンドの表示中に、telnetやsshの切断を行わないでください。	Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
4	Gateway	B	複数のクライアントからtelnet接続され、さらに装置が高負荷の状態でコネクションが正常に終了しなかった場合、稀にコマンドヒストリのメモリがリークすることがある問題を修正しました。 <回避策> 頻繁にtelnetの接続切断が行なわれる環境でも、発生するメモリリーク量はごくわずかなため、運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
5	Gateway	C	software-update, startup software-updateコマンドにて、サポートしていないfileプロトコルをfile:///にて指定した場合、エラーメッセージが表示されない問題を修正しました。 <回避策> fileの指定は未サポートのため、file指定を行なわないでください。	Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
6	IPsec	B	IPsecにて共通ペイロードヘッダのみのパケットを受信するとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IXに対して、共通ペイロードヘッダのみのパケットを送信しないでください。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
7	DHCPv6	B	DHCPv6-PDサーバ時、クライアントがSolicitでオプションを要求せず、Requestでオプションを要求した場合、要求されたオプションを返さない問題を修正しました。 <回避策> 通常このような動作を行なうクライアント装置はないので、通常の運用で問題になることはありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
8	Telnet	C	Telnet接続時に一行で表示する文字数が数百文字以上となる場合、同じ文字列を表示し続ける場合がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時は、Telnetクライアント側からTelnet接続を切断して下さい。また、ローカルコンソールやSSHでの接続時には問題は発生しません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
9	IPsec	B	IKEのELSを設定し、NotifyのType 0またはType 31を受信するとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> NotifyのType 0,Type 31は未使用のため、通常の運用では発生しません。また、暗号、認証したパケットの受信または、自装置から送信したパケットの応答で発生するため、不特定な相手からの受信では問題は発生しません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
10	IKEv2	C	IKEv2 SAとChild SAを作成し show ikev2 sa, show ikev2 sa brief, show ikev2 child-sa, show ikev2 child-sa briefコマンドで表示したときの以下の問題を修正しました。 ・negotiation-direction設定がInitiator only、Responder onlyでない場合でDirection表示を行うと行末にある1つ余分なスペースを削除しました。 ・show ikev2 saコマンドでLocal Addr/Remote Addrとセパレータの間が2つのスペースだがshow ikev2 child-saでは1つであり統一されていないためスペースを1つに統一しました。 ・MessageID表示で行末にある1つ余分なスペースを削除しました。 ・残りLifetimeの数値表示を行った行末にある複数のスペースを削除しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
11	IPv6	C	IPv6のマルチパス環境において、show ipv6 cacheコマンドのL2 cacheが正しく表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23～ Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
12	IKEv2	B	IKEv2にてIDペイロードのタイプがipv4、ipv6、keyid、rfc822-addr、fqdn以外のパケットを受信し、ELSで表示しようとするとリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> IKEv2のELSを無効にして下さい。 対向先からIDのタイプをipv4、ipv6、keyid、rfc822-addr、fqdn以外送らないで下さい。	Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
13	IKEv2	B	IKEv2にて暗号ペイロードを復号した際、平文になったペイロード内のパディング長がIKEヘッダとペイロード長の合計より長いなど不正な大きい値を示す場合、リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> 復号後の内容が不正な場合のみ発生するため、不特定な相手からのパケットでリブートが発生することはありません。	Ver.8.7.22	Ver.8.8.22以降
14	診断	B	装置の高負荷時に温度、電圧異常を誤検出する可能性のある問題を修正しました。 <回避策> 通常の運用時に問題が発生する可能性はほとんどありません。問題が発生しても次の読み出し周期で復旧します。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降

15	IPsec	B	IPsecによる暗号化後のパケットサイズが65,535byteを超えるパケットをpingにより送信した場合、リブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> pingにより、暗号化後のサイズが65,535byteを超えるデータを送信しないで下さい。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
16	IPsec	B	IPsecによる暗号化後パケットでペイロード長0のパケットを受信した場合、リブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> IXに対して暗号化後パケットでペイロード長0のパケットを送信しないで下さい。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
17	Ethernet	C	show interfaces, show devicesコマンドで表示されるフレームサイズ毎の transmitted/received の値が4,194,304を超えると同時にその表示を行った場合、表示される値が正しい値にならない場合ある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
18	TCP	C	IPv6 TCP切断時に表示されるELSに、IPv4アドレス表示を行うTCP:04を使用している問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降
19	TCP	C	ELSで表示されるTCP:069のアドレスが不正な値となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.7.22以前	Ver.8.8.22以降

■Ver.8.7 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	Gateway	C	コマンドでヘルプを表示させる際、最初の1ページ目で表示される行数が terminal lengthコマンドで設定した値より1行少なく表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
2	NGN	B	NGNオンデマンドVPNにおいて、re-INVITEリクエスト受信時に応答を送信しない問題を修正しました。 <回避策> IX対向ではre-INVITEを送信しないため、運用には問題ありません。	Ver.8.6.22～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
3	Shell	C	画面幅を超える文字数の行を表示すると terminal sizeコマンドで指定した通りに表示されない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
4	Gateway	B	DHCPv6クライアントコンフィグモードで ia-pd subscriberコマンドの設定・削除を行うとリブートする可能性のある問題を修正しました。 <回避策> 問題が発生する可能性は低く、実際の運用で問題になることはほとんどありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
5	Telnet	B	Telnetのセッション接続・切断を繰り返すと同時に、Telnetの有効・無効及びポート番号変更を繰り返すとリブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> Telnetのセッション接続・切断を繰り返すと同時に、Telnetの有効・無効及びポート番号変更を繰り返すような操作を行わないでください。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
6	Gateway	C	以下のコマンドを設定後に保存を行うと、show *configコマンドで表示する際、コマンド設定値の末尾に不要なスペースが表示される問題を修正しました。 ・ip route ・ip address A.B.C.D/<0-32> ・ip address dhcp ・ip rip summary-address ・boot connector-type ・ipv6 name-server ・option (DHCPプロファイルコンフィグモード) ・neighbor A.B.C.D connect-interval (BGPプロファイルコンフィグモード) ・neighbor A.B.C.D timers (BGPプロファイルコンフィグモード) ・aggregate-address A.B.C.D/<0-32> (BGPプロファイルコンフィグモード) <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
7	Gateway	C	show memoryコマンドの表示で、解放される可能性のないメモリをdynamic、解放される可能性のあるメモリをreserveとして誤って表示していた問題を修正しました。 解放可能なメモリをdynamic、解放されないメモリはpermanentとして表示するように修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
8	Gateway	C	no arp entryコマンドで、存在しない設定を削除しようとしたときに表示されるエラーメッセージに誤記がある問題を修正しました。 ・fond -> found. <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
9	NGN	B	no dialer outbound-callコマンド、あるいはdialer restraintコマンドによりNGNオンデマンドVPNの発信が規制されている場合、SIPセッションが張れていてIKE SAのみが消えている状態では、トンネルを通過するパケットを検出しても、IKEの再ネゴシエーションが行われない問題を修正しました。 <回避策> IKEのライフタイムよりも、NGN回線のアイドルタイムが長くなるような設定はしないでください。	Ver.8.6.22～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
10	Gateway	B	software-updateコマンドで入力できる最大文字列長は、URLが511文字、アカウントが127文字、パスワード127文字であり、CLIとしては入力エラーは発生しないが、実際に最大文字列長となる条件で実行するとファイル取得に失敗する問題を修正しました。 <回避策> URL、アカウント、パスワード合わせて300文字程度になるようにサーバを設定して運用してください。	Ver.8.2.19～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
11	Gateway	C	software-updateコマンドでプロトコルにTFTPを指定する場合、FQDNのdomain部分の入力で、"."の間に64文字以上の入力を行うと、エラー出力が改行されない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。以下のいずれかの方法で回避してください。 ・FQDN指定の場合、"."で区切られる間の文字列長を 63文字以内とする。 ・FQDN指定ではなく、IPアドレスでホストを入力する。	Ver.8.2.19～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
12	IPv6	B	IPv6 PPPoEを接続後、clear interfaceコマンドを使用してPPPoE接続をリセットすると、配下の端末からIPv6インターネット通信ができなくなる問題を修正しました。 <回避策> IPv6 PPPoEを利用している場合、clear interfaceコマンドを実行しないでください。	Ver.8.3.8～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
13	MP-BGP	B	BGPで、経路フィルタ(route-map)機能によるASプリペンド(set as-path prepend)において、メモリリークが発生する問題を修正しました。 本問題はset as-path prependコマンドを設定し、かつ経路変化や経路学習により、BGPが保持する内部経路が変化した場合にのみ数十byte程度のメモリリークが発生します。 <回避策> set as-path prependコマンドを使用しないような設定の見直しを行ってください。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降

14 IKEv2	C	show tech-supportコマンドの出力で、以下のコマンドタイトルの表示後のスペース表示がされていない問題を修正しました。 [修正例] 修正前：------- show ip pim neighbor-------- 修正後：------- show ip pim neighbor ------- [修正コマンドタイトル] ・show environment history ・show ip pim interface ・show ip pim neighbor ・show ip pim database detail ・show ip pim statistics <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
15 IPv4	B	show ip mrouteコマンドでの表示中に、インタフェースDOWN等の要因により、Outgoing interfaceが削除された場合、リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> インタフェースのアップダウンが発生するような状況下では、show ip mrouteコマンドの入力を行わないでください。	Ver.8.2.19～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降
16 RIP	B	トンネル等多数のインタフェースでip rip enableコマンドを設定した場合、RIPで処理しきれず大量にメモリを消費し、その結果リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> スタティックルートあるいは、他のルーティングプロトコルで代用できる場合は、そちらを使用してください。	Ver.8.6.22A以前	Ver.8.7.22以降
17 Socket	B	NGNオンデマンドVPN機能を利用時に、不正なパケットを受信するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NGNオンデマンドVPN機能を使用する際は、信頼できる接続先のみの閉じた環境で利用してください。	Ver.8.6.22～ Ver.8.6.22A	Ver.8.7.22以降

■Ver.8.6 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	SMF	B	ゼロコンフィグ使用時、特定サイズ以上のPULLが実行できない場合がある問題を修正しました。 本不具合の発生頻度は回線のスループットとコンフィグサイズに依存します。 <回避策> 通常の回線品質では問題が発生することはほとんどありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.6.22	Ver.8.6.22A以降
2	BRS	B	queue-limitコマンドを設定しても、指定したキュー長までパケットをキューイングしないため、高優先のパケットが優先されずに廃棄されることがある問題を修正しました。 <回避策> queue-limitコマンドをはずして利用してください。	Ver.8.6.22	Ver.8.6.22A以降
1	PPP	B	IPv4とIPv6併用時、PPPの接続中に以下の設定変更を行った場合、プロトコル状態がUpしない場合がある問題を修正しました。 ・ip address ・ip unnumbered ・ipv6 enable ・ipv6 address autoconfig ・ipv6 interface-identifier <回避策> PPP未接続時に設定変更を行ってください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
2	MP-BGP	B	BGPセッションの確立時において、WAN側がDownしている間にLAN側経由でTCP接続を開始した後に、WAN側がUpし、WAN側からのTCP接続要求によりBGPセッションが確立した場合、BGPセッションを確立したインタフェース以外のアドレス(LAN側アドレス)が経路のNEXT_HOP属性に設定される場合がある問題を修正しました。 但し、一度セッションが確立した後は本問題は発生しません。 <回避策> neighbor update-sourceコマンドにて、ソースアドレスを指定してください	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
3	IPSec	C	IPsecにおいてAH+ESPで接続した場合、以下のMIBで誤った認証アルゴリズムが取得される問題を修正しました。 ・pipSecTunInSaAhAuthAlgo ・pipSecTunInSaEspAuthAlgo ・pipSecTunOutSaAhAuthAlgo ・pipSecTunOutSaEspAuthAlgo <回避策> MIBの値のみのため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
4	Gateway	C	装置の負荷状況によって、show utilization historyコマンドとshow utilizationコマンドで表示される値が一致しない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
5	VRRP	B	vrrp authenticationコマンドにてパスワードを再設定または、設定の削除を行うと8byteのメモリ解放漏れが発生する問題を修正しました。 <回避策> メモリの開放漏れが8byteと小さいため、実際の運用時に問題が発生することはほとんどありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
6	TrafficFilter	B	オフセット指定したMACフィルタを送信方向で設定した場合、送信するフレームの後ろから14byte(タグVLANの場合は18byte)までが判定範囲に含まれると正しくフィルタ条件にマッチしない問題を修正しました。 <回避策> 他のフィルタ機能を使用することで代替してください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
7	ロギング	C	VRRPでmaster/backupからinitialiseへの遷移時に出力されるVRRP.032のpriority値が誤っている(0以外の値を出力)問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
8	DHCPv2	B	DHCPv6にて既に配布済みのPrefixをDHCPv6 PDサーバのProfileから削除すると、PD-ClinetであるIXがリブートする問題を修正しました。 <回避策> DHCPv6 PDサーバで配布済みのPrefixの変更を行わないでください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
9	UFS	B	以下の条件でclear ip ufs-cache, clear ipv6 ufs-cacheコマンドを実行するとリブートが発生する問題を修正しました。 ・UFSキャッシュ無効設定時にインタフェースモードでコマンド設定 ・UFSキャッシュ有効設定時に、shutdown状態のインタフェースモードでコマンド設定 <回避策> グローバルコンフィグモードで、clear ip ufs-cacheまたは、 clear ipv6 ufs-cacheコマンドを実行ししてください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
10	VRRP	C	show vrrp detailコマンドで表示されるエラーカウンタが2147483647以上となるとマイナス表示となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
11	DNS	B	IPv6アクセスリストにドメイン名を指定した場合、アクセスリスト参照時にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 本問題はアクセスリストの設定順,DNSキャッシュの情報により発生の有無が異なります。 <回避策> IPv6を使用した環境ではアクセスリストにドメイン名を設定しないでください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降

12 DNS	B	以下のDNS関連の問題を修正しました。 ・DNSアドレスデータベースを使用し、プロキシDNSまたは、DNSリゾルバ機能にてサーバに問い合わせを行う場合に、CNAMEレコードのみ学習している場合、AレコードやAAAAレコードのDNSキャッシュが正しく作成されません。 ・CNAMEレコードとAAAAレコードを学習している状態で、Aレコードを学習した場合、または、CNAMEレコードとAレコードを学習している状態でAAAAレコードを学習した場合DNSキャッシュが正しく作成されません。 　このため、ドメイン名指定のアクセスリストが正しく動作しない場合があります。 <回避策> アクセスリストにドメイン名を設定しないでください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
13 OSPFv2	B	他装置からOSPFのデフォルトルートを学習している場合、originate-default alwaysコマンドを設定しているにも関わらず、デフォルトルートが広告されない問題を修正しました。 <回避策> Null0.0宛のデフォルトルートを設定してください。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
14 Ethernet	C	show devicesコマンドで表示される"Controller statistics"に不正な値が表示される場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降
15 Ethernet	C	show devicesコマンドで表示される"received good pause frames"の値が、本来4294967295で0となるところが、65535以上で0となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.5.21	Ver.8.6.22以降
16 IPSec	B	EtherIPにてIPsecを使用する環境において、161対地目以降のインタフェースでブロードキャストフレームの転送が行われない問題を修正しました。 <回避策> EtherIP機能(IPSec併用)を使用し、かつ、収容トンネル数が100本を超える場合は、以下のコマンドを追加設定してください。 [追加設定コマンド] ・ipsec poller queue-length 512 [補足] ・本コマンドを実行(もしくは削除)したときは、必ず装置の再起動を行ってください ・IPSecを併用せず、暗号化無しでEtherIP機能のみを使用する場合は、本コマンドの入力は不要です。	Ver.8.3.13～ Ver.8.5.21	Ver.8.6.22以降
17 IPSec	B	IPsecにてマニュアルキーを使用し、INBOUNDのみSAがある設定を行うと、受信時に暗号パケットがエラーとなる問題を修正しました。 <回避策> INBOUND,OUTBOUNDともにSAを設定してください。但し、通常の運用でINBOUNDのみSAが存在する状況はありません。	Ver.8.5.21以前	Ver.8.6.22以降

■Ver.8.5 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	NetMon	C	ネットワークモニタでの障害発生中にIXの時刻が変更され、復旧時刻が発生時刻の前になった場合、show watch-group detail コマンドで表示されるSummarized variance seconds 値が不正な値となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
2	NAPT	C	ELSにてNAPTで変換アドレスが取得できないときに表示される廃棄メッセージNAT.056の内容が適切な表現でない問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
3	IPv4	C	IPv4のPingでレコードルートオプション(-r)を指定した場合、出力インタフェースがPoint-to-Pointであり、且つ宛先へのルーティングのネクストホップが設定されていない場合、出力インタフェースではなくIX内での最も大きいアドレスが付与されてしまう問題を修正しました。 <回避策> Ping実行時の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
4	IPv4	C	PPPoEまたはPPPのインタフェースにauto-connectおよび固定IPアドレス設定時、そのインタフェースがリンクアップはしているがPPPが未確立の状態でそのインタフェースに設定されたアドレスに対してLAN側からPingを送信すると、PPPが確立していないにも拘らず、そのインタフェースとは別のインタフェースのアドレスにて応答を返してしまう問題を修正しました。 <回避策> Ping実行時の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
5	OSPFv3	C	OSPFv3のプロセスを複数設定し、show ipv6 ospf database self-originate コマンドを実行した場合、最初のプロセスと異なるルータIDを設定したプロセスの情報が正しく表示されない問題を修正しました。 <回避策> show ipv6 ospf database self-originat コマンドの代わりに show ipv6 ospf database adv-router コマンドを使用して、正しいルータIDを指定してください。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
6	IPv4	B	ip reassemble-buffer コマンドで設定したサイズよりIPヘッダサイズ分(オプションヘッダが無い場合は20byte)大きいサイズのパケットまでリアセンブルを行ってしまう問題を修正しました。 <回避策> リアセンブルを行いたいサイズよりIPヘッダサイズ分(オプションヘッダが無い場合は20byte)小さい値を設定してください。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
7	保守運用	C	show flash コマンドでldcファイルを指定した場合、moreによる画面表示の停止が行われない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
8	PPP	B	PPP認証にPAP使用時、LCPオープン後、そのままクローズせずLCPのConfig Requestを受信して再度ネゴシエーションした場合、PAPの応答が返らない場合でもPAPがタイムアウトしない問題を修正しました。 <回避策> 問題発生時にはPPPの再接続を行ってください。 また、CHAP認証を使用した場合には問題は発生しません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
9	DHCPv6	B	DHCPv6にて、以下の場合に正しく動作しない問題を修正しました。 ・Renew/Rebindより前にアドレスの有効期限が切れた場合 ・Renew/Rebind時にアドレスが変更された場合 同時に、DHCPv6サーバがreconfigureを送信しない場合がある問題も修正しました。 <回避策> 発生頻度が極めて低く、通常の運用で発生する可能性はほとんどありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
10	DHCPv6	B	DHCPv6にて既に配布済みのPrefixをDHCPv6 PDサーバのProfileから削除すると、PD-ClinetであるIXがリブートする問題を修正しました。 <回避策> DHCPv6 PDサーバで配布済みのPrefixの変更を行わないでください。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
11	OSPFv2	B	OSPFv2にて、Type-5 LSAを生成しようとした直後にForwarding Address が 0.0.0.0 のType-7 LSA によってNSSA経路がルーティングテーブルに反映された場合にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> NSSAとバックボーンを1箇所で接続してください。 または、Forwarding Address が 0.0.0.0となる経路はエリア内経路 として設定してください。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
12	診断	B	IX起動時のハードウェアチェック(POST)で、NVRAM TESTがFail(バックアップ電池切れ)が発生した場合、ALM-LEDが点灯してもすぐに消灯してしまう問題を修正しました。 <回避策> IX起動後にエラーログによりTESTがFailしたことを確認できます。	Ver.8.3.8～ Ver.8.4.23	Ver.8.5.21以降
13	診断	B	IX起動時のハードウェアチェック(POST)で、GigaEthernetインタフェースの故障を検出できない可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 発生する可能性は極めて低く、問題となることはほとんどありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
14	Ethernet	B	IXにてinternal parity errorというハードウェアエラーが検出された場合に、GigaEthernetインタフェースでバッファの解放漏れが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 発生する可能性は極めて低く、問題となることはほとんどありません。	Ver.8.3.39～ Ver.8.4.23	Ver.8.5.21以降
15	Ethernet	C	デバイスのRMON統計カウンタがオーバーフローする毎に、該当するカウンタの値が実際の値より1少なくなる問題を修正しました。 <回避策> 統計情報のカウンタ値のみの問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
16	Ethernet	B	LANケーブルを挿入していないポートでkeepalive/no keepalive コマンドを繰り返し実行するとリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> リンクダウンした状態でkeepalive/no keepaliveの繰り返しを行わないでください。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降

17	診断	C	IX起動時のハードウェアチェック(POST)で、FAN障害検収時のエラーログに表示されるFAN回転数の単位がV(ボルト)と表示され、かつ実際の回転数の1/1000の値となっている問題を修正しました。 <回避策> FAN障害時のエラーログ表示の問題のため、通常の運用には問題ありません。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
18	Ethernet	B	以下の動作後に通信が一時的に停止する可能性がある問題を修正しました。 ・GigaEthernet インタフェース LinkDown→Up検出時 ・GigaEthernet インタフェース LinkUp→Down検出時 ・GigaEthernet デバイスの設定変更時 ・GigaEthernet デバイスリセットコマンド実行時 ・送信stall検出時 <回避策> 問題が発生する可能は極めて低く、問題発生時でも1秒程度で通信が復旧します。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降
19	IPv4	B	トンネル設定でtunnel sourceを設定していない場合、経路変化等によりソースアドレスが変更となっても、トンネルのソースアドレスに変更前のアドレスを使用してしまう問題を修正しました。 <回避策> トンネル設定時には、tunnel sourceを設定してください。	Ver.8.2.19～ Ver.8.4.23	Ver.8.5.21以降
20	保守運用	B	webコンソールからIXの再起動を行った場合、再起動まで2分以上かかる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 起動に時間がかかる場合がありますが、正常に起動します。	Ver.8.4.23以前	Ver.8.5.21以降

■Ver.8.4 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	GRE	C	GREトンネルを設定する際に、tunnel sourceとしてインタフェースを指定した場合、GPTL 004,005,006,008,013,015,016,017の各ELSのソースアドレスが255.255.255.255と表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。 また、GREトンネル使用時には、tunnel sourceにアドレスを指定してください。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
2	Policy Routing	C	ポリシールーティングのELSで、ポリシー有効のログ(PRTE.014,PRTE.018,PRTE.016,PRTE.020)を出力すべきところが、ポリシー無効のログ(PRTE.013,PRTE.017,PRTE.015,PRTE.019)として出力される問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
3	NAT	C	NAPTキャッシュ利用しているエントリが存在する状態でclear ip napt recordコマンドを実行すると、show ip napt translation コマンドで表示されるpeak値が0となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。 また、新たな通信が開始されると復旧します。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
4	ロギング	C	以下のELSで表示内容が適切でない問題を修正しました。 ・PPP.112 修正前: PPP.112 LCP: invalid auth option received in REJ/NAK, on INTERFACE 修正後: PPP.112 LCP: auth protocol 0xREQ_PROTOCOL requested but not supported, INTERFACE ・PPP.113 修正前: PPP.113 LCP: auth option rejected (no local password), INTERFACE 修正後: PPP.113 LCP: auth option rejected, CHAP not allowed from caller,INTERFACE ・PPP.114 修正前: PPP.114 LCP: CHAP auth requested but CHAP is not in the load; trying to negotiate for PAP, INTERFACE 修正後: PPP.114 LCP: CHAP request is not accepted; trying to negotiate for PAP, INTERFACE ・PPP.211 修正前: PPP.211 LCP: PAP requested but PAP is not in the load; trying to negotiate for CHAP, INTERFACE 修正後: PPP.211 LCP: PAP request is not accepted; trying to negotiate for CHAP, INTERFACE ・BGP.018 修正前: BGP is not initialised 修正後: BGP is not initialized ・BGP.020 修正前: BGP is initialised 修正後: BGP is initialized <回避策>	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
5	IPSec	B	IPsec-SAリキー中にIKE-SAのリキーが開始されるタイミングにより、IPsecリキーが失敗する場合がある問題を修正しました。本問題が発生した場合、IPsec-SAが再度作成されるまでの間、ユーザパケットをロスします。 <回避策> デフォルトではIPsecは60秒前、IKEは30秒前にリキーを開始するため、(ライフタイム-60)と(ライフタイム-30)の最小公倍数の時間でIKEとIPsecのリキータイミングが重複する可能性があります。 IPsec,IKEのライフタイム,リキー開始タイミングを調整することで、最小公倍数が大きくなるように設定してください。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
6	保守運用	C	RAPファイルでのアップデート時、'information'と表示されるべきところが、'infomation'と表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.3.44	Ver.8.4.23以降
7	PPP	B	インタフェース指定の無いip unnumberedを設定している状態で、そのインタフェースでPPPを着信した場合、PPP接続直後に切断される問題を修正しました。 <回避策> ip unnumberedコマンドにインタフェースを指定してください。	Ver.8.3.8～ Ver.8.3.44	Ver.8.4.23以降
8	保守運用	B	software-updateコマンドにおいて、https を指定してバージョンアップを行った場合、メモリ解放漏れが発生する問題を修正しました。 <回避策> software-updateコマンドでは、https以外を指定してしてください。また、https を指定しても、バージョンアップ後に装置の再起動を行えば影響はありません。	Ver.8.2.19～ Ver.8.3.44	Ver.8.4.23以降
9	OSPFv3	B	OSPFv3にてエリアをスタブ設定した後、area XXXコマンドで通常のエリアに設定を戻した場合、HelloパケットにE-bitが設定されないままとなる問題を修正しました。 <回避策> スタブエリアから通常エリアに戻す場合は、no area XXX stubコマンドを実行してください。また本問題が発生した場合には、 no area XXX stubを実行してください。 clear ip ospf processコマンドでは復旧できません。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
10	DHCPv4	B	DHCPサーバ機能使用時に、excluded-addressの設定範囲を大きくする(数十万以上設定時)とリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> excluded-addressの設定範囲を小さくしてください。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
11	OSPFv2	B	OSPFv2において、LSAのageが3600になってもLSAが削除されず、経路情報が残ったままとなる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 発生頻度が極めて低く、通常の運用で発生する可能性はほとんどありません。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降

12 IPSec	B	IPsecにおいて多段にネストしたトンネルを大量に設定した状態でSA削除・生成が繰り返された場合、処理に時間がかかりリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 開発環境でのみ確認された問題であり、通常運用では発生していません。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
13 PPP	B	IPCP,IPv6CPオープン後、CODE-REJECTを受信するとその後に受信したパケットが廃棄される問題を修正しました。 <回避策> IXではRFCに定義された値のみ使用しているため、通常はCODE-REJECTを受信することはなく、問題が発生することはありません。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降
14 NAPT	B	NAPTにおいてfinrst-timeoutの残り時間が1000000秒以上の場合に、show ip nat translation、show ip napt translationコマンドで表示される値が999999秒となる問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。 また、ip napt translation finrst-timeoutコマンドでタイマ値を999999秒以下に設定してください。	Ver.8.3.44以前	Ver.8.4.23以降

■Ver.8.3 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	ロギング	C	logging timestamp uptime設定後、event-terminal startでイベントログを表示すると、イベントの発生時点ではなくイベントログが表示された時点のuptimeが表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログのuptime表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。 logging timestamp uptimeコマンドを使用せず、 logging timestamp datetime/timeofdayコマンドを使用してください。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
2	ロギング	C	logging bufferedコマンドで以下の問題を修正しました。 ・logging bufferedのデフォルト値がヘルプに表示されません。 ・logging bufferedのone-time/cyclicのサイズが未指定であってもデフォルト値にて動作可能としました。 <回避策> ヘルプ表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。 logging bufferedのone-time/cyclicにサイズを指定してください。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
3	IPSec	C	IPsec使用時、show ipsec saのMTU表示が正しい値とならない場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
4	PPP	C	PPP.055,PPP.061,PPP.190,PPP.196のイベントログが正しく表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
5	BGP	C	BGP.141のイベントログが正しく表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
6	Gateway	C	GW.003のイベントログが正しく表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
7	BGP	C	BGP.017のイベントログに表示されるポート番号が正しく表示されない場合がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
8	GRE	C	GREのカプセル時に未サポートプロトコルを検出した場合、表示されるイベントログが GPTL.005ではなく、GPTL.007が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
9	IPv6	C	MLDv2のSource Retransmission List制限数を超えた場合、表示されるイベントログがICP6.087ではなく、ICP6.150が表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
10	SNMP	C	以下の条件でColdStart発生のイベントログ(SNMP.027)の表示が異常になる可能性がある問題を修正しました。 ・SNMPエージェント機能を有効 (snmp-agent ip/ipv6 enable) ・SNMPのELSのレベルをdebugに設定 (logging subsystem snmp debug) <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
11	ロギング	C	イベントログの出力数が2,147,483,648個(0x80000000)を超えると、show loggingコマンドでログが表示されない問題を修正しました。 <回避策> イベントログの出力数が2,147,483,648個(0x80000000)を超える前にclear loggingコマンドによりログをクリアしてください。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
12	IPsec	B	IPsec通信中にIPsecトンネルがダウンし、同じタイミングでIPsecリキーが開始するとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ソフトの机上確認で発見された問題であり、通常運用時に問題が発生したことはありません。	Ver.8.3.39以前	Ver.8.3.44以降
1	保守運用	C	装置をバージョンダウンした際にshow tech-supportコマンドの crashinfo部分に表示されることのある"DUMP"メッセージが、 show tech-support outputコマンドを実行してもFlashに保存されず、画面に表示されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。 バージョンダウン実行後には、clear crashinfoコマンドを実行してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
2	IPSec	B	EtherIPでIPsec使用時、通信の有無にかかわらずIKEキープアライブを送信する問題を修正しました。 <回避策> 運用には影響がありませんが、キープアライブが送信されるために不要な通信が発生します。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
3	保守運用	C	show processesコマンドで表示されるEZschd users値が、実際の値よりも多い値になる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
4	OSPFv2	B	OSPFv2にて、同一ネットワーク内でアドレスが異なるようなNSSA Range(例として10.0.0.0/24と10.0.0.1/24のような場合）が登録されている状態で、clear ip ospf processコマンドを実行するとリブートが発生する問題を修正しました。 <回避策> 同一ネットワーク内でアドレスが異なっているNSSA Rangeが登録されている場合には削除後に clear ip ospf processコマンドを実行してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降

5 ARP	B	転送先が存在しないパケットを受信した場合、通常はARP解決の実行およびタイムアウト後に受信パケットの廃棄を行いますが、短時間に多数の存在しない転送先に対してパケットを受信した場合、ARP解決失敗までの間に受信バッファが枯渇し、一時的にパケットを受信できなくなることがある問題を修正しました。 ただし、ARP解決のしくみは転送先ごとに存在するため、同じ転送先に対するARP解決の場合では受信バッファが枯渇することはありません。 [最大受信バッファ数] ・GigaEthernet 2000 <回避策> ARP解決のタイムアウト(2秒)後にはバッファが解放されるため、その後受信可能となります。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
6 IPv6	C	show ipv6 neighborsコマンドの経過時間表示の誤記を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8～ Ver.8.3.13	Ver.8.3.39以降
7 QoS	C	既に削除されているservice-policy suppress-unityコマンドに関して以下の問題を修正しました。 ・ヘルプにコマンドが表示されます。 ・コマンド入力可能となっています。但し、何も実行されません。 <回避策> コマンド入力は行えますが、実際には動作しないため、運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
8 QoS	C	class内のshapeコマンド設定時に設定範囲外のパラメータを指定し、入力エラーとなった場合でもコマンドが設定されてしまうことがある問題を修正しました。 <回避策> 設定範囲外のパラメータを指定し、コマンド入力エラーとなった場合には、再度正しい値でコマンドを設定してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
9 QoS	B	QoSのクラスにbandwidthによるQoS予約帯域の設定と、shapeによるクラスシェーピングの設定を同時に行った場合に、bandwidthで設定した予約帯域よりも送信レートが低くなる場合がある問題を修正しました。 shapeでの設定帯域付近でバーストを繰り返すトラフィックを連続的に印加した場合に発生する可能性があります(Bcの値が1パケット分のサイズよりも小さい場合に発生しやすくなります)。 但し、shapeの設定を超えてトラフィックが流れることはありません。 <回避策> bandwidthとshapeを同時に設定するクラスを利用する場合は、shapeのbcを12144(1518byte)以上で、できるだけ余裕を持った値に設定してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
10 DHCPv4	C	DHCPv4のイベントログでDHC.003のインタフェース名が不正な値となる可能性がある問題を修正しました。 <回避策> イベントログの表示問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
11 IPv6	B	IPv6動作時に、受信したNSパケットのソースアドレスが自身の装置アドレスである場合にリブートが発生する場合がある問題を修正しました。 また同時に、以下のイベントログのインタフェース表示が異常となる可能性がある問題も修正しています。 ・IP6.005 = 処理出来ないプロトコル番号のパケット受信 ・IP6.009 = ホップリミット超過パケット送信 ・IP6.010 = MTUを超えるパケット送信 ・IP6.012 = リアセンブルバッファ枯渇 ・IP6.017 = 不正なプロトコル番号のパケット受信 ・UDP6.001 = 不正な長さのパケット受信 ・UDP6.002 = 不正なチェックサムのパケット受信 ・UDP6.020 = 処理できないポート番号のマルチキャストパケット受信 ・UDP6.021 = 処理できないポート番号のユニキャストトパケット受信 ・UDP6.040 = パケットを受信 <回避策> 受信するNSのソースアドレスが自身の装置アドレスとならないようにネットワークを構築してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
12 MP-BGP	B	BGP4にて、UPDATEを受信し、他のピアへUPDATEの送信処理を行う前に同じ宛先への経路のUPDATEを受信すると、内部処理に不整合が発生し、その後に受信したUPDATEの情報が広告されない問題を修正しました。 <回避策> 連続して同じ経路変更が発生しないようなネットワークを構築してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
13 IPSec	C	IPsecアグレッシブモード使用時のレスポンダ側ではリキーは動作しませんが、装置の内部処理として、Ph2リキーのタイミングでshow ike statisticsコマンドにより表示されるPh1のconfig errorsがカウントされる問題を修正しました。 <回避策> 統計情報のカウントのみのため、実際の運用には影響はありません。 また、ipsec dynamic-mapコマンドでIKEポリシーを指定することで、レスポンダ側からもリキーが実行されるため、エラーはカウントされません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
14 NAT	C	NAT/NAPTのtimeout設定のヘルプで表示されるneverの説明の誤記を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
15 OSPF	C	以下のclear ip/ipv6 ospf process/statisticsコマンドがAdministrator権限のコマンドであるにも関わらず、OperatorもしくはMonitor権限でのログイン時に、「clear ip ospf ?」および「clear ipv6 ospf ?」を入力するとOSPFのヘルプが表示される問題を修正しました。 ・clear ip ospf process ・clear ip ospf statistics ・clear ipv6 ospf process ・clear ipv6 ospf statistics <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降

16 保守運用	C	デバイスのutilizationの測定間隔を以下に設定した場合、デバイスのutilizationが正しい値にならない問題を修正しました。 [インタフェース速度] [測定間隔(デフォルト60秒)] 1Gbps 35秒以上 (デフォルト設定で問題発生) 100Mbps 344秒以上 10Mbps 3,436秒以上 <回避策> 上記のutilization interval値以下に設定してください。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
17 表示系	C	show crashinfoコマンドの表示がmoreで停止した状態でコンソールから"q"キーを入力すると、起動したブートのログが表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示のみの問題であり、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
18 Ethernet	B	装置起動時にGigaEthernetインタフェースの受信機能が停止する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 問題発生の可能性が極めて低く、実際の運用で問題となることはありません。	Ver.8.3.13以前	Ver.8.3.39以降
1 SNMP	C	パケット転送中にclear countersを実行すると、実行後の最初の回線使用率計算での回線使用率が100%となる問題を修正しました。(show utilization) <回避策> MIBのみの問題のため、実際の運用には問題ありません。 clear counters実行後は、clear utilizationも併せて実行してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
2 SNMP	C	MIB picoSchedRtUtl1Minおよび1Hourを、装置起動後収集が完了していない状態でMIBの取得を行うとshow utilizationで表示されるが99%となる問題を修正しました。 また同様に、clear utilizationコマンド実行後の1秒間、 MIB picoSchedRtUtl1Secのutilizaiotnが99%になる問題を修正しました。 <回避策> MIBのみの問題のため、実際の運用には問題ありません。 装置起動後、1時間はMIB picoSchedRtUtl1Hourを使用せず、picoSchedRtUtl1Secを使用してください。 また、clear utilization実行後は1秒以上時間をあけた後にMIBを取得してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
3 SNMP	C	以下のnot-accessibleのMIBが取得できてしまう問題を修正しました。 ・ipv6TcpConnLocalAddress ・ipv6TcpConnLocalPort ・ipv6TcpConnRemAddress ・ipv6TcpConnRemPort ・ipv6TcpConnIfIndex ・dot3CollCount <回避策> 不要なMIBが取得できるだけで、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
4 Route map	C	show route-mapコマンドがmonitor/operator権限で実行できない問題を修正しました。 <回避策> Administrator権限でコマンドを実行してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
5 MP-BGP	B	以下のような場合、特定装置とのBGP接続に失敗する場合がある問題を修正しました。 ピアとのBGPコネクション確立要求(BGP OPEN)が衝突した場合、後に要求したBGPコネクションのAckを受信した直後に Connection collision detectionが動作するため、先に確立しようとしていたBGPコネクションも切断されます。 このため、いずれのBGPコネクションも確立されません。 <回避策> 特定装置でのみ問題が発生する可能性がありますが、通常の運用ではほとんど問題が発生することはありません。 また、問題発生時には以下の方法にて回避可能となります。 1. IX側からSYNを送信しないようにフィルタを設定する。 2. IX側のBGPルータIDが大きくなるように設定する。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
6 IPv4	B	ARPエントリのメモリ確保失敗時にDestination UnreachableのICMPエラーを送信している問題を修正しました。 <回避策> 通常運用時ではARPエントリのメモリ確保で失敗することはほとんどなく問題が発生する可能性は低いですが、問題が頻発するような場合には、ICMP Destination Unreachableの送信を廃棄するフィルタを設定してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
7 IPv6	B	ipv6 nd ra min-intervalコマンド(Ver8.2以前:ipv6 nd min-ra-interval)にてRA送信間隔の最小値を600以上に設定し、write memory後に装置再起動を行うと、設定値がデフォルト値(198)に戻ってしまう問題を修正しました。 <回避策> ipv6 nd ra min-intervalコマンドで600以上の値を設定しないでください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
8 PPP	C	PAP/CHAP以外の認証オプションの場合、イベントログのPPP183の表示が異常な値となる問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
9 PPP	C	PPPのイベントログにて、PPP037とPPP046でauthenticationと表示されるべきところ、authorizationと表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
10 PPP	C	PPP関連について以下の問題を修正しました。 1) ipv6cp send-interface-id、ipv6cp suggest-interface-idのヘルプ表示順が逆となる。 2) サポートしていないコマンドのヘルプ表示がされる。 - clear pppoe session <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降

11 PING6	C	ping6実施時に、ping6の宛先以外からICMPv6パケットのエラーを受信した場合、該当のping6のICMPv6エラーを受信したものとして判定してしまう問題を修正しました。 <回避策> ping6実行時のみの問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
12 PING6	C	ping6実施時に、Hop count exceeded エラーを受信してもエラーのカウントを行っていない問題を修正しました。 <回避策> 統計情報表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
13 PING6	C	ネットワークモニタ実行中にping6を実行すると、ネットワークモニタのICMPv6パケットをping6の応答と誤検出し、エラーがカウントされてしまう問題を修正しました。 <回避策> ping6におけるエラーカウンタの表示だけの問題であり、ネットワークモニタの動作に影響はありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
14 IPSec	B	以下の手順でIPsecを設定した場合、IPsecトンネルがUpしない問題を修正しました。 1. アクセスリストとIPsecポリシーマップの「両方」を設定 2. IPsecソースアドレス設定でIPアドレスを指定 3. IPsecポリシーをトンネルインタフェースに設定 4. 物理インタフェースをリンクアップ <回避策> ソースアドレスをIPアドレスではなくインタフェース指定してください。 また問題が発生した場合には、clear tunnel statusコマンド実行、もしくはipsec policyを一旦削除した後、再度登録してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
15 SNMP	C	MIB ipv6AddrPrefixのOIDに長さの指定が不足している問題を修正しました。 <回避策> MIBのみの問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
16 PPP	C	no snmp-agent mib-2 conceal-unconfigured-ifstackコマンドを設定すると、show pppおよびshow pppoeにおいて、未使用インタフェースの情報が表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
17 OSPFv2	C	OSPFv2におけるSPF.020のイベントログの状態とイベント表示の内容が、ネイバの状態とイベントを表示するべきところ、誤ってインタフェースの状態とイベントが表示される問題を修正しました。 <回避策> イベントログ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
18 OSPFv2	B	装置起動後、約400日以上経過した後にOSPFv2のredistributeコマンドを設定(削除後の再設定、上書きも含む)すると、再配信が行われません。 <回避策> redistributeコマンド設定後にclear ip ospf processコマンドを実行することで正常に動作します。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
19 OSPFv2	B	OSPFv2でno default-metric xxコマンドを実行してもデフォルト値が設定されず、コマンドで指定した値がデフォルトメトリックに設定されてしまう、また、値を設定しない場合では不定値が設定されてしまう問題を修正しました。 <回避策> デフォルト値に戻す場合には、default-metric 1を設定してください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
20 NAT	B	NAPT使用時のTCP/UDP/ICMP以外の通信について、以下の問題を修正しました。 ・staticで予約した端末以外でも通信できてしまう。 ・複数の端末が同時に同じ宛先に通信した場合、最後の通信が有効になる。 <回避策> NAPT使用時のTCP/UDP/ICMP以外の通信については、同じ宛先に同時に通信を行わないでください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
21 IPSec	B	下記のようなIXがIPsec1,IPsec2を終端し、IPsec1内にIPsec2のパケットが通過するIPsecのネスト構成において、IXにno ipsec ike-passthruコマンドを設定している場合、IXでリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> IPsecのネスト構成を行わない、または、IXでのIPsecのネスト構成を行う場合には、IXへのno ipsec ike-passthru設定を行わないでください。	Ver.8.3.8以前	Ver.8.3.13以降
1 PPP	B	PPPによる動的アドレス設定(ip address ipcp)を行っている環境において、IPCPによりアドレスが払い出されない場合でもIPCPがOPENする問題を修正しました。 (アドレスが足りない,設定間違いの場合など) <回避策> IPCPにてアドレス未払い出しにもかかわらず、IPCPがOPENしている場合には、一旦切断を行った後に再接続を実施してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
2 Ethernet	C	ポートVLAN使用時、SW-HUBデバイスでの送信バイト数がフレームごとに2バイトもしくは4バイト多く表示される問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
3 PPP	B	PPPのネゴシエーション(LCP/IPCP/IPv6CP/NCP)で不正なオプション長を含むCONFIG-REQUEST/NAK/REJECTを受信すると、リブートする可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 通常運用で発生する可能性はほとんどありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
4 アクセスリスト	B	IPv6アクセスリストにおいて、以下の問題を修正しました。 ・icmp type 0を指定したconfigが正しく保存されない。 ・プロトコル番号0を入力できてしまう。 <回避策> 以下により回避できます。 ・startup-configに直接指定するか、もしくはtype 0につづけてcodeを指定する ・プロトコル番号0を誤って入力しない。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
5 SNMP	C	snmp-agent trap-timeoutコマンドのデフォルト値はトラップ種別によって異なりますが、ヘルプでのデフォルト値が180と表示される問題を修正しました。 本問題は過去全てのバージョンで発生します。 6927 C [回避策]　ヘルプ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降

6 IPv6	B	no ipv6 addressコマンドで削除する際、プレフィックス長の指定が、設定されているプレフィックス長と異なっている場合、show running-config上では設定が削除されるが、実際の動作としてはアドレスが削除されていない問題を修正しました。 <回避策> 設定したプレフィックス長と同じ値で削除してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
7 IPv6	B	NDキャッシュの作成失敗時に、ICMPエラーを送信する問題を修正しました。 <回避策> ICMPをフィルタによって廃棄してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
8 IPv6	C	NDキャッシュの作成失敗時に、パケットが廃棄されるが、discradがカウントされない問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
9 IPv6	B	入力形式が[X:X:X:X:X:X:X:X]:WORD 及び [X:X:X:X:X:X:X:X%WORD]:WORDとなるコマンドのヘルプ表示を行うと、32-48バイトのメモリリークが発生する問題を修正しました。 (例) Router(config)# tftp get [1::1? [X:X:X:X:X:X:X:X]:WORD -- IPv6 address:file name [X:X:X:X:X:X:X:X%WORD]:WORD -- IPv6 address%Scope zone name:file name Router(config)# ipv6 route default 1::1? X:X:X:X:X:X:X:X -- Gateway address X:X:X:X:X:X:X:X%WORD -- Gateway address%Scope zone name <回避策> IPv6アドレス形式でのヘルプ表示は行わないでください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
10 IPv6	B	no ipv6 nd import-prefix が設定されていると、on-link や autonomousオプションを指定した ipv6 nd prefix-advertisement コマンドが無効となってしまう問題を修正しました。 以下のコマンドを実行した場合に、本不具合が発生します。 ・ipv6 mtu ・ipv6 hop-limit ・ipv6 nd send-ra ・ipv6 nd max-ra-interval ・ipv6 nd min-ra-interval ・ipv6 nd ra-reachable-time ・ipv6 nd ra-lifetime ・ipv6 nd managed-config-flag ・ipv6 nd other-config-flag ・ipv6 nd ns-interval ・ipv6 nd garbage-time ・ipv6 nd dad-attempts <回避策> インタフェースのUp/Down (clear interface,shutdown/no shutdown)を実行することで復旧します。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
11 IPv6	B	IPv6ループバックアドレス(::1)宛のパケットに対して応答してしまう問題を修正しました。 <回避策> IPv6ループバックアドレス(::1)宛のパケットをフィルタにより廃棄してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
12 OSPFv2	B	OSPFv2のコマンド実行でメモリリークが発生する可能性がある問題を修正しました。 以下の場合にメモリリークが発生します。 ・area XX virtual-link A.B.C.D でヘルプ表示(TAB or ?)またはTAB補完 ・authentication-key入力で文字列長オーバー ・authentication-key入力でヘルプ表示 ・dead-interval入力でヘルプ表示または値が範囲外 ・hello-interval入力でヘルプ表示または値が範囲外 ・message-digest-keyのKeyID入力でヘルプ表示または値が範囲外 ・message-digest-keyのKey入力で文字列長オーバー ・message-digest-keyのKey入力でヘルプ表示 ・retransmit-interval入力でヘルプ表示または値が範囲外 ・transmit-delay入力でヘルプ表示または値が範囲外 <回避策> 上記に該当する設定を行わないでください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
13 NetMon	B	ネットワークモニタを有効にした状態で、自装置のIPv6アドレスに対して出力インタフェースをLoopbackに指定してpingを実行すると、リブートが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> Loopbackインタフェースを出力先にして、自装置のIPv6アドレスにpingを実行しないでください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
14 OSPFv2	B	OSPFv2においてNSSAを使用し、Type-7でdefault-routeを広告している状態でno originate-default コマンドを実行した場合、NSSAエリアにデフォルトルートが広告されない問題を修正しました。 <回避策> 不具合発生時には、clear ip ospf processコマンドを実行してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
15 SNMP	B	以下の条件でgetbulkを実行すると、装置の負荷が高くなる場合がある問題を修正しました。 ・snmp message-size コマンドでパケットサイズを大きく変更している場合。 ・no snmp-agent mib-2 conceal-unconfigured-ifstack でMIBオブジェクトの数が多い場合。 <回避策> snmp message-size コマンドによりパケットサイズを小さくしてください。	Ver.8.1.15～Ver.8.2.19	Ver.8.3.8以降
16 IPv6	B	ipv6 multipath per-flow コマンドでマルチパス転送を行うと、不正なメモリ領域参照が発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> IPv6マルチパスのper-flow設定は行わないでください。 (デフォルトはper-packetとなります)	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
17 表示系	C	output-bufferコマンドのヘルプ表示の誤記を修正しました。 <回避策> ヘルプ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降

18	VRRPv2	B	以下のVRRPのトラップのVariable-bindのMIBにインデックスが付与されていない 問題を修正しました。 ・VRRP Master変更 (vrrpTrapNewMaster) - ifIndexとVrId ・VRRP 認証エラー (vrrpTrapAuthErrorType) - index としての ".0" <回避策> SNMPマネージャにおいて、trapが正しく表示されない可能性がありますが、通信には影響がありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
19	DNS	C	no ip name-serverコマンドのパラメータとして、IPアドレスの省略はできないが、no ip name-serverのヘルプではIPアドレスを省略して実行できるかのように表示されている問題を修正しました。 <回避策> ヘルプ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。 no ip name-serverコマンド実行時は、IPアドレスを設定してください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
20	SNMP	B	picoConfigModifiedのVariable-bindのMIBに".0"のインデックスが付与されていない問題を修正しました。 <回避策> SNMPマネージャにおいて、trapが正しく表示されない可能性がありますが、通信には影響がありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
21	OSPFv2	B	Point-to-Pointインタフェースに32bitマスクのアドレスを設定し、OSPFv2が動作するインタフェースに指定した場合でかつネイバが不在時に、他のOSPFv2ルータにアドレスが広告されない問題を修正しました。 <回避策> Point-to-Pointインタフェースのアドレスには32bitマスクを設定しないでください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
22	保守運用	C	以下のコマンドのヘルプ表示にデフォルト値が表示されていない問題を修正しました。 ・terminal length ・terminal speed ・terminal width <回避策> ヘルプ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
23	MP-BGP	C	BGPのup時間またはdown時間が414日以上経過すると、以下のコマンドの表示が異常な値となる問題を修正しました。 ・show ip bgp summary　: up/down時間表示 ・show ip bgp neighbors : up/down時間表示 updateパケットの送信/受信経過時間 <回避策> 表示上の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
24	SNMP	B	SNMPのメッセージサイズ設定(snmp-agent message-size)で、デフォルト値(1280)よりも大きな値を設定し、IPv4で送信するトラップが大量に発生した場合、メモリ枯渇が発生する可能性がある問題を修正しました。 トラップの大量発生は、ネットワークモニタを大量に登録し、全てが同時に障害になる場合や、IPsec設定が多く行われた場合に全てが同時に接続される場合などに発生します。 <回避策> IPv4でトラップを送信する場合は、SNMPのメッセージサイズ設定を行わないでください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降
25	診断	B	電源二重化時に片方の電源をOFFにした状態で電源オン時の診断プログラムを実行すると、正常な電源もFAILとなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 電源二重化で使用する場合は、両系電源をONにしてください。	Ver.8.2.19以前	Ver.8.3.8以降

■Ver.8.2 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	VRRPv2	C	VRRP設定時に、存在しないIDに対して以下の設定を行った場合のエラーメッセージが適切な内容になっていない問題を修正しました。 [修正コマンド] ・vrrp 2 preempt ・no vrrp 2 preempt ・vrrp 2 redirects ・no vrrp 2 redirects [エラーメッセージ] The session does not exist <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
2	Tunnel	C	dynamic-mapを使用したIPsec Tunnelのインタフェースdown時に show tunnel statusコマンドで表示されるerror数がクリアされてしまう問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
3	PPP	C	PPP接続途中でエラーが発生した場合、その後正常に接続されても、show interfaceコマンドで表示されるPPPのステータス状態表示がfailureのままsuccessとならない問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
4	MP-BGP	B	BGPのコンフィグが存在しない状態で、clear ip bgp x.x.x.xコマンドを実行するとリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> BGPのコンフィグが存在しない状態で、clear ip bgp x.x.x.xコマンドを実行しないでください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
5	TFTP	B	メモリサイズ以上のファイルをtftp/copyコマンドにてstartup-config,default-configへコピーを行うと、メモリが枯渇しリブートすることがある問題を修正しました。 <回避策> 最大メモリサイズ以上のファイルをtftpにより転送しないでください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
6	SNMP	B	SNMPにて以下の組み合わせで、ifAliasを取得した時にリブートが発生する問題を修正しました。 SNMP Ver　IP Ver　SNMP Operation SNMPv1　IPv6　Get/GetNext SNMPv2c　IPv6　Get/GetNext SNMPv2c　IPv6　GetBulk SNMPv2c　IPv4　GEtBulk <回避策> MIB get時に上記の組み合わせで行わないようにしてください。	Ver.8.1.15	Ver.8.2.19以降
7	Gateway	B	送信するIPパケットのIPヘッダチェックサムの値が、0x0000となるべきところが、0xffffになる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
8	IPv4	C	IPv4マルチキャストパケットをユニキャストのEthernetフレームで受信した場合で、キャッシュにヒットしなかった場合に、show ip mcacheのflybyではなく、show ip cacheのflybyがカウントされるという問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
9	PPP	C	IPCPの処理でエラーが発生した場合、show interfacesコマンドで表示されるPPPのエラー要因が、その直前のプロトコルでのエラー要因を表示することがある問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
10	IPv4	C	マルチパス経路の場合、show ip cache verboseコマンドで表示されるhitsカウントが実際のヒット数より1多くカウントされる問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15	Ver.8.2.19以降
11	表示系	C	装置の再起動後、snmp-agent mib-2 ifindexコマンドを設定していないにもかかわらず、ifIndexが10001以上の値となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 実際の運用で発生することはほとんどありません。 MIB表示上の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
12	IPv4	C	show ip cache verboseコマンドで表示されるhitsカウントが3分毎に0にクリアされる問題を修正しました。 <回避策> 統計情報の表示カウンタ問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15	Ver.8.2.19以降
13	IPsec	B	1つのIKEポリシーを複数のIPsecポリシーで使用する設定にした場合に、IKEのログの表示内容が異常となったり、リブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 同時に２つのPh2ネゴシエーションを行っている状態でIKE-SAが削除されると、現象が発生する可能性があります。 <回避策> 1つのIKEポリシーに対しては、1つのIPsecポリシーのみを使用してください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
14	TrafficFilter	B	ダイナミックフィルタ使用時に、極まれにパケットが廃棄される場合がある問題を修正しました。パケット廃棄発生時には、ドメイン設定を行っていないにも関わらず、イベントログに名前解決に失敗したログ(FLT.016)が表示されます。 <回避策> 問題発生の確率が極めて低いため、実際の運用ではほとんど発生することはありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
15	表示系	C	パケットダンプの表示サイズが時刻,改行コード等を含め、512文字を超える場合、指定したサイズまで表示されない問題を修正しました。 <回避策> パケットダンプ時の表示上の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降

16 OSPFv2	B	OSPFv2にてDDパケット送信時に、LSAが異常、または応答がタイムアウトした場合、100byte程度(LSAサイズに依存)のメモリ解放漏れが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> 通常の運用時に発生することはほとんどありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
17 OSPFv2	B	OSPFv2にてNSSA BRでは、originate-defaultの設定の有無にかかわらずデフォルトルートの広告を行いますが、originate-defaultを設定し、ルーティングテーブルにデフォルトルートが存在しない場合、NSSAのエリアにデフォルトルートの広告が行われない問題を修正しました。 <回避策> NSSA BRでNSSA以外のエリアにデフォルトルートを再配信する場合には、redistributeコマンドを使用してください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
18 OSPFv2	B	OSPFv2にてoriginate-default設定時、OSPFのデフォルトルートが存在している場合に、デフォルトルートを不要に再配信してしまう問題を修正しました。 <回避策> originate-defaultコマンドを使用せず、redistributeコマンドを設定してください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
19 表示系	C	以下の電源関連TRAPの出力順序が正しくない問題を修正しました。 [修正前] ・電源OFFの電源ユニット挿入時 picoPowerSupplyFault -> picoPowerSupplyInserted ・電源OFFの電源ユニット抜去時 picoPowerSupplyRestoration -> picoPowerSupplyRemoved [修正後] ・電源OFFの電源ユニット挿入時 picoPowerSupplyInserted -> picoPowerSupplyFault ・電源OFFの電源ユニット抜去時 picoPowerSupplyRemoved -> picoPowerSupplyRestoration <回避策> TRAP出力のみの問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
20 SNMP	C	電源モジュール二重化構成時、電源がOFFになっている電源モジュールを抜去してもpicoPowerSupplyRestorationのトラップが発生しない問題を修正しました。 <回避策> picoPowerSupplyRemovedのTRAPは発生するため、運用に影響はありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
21 表示系	C	装置温度が障害発生/復旧の閾値を超えた後も、5秒間それまでの状態を維持したままとなる問題を修正しました。 <回避策> 5秒後に状態が変更されるので、運用に問題はありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
22 NetMon	B	ネットワークモニタのwatch-groupを128個以上登録している場合に、128個目以降に登録されたwatch-groupで発生したトラップが、ネットワーク監視装置側で不正なイベントとして検出される問題を修正しました。 <回避策> TRAP出力の問題であるため、通信には影響ありません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
23 SNMP	B	SNMPのgetBulkRequestに含まれるmax-repetitionsまたはnon-repeatersの値が128を超える場合、応答パケットが不正となる問題を修正しました。 <回避策> max-repetitionsおよび、non-repeatersを128以下で使用してください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
24 SNMP	B	getBulkRequestに対する応答メッセージのサイズが大きい場合、処理に時間がかかり、装置がリブートする場合がある問題を修正しました。 <回避策> snmp-agent message-sizeはデフォルト値を使用してください。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降
25 SNMP	C	snmp-agent message-sizeコマンドのサイズのヘルプにデフォルト値が表示されない問題を修正しました。 <回避策> コマンドのヘルプ表示の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.1.15以前	Ver.8.2.19以降

■Ver.8.1 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	表示系	C	svintr-configコマンドを実行し、強制ログアウトした際にプロンプトが２つ表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
2	表示系	C	コンフィグモードからexitした場合に、コンフィグモードのプロンプトが表示されてしまう問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
3	Ethernet	C	Ethernetのデバイスコンフィグモードで、no shutdown状態時に再度no shutdownコマンドを実行すると、デバイスがリセットされる問題を修正しました。 <回避策> デバイスコンフィグモードでのno shutdown状態時に、再度no shutdownコマンドを実行しないでください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
4	Ethernet	C	各SW-HUBインタフェースをauto/autoに設定した状態で、インタフェースがdownした場合、各SW-HUBインタフェースのduplex表示がインタフェースup時の状態であるfullと表示されるべきところ、halfと表示される問題を修正しました。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
5	Ethernet	B	各Ethernetインタフェースを10M/Fullに固定設定した場合、通信中にケーブルの抜き挿しを行うと、その後パケットの受信ができなくなる場合がある問題を修正しました。 <回避策> 通信中のケーブル挿抜は行わないで下さい。 通信中のケーブル挿抜により受信不可となった場合には、一旦通信を停止することでその後通信が復旧します。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
6	AAA	C	以下のコマンドの統計情報において、2147483647を超えるとマイナス値が表示される項目がある問題を修正しました。 ・show aaa statistics ・show radius statistics ・show dot1x statistics detail <回避策> 通信中のケーブル挿抜は行わないで下さい。 通信中のケーブル挿抜により受信不可となった場合には、一旦通信を停止することでその後通信が復旧します。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
7	IPsec	B	ike policyにike proposalを4個登録し、ネゴシエーションを行った後にshow running-configコマンドを実行すると、ike policyの出力に余分な文字が出力される問題を修正しました。 この状態でコンフィグ保存を行うと起動時にコマンドがエラーとなり設定が行われません。 <回避策> ike policyへのプロポーザル登録は3個までにしてください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
8	Bootstrap	B	以下のコマンドの先頭に"!"を付けコメント文としてもコメントが有効とならず、コマンドが実行されてしまう問題を修正しました。 ・! boot source-address ・! boot entry ・! hostname ・! timezone ・! terminal speed ・! boot connector-type <回避策> 上記コマンドはコメント文にしないでください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
9	SNMP	C	ipRouteDestのgetnextを行う場合に、インデックスを10.0.0のように4byteより短い値を設定すると、省略した分の次の値が取得される問題を修正しました。 例) 10.1.0.0/24 10.2.0.0/24 20.1.0.0/24 上記の経路が存在する状態でgetnext ipRouteDest 10.0 を設定すると、本来、10.1.0.0が取得されるべきところ、20.1.0.0が取得されます。 <回避策> MIB get時の問題のため、通信に影響はありません。インデックスは4byte分設定してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
10	SNMP	C	ipRouteDest.0.0.0.0をGetすると、noSuchNameを返し、MIB取得ができない問題を修正しました。 <回避策> MIB get時の問題のため、通信に影響はありません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
11	SNMP	C	ネットワーク監視装置から、SNMPv2cでsysNameのIndex値を1にして(sysName.1) GetRequestを行うと、noErrorではなくnoSuchNameで応答が返る問題を修正しました。 <回避策> MIB get時の問題のため、通信に影響はありません。SNMPv1を使用してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
12	SNMP	C	以下のMIBはaccessible-notify/not-accessibleにもかかわらず、getできてしまう問題を修正しました。 [MIB] [アクセス] dot3CollCount not-accessible vrrpTrapPacketSrc accessible-notify vrrpTrapAuthErrorType accessible-notify <回避策> MIB get時の問題のため、通信に影響はありません。該当MIBをgetしないでください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降

13	PPP	B	encapsulation種別がPPPのインタフェースにおいて、ppp bindingを設定済みで、且つ対応するppp profile が無い場合、該当インタフェースで通信を行うと、ppp bindingの設定がインタフェース名に変更されてしまう問題を修正しました。 <回避策> ppp profile,ppp bindingを正しく設定した状態で通信を行ってください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
14	IPv6	B	IPv6スタティックルートがマルチパスになっている場合、一方のdistanceのみ変更すると、もう一方のdistanceも変更される問題を修正しました。 <回避策> 発生した場合は、clear ipv6 routeを実行してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
15	NTP	B	SNTPクライアントを設定し、装置を再起動した場合、1回目のリクエストが送信されない問題を修正しました。 <回避策> リトライ設定を行ってください。リトライにより復旧します。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
16	NAT	C	NAPT範囲外の通信もper-addressでカウントされてしまう場合がある問題を修正しました。 show ip napt recordコマンドでoverflowと表示されても実際には通信可能となるため、表示のみの問題となります。 <回避策> 表示上の問題のため、実際の通信には影響しません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
17	TFTP	B	TFTPでファイル取得中に他のログインユーザが"svintr-config" で強制的にコンフィグモードに移行すると、コンフィグモードプロセスが停止してしまい、その後コンフィグができない状態となる場合がある問題を修正しました。 <回避策> TFTP実行中に"svintr-config"を実行しないでください。	Ver.8.0.65	Ver.8.1.15以降
18	IPv6	B	ipv6 address auto-config設定時、RSの再送回数が1回少ない問題を修正しました。 <回避策> ipv6 enableコマンドを設定後、ipv6 address auto-configを設定してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
19	DHCPv6	B	DHCPv6にてアドレスがタイムアウトしINVLALIDとなると、その後Renewされても状態がINVALIDのままとなる問題を修正しました。 <回避策> DHCPv6サーバで設定するvalid lifetime の値を無限大もしくは、preferred lifetime より十分大きな値に設定してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
20	IPsec	B	6-over-4 のIPsec通信を行うと、MSS調整を物理インタフェースに行った場合、MSS調整が行われない場合がある問題を修正しました。 <回避策> MSS調整はTunnelインタフェースで行ってください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
21	IPsec	B	4-over-6 Tunnelを設定し、そのTunnelをIPsecトランスポートモードで暗号化すると正常に通信が行われない問題を修正しました。 <回避策> IPsecトンネルモードを使用してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
22	OSPFv3	B	OSPFv3使用時、インタフェースのリセットまたは、クリアを実行した場合、OSPFv3の一部の経路の学習に時間がかかる場合がある問題を修正しました。 <回避策> インタフェースのリセットまたは、クリアは使用せず、インタフェースのshutdown/no shutdownを使用してください。 インタフェースのリセットまたは、クリアを実行した場合、clear ipv6 ospf processを実行してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
23	MP-BGP	B	BGP4において未サポートのケーパビリティを受信した場合、neighbor receive-capability overrideを設定していてもBGPセッションが確立できない問題を修正しました。 <回避策> 接続できない場合は、相手装置のケーパビリティの設定を変更してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
24	Ethernet	B	IXのspeed/duplexがauto/auto設定時、対向装置がauto/固定の場合リンクアップしない場合がある問題を修正しました。 <回避策> IXがauto/auto設定の場合、対向装置もauto/autoに設定してください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
25	SNMP	C	sysDescr MIBを取得すると、取得した内容にプロダクト名が記述されない問題を修正しました。 <回避策> MIB get時の問題のため、通信に影響はありません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
26	IPsec	B	IPsecマニュアルキー同士でESP認証の有無が異なる設定で対向させた場合、リブートが発生する問題を修正しました <回避策> 正しい設定を行うことで問題は発生しません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
27	Bootstrap	B	ネットワークBOOT時に他の装置からロングパケットを 4 パケット以上受信するとタイムアウトが発生し、その後の起動時にリブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> ネットワークブート時はTFTP以外のパケットは受信しないようにしてください。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降
28	RouteMap	B	BGP4におけるroute-mapのset as-path prepend(no コマンド含む) コマンド設定時や、既にset as-path prepend コマンドが設定されたコンフィグによりIXを起動した場合、IXでリブートや装置スタックが発生する場合がある問題を修正しました。 <回避策> set as-path prepend(no コマンド含む) コマンド未使用時では問題は発生しません。	Ver.8.0.65以前	Ver.8.1.15以降

■Ver.8.0 ソフトウェアで改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象バージョン	修正バージョン
1	VRRPv2	C	VRRPのイベントログVRRP_20はTTL異常を表しますが、ネットワーク監視装置での出力メッセージがチェックサムエラーとなることがある問題を修正しました。 <回避策> ELSメッセージ表示の問題のため、実際の運用には問題ありません。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
2	OSPFv2	B	OSPFv2にてNSSA BRでBackBone側のルータが広告したデフォルトルートを受信している時に、NSSA内に広告するType-7LSAにForwarding Addressが設定されてしまう問題を修正しました。 本問題により、NSSA内の他のNSSA BRでないルータがデフォルトルートを広告している場合、経路計算が正しく行われない場合があります。 <回避策> タイミングに依存して発生する問題であり、通常の運用時にはほとんど発生しません。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
3	OSPFv3	B	OSPFv3動作時に、装置が高負荷の状態で外部経路が削除された場合、リブートが発生する可能性がある問題を修正しました。 <回避策> タイミングに依存して発生する問題であり、通常の運用時にはほとんど発生しません。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
4	DHCPv4	C	show ip dhcp profileコマンドを実行し、moreで表示が停止状態のままLeaseTimeが経過した後、表示を続けるとBoundTimeがそれまでの時間が加算された値となる問題を修正しました。 <回避策> 再度show ip dhcp profileコマンドを実行することで正しい値を表示します。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
5	アクセスリスト	B	オフセット指定のMACアクセスリストを使用している場合に、アクセスリストのキャッシュオーバーフローが発生すると"オフセット指定を使用したエントリ数　X 28byte"のメモリリークが発生する問題を修正しました。 <回避策> MACアクセスリストのオフセット指定を使用しないでください。または、オーバーフローが発生しないようにキャッシュサイズを増やしてください。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
6	アクセスリスト	B	オフセット指定のMAC ACLを複数のフィルタに適用した場合、異常なキャッシュが作成されることがある問題を修正しました。 ・設定例 access-list 1 deny src any dest any offset 12 2 1234 access-list 2 deny src any dest any offset 12 2 2345 access-list 3 permit src any dest any filter 1 1 in filter 2 2 in filter 3 3 in <回避策> 余分なキャッシュが作成されるだけで動作に影響はありません。また、複数のアクセスリスト指定がある場合は、1つのACLに設定し、フィルタに適用してください。 ・設定例 access-list 1 deny src any dest any offset 12 2 1234 access-list 1 deny src any dest any offset 12 2 2345 access-list 1 permit src any dest any filter 1 1 in	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降
7	NAT	B	PPPoEインタフェースをno auto-connectで使用しており、そのインタフェース上にダイナミックNAT,NAPTを設定していると、発呼パケットに対する応答パケットの受信ができない問題を修正しました。 <回避策> 問題が発生時しても、再送により正常にリンクが確立し通信が行えるため、影響はほとんどありません。	Ver.8.0.60	Ver.8.0.65以降

■MACアドレス起動不可問題対処版で改善された問題

項	機能	重要度	概要	対象ソフトウェアバージョンと修正Bootstrapバージョン
1	Bootstrap	A	ルータに以下のMACアドレスが付与されている場合、ルータが正常に起動せず、ルータとして動作できない問題を修正しました。(MACアドレスの先頭2ビット目が"1"の場合) ・問題発生MACアドレス 4x:xx:xx:xx:xx:xx 5x:xx:xx:xx:xx:xx 6x:xx:xx:xx:xx:xx 7x:xx:xx:xx:xx:xx Cx:xx:xx:xx:xx:xx Dx:xx:xx:xx:xx:xx Ex:xx:xx:xx:xx:xx Fx:xx:xx:xx:xx:xx <回避策> 該当MACアドレスの装置を対処前のソフトウェアでバージョンダウンする場合に発生します。旧バージョンにバージョンダウンして利用する場合は、対処版ソフトウェアを入手してから実施してください。 <補足> 2019年6月以前に製造した装置では本問題は発生しません。	ソフトウェアリスト